

令和 2 年度 業務実績等報告書 別冊 1

小項目別の業務実績及び自己評価

目 次

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 県立病院が担うべき医療等の提供

(1) 地域医療の提供	1
(2) 高度・専門医療の提供	12
(3) 災害医療等の提供	24
(4) 認知症の専門医療の提供	27
(5) 介護サービスの提供	30

2 地域連携の推進

(1) 地域医療構想への対応	33
(2) 地域包括ケアシステムの推進	36
(3) 地域の保健・福祉関係機関等との連携の推進	42

3 医療従事者の養成と専門性の向上

(1) 県内医療に貢献する医師の確保・養成	46
(2) 機構職員の養成	49
(3) 県内医療技術者の技術水準の向上への貢献	54
(4) 信州木曽看護専門学校の運営	60

4 医療の質の向上に関すること

(1) より安全で信頼できる医療の提供	63
(2) 医療等サービスの一層の向上	68
(3) 先端技術の活用	72
(4) 信州大学等との連携	75
(5) 医療に関する研究及び調査の推進	78

第2	業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置	
1	業務運営体制の強化	82
2	働き方改革への対応	87
3	職員の勤務環境の向上	91
第3	予算（人件費の見積りを含む。）、収支計画及び資金計画	
1	経常黒字の維持	96
2	経営基盤の強化	
	（1）収益の確保	101
	（2）費用の抑制	111
第4	その他業務運営に関する事項	
1	コンプライアンスの推進と適切な情報管理	118
2	施設整備及び医療機器に関する事項	121

◎ 評定区分

評定区分	判断の目安となる業務実績
S	年度計画を大幅に上回って達成している（定量的目標においては年度計画値の120%以上）
A	年度計画を達成している（定量的目標においては年度計画値の100%以上120%未満）
B	年度計画を下回っており、改善を要する（定量的目標においては年度計画値の80%以上100%未満）
C	年度計画を大幅に下回っており、抜本的な改善を要する（定量的目標においては年度計画値の80%未満）

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 県立病院が担うべき医療等の提供

(1) 地域医療の提供

〔自己評定〕 A

〔自己評定の理由〕

信州医療センター、阿南病院及び木曽病院では、地域の医療需要に応じた初期・二次医療サービスを提供するとともに、地域の救急病院として救急患者の受入れを行った。また、地域において各病院が担うべき在宅医療（訪問診療等）や各種検診業務についても積極的に実施した。

信州医療センターは、在宅医療において24時間365日緊急連絡対応体制をとり、患者の状況に応じた必要時の緊急訪問を積極的に行った。また、産科医療に関しては、須坂市と連携した妊産婦をサポートして産後うつを予防する「須坂モデル」の取り組みなど、地域で安心して子育てができる環境づくりのための産後ケア事業を実施した。

木曽病院は、急性期医療を担う木曽郡内唯一の病院として、救急告示医療機関、災害拠点病院、へき地医療拠点病院等の指定を受け、24時間365日体制で救急医療を提供した。また、在宅療養中の患者ニーズに対応するため、在宅療養支援病院の施設基準を満たしたことにより、緊急時の連絡体制並びに24時間往診及び24時間訪問看護の提供が可能な体制を確保した。また、医師・看護師・薬剤師等によるへき地巡回診療を定期的を実施し、無医地区の医療の提供に貢献した。

阿南病院は、外来診療体制の充実に努めるとともに、令和2年4月から診療所の医師が不在となった天龍村へ巡回診療を行った。また、常勤整形外科医の不在を複数の非常勤医師による診療で補い、地域のニーズに応えた。認知症なんでも相談室では、認知症を地域で支える体制づくりに向け「認知症カフェ」等の運営や、認知機能障害の疑いのある方へコンサルテーションを行い、専門医師による診療へつなげた。

こども病院は、地域医療支援病院として地域の医療機関と連携し、成人を対象とした放射線治療等により、高度医療機器の共同利用を推進した。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績							
		病院	評定	取組結果及び取組の効果					
第 1 1(1) 1	ア 地域医療 各病院は、地域の医療需要に応じた診療体制を整備するとともに、診療体制の充実を図る。	信州	B						
				項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比
				時間外救急患者数	4,715 人	－	－	8,456 人	55.8%
				救急車受入台数	1,482 台	－	－	1,796 台	82.5%
				手術件数	1,683 件	－	－	1,739 件	96.8%
			・ 地域の救急病院として、引き続き救急医療の提供を行った。						
			・ 新型コロナウイルス感染拡大に伴い受診控えがみられ、時間外救急患者数、救急車受入台数が軒並み減少した。時間外の救急患者数は特に休日に減少が著しく、令和 3 年 1 月は前年比42%となった。						
2	同上	駒ヶ根	B						
				項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比
				時間外救急患者件数	272 件	－	－	292 件	93.2%
				措置入院件数	20 件	－	－	26 件	76.9%
							・ 第 2 期信州保健医療総合計画において、精神科救急の常時対応施設として位置づけられており、24時間365日重症精神科急性期患者の受入れを行った。		
			・ 時間外救急患者件数、措置入院件数は新型コロナウイルス感染症の影響で減少した。						
			・ 県外の措置入院を 2 名受入れた。						

3

同上

阿南

B

項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比
時間外救急患者数	932 人	－	－	1,645 人	56.7%
救急車受入台数	250 件	－	－	308 件	81.2%
ドクターへリ受入台数	1 件	－	－	4 件	25.0%
手術件数	71 件	－	－	115 件	61.7%

・引き続き、急性期から回復期、慢性期に至るまで幅広く患者層を受入れ、救急、訪問、へき地診療、施設の後方支援等を担った。2年度は新型コロナウイルス感染症の影響を受け、時間外患者、救急車の受入ともに減少した。また、常勤の整形外科医が不在になったことにより手術件数も大きく減少となった。

項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年比
小児科 日曜診療	診療日数	12 日	－	13 日	92.3%
	患者数	98 人	－	162 人	60.5%
	診療収入	873,070 円	－	1,399,430 円	62.4%

・患者の利便性・安心感の向上と地域からの信頼感の醸成を図るため、毎月第1日曜日の小児科日曜診療を実施し住民のニーズに応えた地域医療を提供した。しかし、小児科は新型コロナウイルス感染症の影響を特に大きく受けており、日曜診療の患者数も減少した。

項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年比
人間ドック	212人	－	－	213人	99.5%
生活習慣病予防検診	256人	－		269人	95.2%
脳ドック受診者数（フル、シンプル、オプション）	73人	－		73人	100.0%

・全体的な受診者は新型コロナウイルス感染症の影響により受入の一時中止もあって若干の減少となった。

4	同上	木曾	B	<table><tr><th>項 目</th><th>実 績</th><th>年度目標</th><th>対目標比</th><th>前年度実績</th><th>対前年度比</th></tr><tr><td>時間外救急患者数</td><td>2,784 人</td><td>－</td><td>－</td><td>4,447 人</td><td>62.6%</td></tr><tr><td>救急車受入台数</td><td>972 件</td><td>－</td><td>－</td><td>949 件</td><td>102.4%</td></tr><tr><td>ドクターヘリ受入台数</td><td>0 件</td><td>－</td><td>－</td><td>0 件</td><td>－</td></tr><tr><td>手術件数</td><td>536 件</td><td>－</td><td>－</td><td>764 件</td><td>70.2%</td></tr></table> ・急性期医療を担う木曾郡唯一の病院として、救急告示医療機関、災害拠点病院、へき地医療拠点病院等の指定を受け、24時間365日体制で全診療科がオンコール体制を敷き、救急医療を提供した。	項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	時間外救急患者数	2,784 人	－	－	4,447 人	62.6%	救急車受入台数	972 件	－	－	949 件	102.4%	ドクターヘリ受入台数	0 件	－	－	0 件	－	手術件数	536 件	－	－	764 件	70.2%												
項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																																									
時間外救急患者数	2,784 人	－	－	4,447 人	62.6%																																									
救急車受入台数	972 件	－	－	949 件	102.4%																																									
ドクターヘリ受入台数	0 件	－	－	0 件	－																																									
手術件数	536 件	－	－	764 件	70.2%																																									
5	同上	こども	B	<table><tr><th>項 目</th><th>実 績</th><th>年度目標</th><th>対目標比</th><th>前年度実績</th><th>対前年度比</th></tr><tr><td>救急患者数</td><td>3,199 人</td><td>－</td><td>－</td><td>3,980 人</td><td>80.4%</td></tr><tr><td>救急車受入台数</td><td>271 件</td><td>－</td><td>－</td><td>366 件</td><td>74.0%</td></tr><tr><td>ドクターヘリ受入台数</td><td>16 件</td><td>－</td><td>－</td><td>40 件</td><td>40.0%</td></tr><tr><td>ドクターカー出動回数</td><td>182 件</td><td>－</td><td>－</td><td>253 件</td><td>71.9%</td></tr><tr><td>コンパクトドクターカー 出動回数</td><td>50 件</td><td>－</td><td>－</td><td>76 件</td><td>65.8%</td></tr><tr><td>手術件数</td><td>1,683 件</td><td>－</td><td>－</td><td>1,685 件</td><td>99.9%</td></tr></table> (ドクターヘリ受入台数：ピックアップ含む) ・24時間の救急担当医配置などの救急医療体制をとる中で、3,199人の救急患者の受入や、ドクターカー（コンパクトドクターカーを含む）232回の出動を行い、長野県の小児高度救急医療及び地域小児救急の後方支援機能を果たした。 ・コンパクトドクターカーを「送り搬送」を中心に運用し、病院間連携及び搬送事業体制の充実・強化が図られた。 ・新型コロナウイルス感染症の影響から、救急患者が大幅に減少した。	項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	救急患者数	3,199 人	－	－	3,980 人	80.4%	救急車受入台数	271 件	－	－	366 件	74.0%	ドクターヘリ受入台数	16 件	－	－	40 件	40.0%	ドクターカー出動回数	182 件	－	－	253 件	71.9%	コンパクトドクターカー 出動回数	50 件	－	－	76 件	65.8%	手術件数	1,683 件	－	－	1,685 件	99.9%
項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																																									
救急患者数	3,199 人	－	－	3,980 人	80.4%																																									
救急車受入台数	271 件	－	－	366 件	74.0%																																									
ドクターヘリ受入台数	16 件	－	－	40 件	40.0%																																									
ドクターカー出動回数	182 件	－	－	253 件	71.9%																																									
コンパクトドクターカー 出動回数	50 件	－	－	76 件	65.8%																																									
手術件数	1,683 件	－	－	1,685 件	99.9%																																									

				・手術件数については、2度の緊急事態宣言下で延期等を繰り返したが、前年とほぼ同数まで回復した。							
6	【在宅医療件数（訪問診療・訪問看護・訪問リハ）】 (単位：件)			信州	A						
	病院名	平成30年度実績	令和2年度目標			項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比
	信 州	7,588	8,260			訪問診療	238 件	260 件	91.5%	259 件	91.9%
						訪問看護	4,430 件	4,500 件	98.4%	4,240 件	104.5%
						訪問リハビリ	4,479 件	3,500 件	128.0%	4,330 件	103.4%
						計	9,147 件	8,260 件	110.7%	8,829 件	103.6%
						・引き続き、必要な在宅医療の提供を行った。 ・新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、面会制限があるため在宅での看取りを希望する患者が増加し、在宅看取り件数が21件増加した。（元年度10件）					
7	同上 (単位：件)			駒ヶ根	A						
	病院名	平成30年度実績	令和2年度目標			項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比
	駒ヶ根	1,681	1,920			訪問看護	1,932 件	1,920 件	100.6%	1,982 件	97.5%
	・職員1人減の中、目標を達成した。										

8	阿南病院及び木曽病院は、関係機関と連携し在宅医療を提供する中で、地域包括ケアシステムの中核としての役割を果たす。 【在宅医療件数（訪問診療・訪問看護・訪問リハ）】（単位：件） <table><tr><td>病院名</td><td>平成30年度実績</td><td>令和2年度目標</td></tr><tr><td>阿 南</td><td>2,293</td><td>3,108</td></tr></table>	病院名	平成30年度実績	令和2年度目標	阿 南	2,293	3,108	阿南	A	<table><tr><td>項 目</td><td>実 績</td><td>年度目標</td><td>対目標比</td><td>前年度実績</td><td>対前年度比</td></tr><tr><td>訪問診療</td><td>313 件</td><td>－</td><td>－</td><td>192 件</td><td>163.0%</td></tr><tr><td>訪問看護</td><td>2,963 件</td><td>3,108 件</td><td>95.3%</td><td>1,006 件</td><td>294.5%</td></tr><tr><td>訪問リハビリ</td><td>843 件</td><td>－</td><td>－</td><td>879 件</td><td>95.9%</td></tr><tr><td>訪問薬剤指導</td><td>28 件</td><td>－</td><td>－</td><td>27 件</td><td>103.7%</td></tr><tr><td>計</td><td>4,147 件</td><td>3,108 件</td><td>95.3%</td><td>2,104 件</td><td>197.1%</td></tr></table> ・地域医療総合支援センターを中心に、訪問診察、看護、リハビリ、服薬指導等を積極的に実施し、在宅医療の充実を図った。今年度から訪問看護ステーションさくらを開設したことにより、訪問看護の件数が特に大きく増加した。また、天龍村診療所の医師が不在になったため天龍村への訪問診療が増加となった。	項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	訪問診療	313 件	－	－	192 件	163.0%	訪問看護	2,963 件	3,108 件	95.3%	1,006 件	294.5%	訪問リハビリ	843 件	－	－	879 件	95.9%	訪問薬剤指導	28 件	－	－	27 件	103.7%	計	4,147 件	3,108 件	95.3%	2,104 件	197.1%
病院名	平成30年度実績	令和2年度目標																																												
阿 南	2,293	3,108																																												
項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																																									
訪問診療	313 件	－	－	192 件	163.0%																																									
訪問看護	2,963 件	3,108 件	95.3%	1,006 件	294.5%																																									
訪問リハビリ	843 件	－	－	879 件	95.9%																																									
訪問薬剤指導	28 件	－	－	27 件	103.7%																																									
計	4,147 件	3,108 件	95.3%	2,104 件	197.1%																																									
9	同上（単位：件） <table><tr><td>病院名</td><td>平成30年度実績</td><td>令和2年度目標</td></tr><tr><td>木 曽</td><td>4,927</td><td>5,000</td></tr></table>	病院名	平成30年度実績	令和2年度目標	木 曽	4,927	5,000	木曽	A	<table><tr><td>項 目</td><td>実 績</td><td>年度目標</td><td>対目標比</td><td>前年度実績</td><td>対前年度比</td></tr><tr><td>訪問診療</td><td>552 件</td><td>600 件</td><td>92.0%</td><td>712 件</td><td>77.5%</td></tr><tr><td>訪問看護</td><td>4,169 件</td><td>3,800 件</td><td>109.7%</td><td>3,957 件</td><td>105.4%</td></tr><tr><td>訪問リハビリ</td><td>840 件</td><td>600 件</td><td>140.0%</td><td>769 件</td><td>109.2%</td></tr><tr><td>計</td><td>5,561 件</td><td>5,000 件</td><td>111.2%</td><td>5,438 件</td><td>102.3%</td></tr></table> ・令和2年7月より在宅療養中の患者の求めに応じられるよう在宅療養支援病院となり緊急時の連絡体制並びに24時間訪問看護の提供が可能な体制を確保した。 ・地域の高齢化及び住宅でのターミナルケア等の患者のニーズに対応するため、24時間365日訪問体制の維持等、在宅医療を積極的に展開した。	項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	訪問診療	552 件	600 件	92.0%	712 件	77.5%	訪問看護	4,169 件	3,800 件	109.7%	3,957 件	105.4%	訪問リハビリ	840 件	600 件	140.0%	769 件	109.2%	計	5,561 件	5,000 件	111.2%	5,438 件	102.3%						
病院名	平成30年度実績	令和2年度目標																																												
木 曽	4,927	5,000																																												
項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																																									
訪問診療	552 件	600 件	92.0%	712 件	77.5%																																									
訪問看護	4,169 件	3,800 件	109.7%	3,957 件	105.4%																																									
訪問リハビリ	840 件	600 件	140.0%	769 件	109.2%																																									
計	5,561 件	5,000 件	111.2%	5,438 件	102.3%																																									

10	【在宅医療件数（訪問診療・訪問看護・訪問リハ）】 (単位：件) <table><tr><td>病院名</td><td>平成 30 年 度実績</td><td>令和 2 年 度目標</td></tr><tr><td>こども</td><td>—</td><td>180</td></tr></table>	病院名	平成 30 年 度実績	令和 2 年 度目標	こども	—	180	こども	C	<table><tr><td>項 目</td><td>実 績</td><td>年度目標</td><td>対目標比</td><td>前年度実績</td><td>対前年度比</td></tr><tr><td>訪問診療 (患者数)</td><td>45 件 (7 人)</td><td>—</td><td>—</td><td>20 件 (7 人)</td><td>225.0% (100.0%)</td></tr><tr><td>訪問リハビリ (患者数)</td><td>9 件 (3 人)</td><td>—</td><td>—</td><td>9 件 (5 人)</td><td>100.0% (60.0%)</td></tr><tr><td>計</td><td>54 件 (10 人)</td><td>180 件 (—)</td><td>30.0% (—)</td><td>29 件 (12 人)</td><td>186.2% (83.3%)</td></tr></table> ・ 令和 2 年度訪問診療新規患者は 1 人、訪問リハビリテーション新規患者は 3 人。	項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	訪問診療 (患者数)	45 件 (7 人)	—	—	20 件 (7 人)	225.0% (100.0%)	訪問リハビリ (患者数)	9 件 (3 人)	—	—	9 件 (5 人)	100.0% (60.0%)	計	54 件 (10 人)	180 件 (—)	30.0% (—)	29 件 (12 人)	186.2% (83.3%)
病院名	平成 30 年 度実績	令和 2 年 度目標																																
こども	—	180																																
項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																													
訪問診療 (患者数)	45 件 (7 人)	—	—	20 件 (7 人)	225.0% (100.0%)																													
訪問リハビリ (患者数)	9 件 (3 人)	—	—	9 件 (5 人)	100.0% (60.0%)																													
計	54 件 (10 人)	180 件 (—)	30.0% (—)	29 件 (12 人)	186.2% (83.3%)																													
11	信州医療センターは、産科医療体制の充実に努めるとともに、院内助産体制の整備について検討し、木曽病院は、産科医療体制を維持する。 【分娩件数】 (単位：件) <table><tr><td>病院名</td><td>平成 30 年 度実績</td><td>令和 2 年度 目標</td></tr><tr><td>信 州</td><td>186</td><td>250</td></tr></table>	病院名	平成 30 年 度実績	令和 2 年度 目標	信 州	186	250	信州	B	<table><tr><td>項 目</td><td>実 績</td><td>年度目標</td><td>対目標比</td><td>前年度実績</td><td>対前年度比</td></tr><tr><td>分娩件数</td><td>223 件</td><td>250 件</td><td>89.2%</td><td>230 件</td><td>97.0%</td></tr></table> ・ 新型コロナウイルス感染症蔓延に伴い日本産婦人科三学会より「帰省分娩と分娩付き添いを推奨しない」との見解が発出され（令和2年4月7日）、条件付きでの里帰り分娩の受け入れとなったため、当院でも里帰り出産を制限した。 ・ 須高地域の分娩を担う施設として、引き続き産科医療体制の充実に努めた。 ・ 分娩件数は前年から大きな増減はないが、出生数が年々減少している状況の中、分娩件数を増やすための取組みを行っていく必要があり、妊娠期から育児期までの切れ目ない支援体制及び院内助産体制の整備について検討を行った。 ・ 個室、2 人部屋の整備、食事・おやつのメニューの見直しといった入院環境の充実に加え、助産師外来、母乳外来などの支援体制の充実に図り、妊産褥婦の環境向上に努めた。 ・ S N S を活用して情報を発信し、積極的な広報を行った。	項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	分娩件数	223 件	250 件	89.2%	230 件	97.0%												
病院名	平成 30 年 度実績	令和 2 年度 目標																																
信 州	186	250																																
項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																													
分娩件数	223 件	250 件	89.2%	230 件	97.0%																													

12	同上			木 曽	C						
	(単位：件)										
	病院名	平成 30 年 度実績	令和 2 年度 目標								
	木 曽	105	108								
13	同上			こ ど も	B						
	(単位：件)										
	病院名	平成 30 年 度実績	令和 2 年度 目標								
	こども	295	300								
14	【令和 2 年度に推進する事項】 ・産後の母親のメンタルヘルスを向上させる「須坂モデル」の普及促進			信 州	S	・産後ケア事業の実施状況					
</											

15	【令和２年度に推進する事項】 ・常勤医師の確保等による診療体制の充実	阿南	A	・内科は常勤医が１人増え５人体制となり、また引き続き常勤外科医を配置し、通常診療のほか、施設診療、公衆衛生活動も積極的に行い診療体制の充実が図られた。 ・常勤整形外科医が不在となったが、非常勤医師により週３日の診療を行い地域の医療ニーズに応えた。また、泌尿器科外来について、引き続き愛知医科大学からの非常勤医師による月２回の診療を継続した。					
16	【令和２年度に推進する事項】 ・地域医療支援病院として地域の医療機関との連携を推進	こども	A	・地域の医療機関と連携し、成人を対象とした放射線治療を拡充し、高度医療機器の共同利用を図った。					
				項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比
				放射線治療紹介人数 (延べ)	66人	－	－	65人	101.5%
				放射線治療算定件数 (延べ照射回数及び 治療計画数)	2,048件	－	－	1,994件	102.7%
				リニアック稼働額 (成人及び小児)	31,044千円	－	－	31,095千円	99.8%
				(高度医療機器の共同利用件数)					
				項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度	対前年度比
				リニアック	66件	－	－	65件	101.5%
				MRI	５件	－	－	５件	100.0%
				３Dモデル	24件	－	－	22件	109.1%
RI	10件	－	－	11件	90.9%				
計	105件	－	－	103件	101.9%				
・MRIについては院内の検査需要で予約枠が埋まっている状態である。 ・CT機器の入れ替え期間における当院のCT撮影について、地域の医療機関にご協力いただいた。今後、当院が協力できる場合もあるため、双方医療機関の担当者間の連携を強化す									

				る良い機会となった。 ・地域医療支援病院の指定を受け、医療連携登録制度は197医療機関（医科132・歯科65）、250人の医師（医科174・歯科76）に登録いただいている。 ・地域医療従事者に向けた研修会等は、新型コロナウイルス感染防止を考慮しWebにて開催した。医療連携登録医を対象とする研修会は開催を見送った。																																				
17	イ　へき地医療 阿南病院及び木曽病院は、へき地医療拠点病院として、救急医療体制を含めた地域住民への医療提供体制を維持するとともに、関係機関等との連携のもと、無医地区への巡回診療を行う。 へき地診療所からの要請に基づき医師を派遣する等の支援を行う。 【巡回診療実施体制】 <table><tr><td>病院名</td><td>平成 30 年度 実績</td><td>令和 2 年度 目標</td></tr><tr><td>阿　南</td><td>26 回（75 人）</td><td>26 回（75 人）</td></tr></table>	病院名	平成 30 年度 実績	令和 2 年度 目標	阿　南	26 回（75 人）	26 回（75 人）	阿 南	S	【巡回診療実施件数】 <table><tr><td>地区名</td><td>実　績</td><td>年度目標</td><td>対目標比</td><td>前年度実績</td><td>対前年度比</td></tr><tr><td>阿南町和合(日吉)</td><td>26 回 (77 人)</td><td>26 回 (75 人)</td><td>100.0% (102.7%)</td><td>26 回 (71 人)</td><td>100.0% (108.5%)</td></tr><tr><td>阿南町和合(鈴ヶ沢)</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>15 回 (32 人)</td><td>－</td></tr><tr><td>天龍村</td><td>50 回 (962 人)</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td></tr><tr><td>計</td><td>76 回 (1,039 人)</td><td>26 回 (75 人)</td><td>292.3% (1,385.3%)</td><td>41 回 (103 人)</td><td>185.4% (1,008.7%)</td></tr></table> ・無医地区（下伊那郡阿南町和合（日吉地区））において、隔週での巡回診療を提供した。（阿南町和合（鈴ヶ沢地区）は人口の減少に伴い、令和元年10月で巡回診療を終了した） ・天龍村診療所の医師の退職により、4月から無医村となった天龍村において、週1回の巡回診療を実施し、超高齢化が進み通院が困難な患者が多い天龍村民が未受診とならないように多職種で診療を行った。	地区名	実　績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	阿南町和合(日吉)	26 回 (77 人)	26 回 (75 人)	100.0% (102.7%)	26 回 (71 人)	100.0% (108.5%)	阿南町和合(鈴ヶ沢)	－	－	－	15 回 (32 人)	－	天龍村	50 回 (962 人)	－	－	－	－	計	76 回 (1,039 人)	26 回 (75 人)	292.3% (1,385.3%)	41 回 (103 人)	185.4% (1,008.7%)
病院名	平成 30 年度 実績	令和 2 年度 目標																																						
阿　南	26 回（75 人）	26 回（75 人）																																						
地区名	実　績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																																			
阿南町和合(日吉)	26 回 (77 人)	26 回 (75 人)	100.0% (102.7%)	26 回 (71 人)	100.0% (108.5%)																																			
阿南町和合(鈴ヶ沢)	－	－	－	15 回 (32 人)	－																																			
天龍村	50 回 (962 人)	－	－	－	－																																			
計	76 回 (1,039 人)	26 回 (75 人)	292.3% (1,385.3%)	41 回 (103 人)	185.4% (1,008.7%)																																			

18	同上 【巡回診療実施体制】 <table><tr><td>病院名</td><td>平成 30 年度 実績</td><td>令和 2 年度 目標</td></tr><tr><td>木 曾</td><td>24 回 (34 人)</td><td>24 回 (48 人)</td></tr></table>	病院名	平成 30 年度 実績	令和 2 年度 目標	木 曾	24 回 (34 人)	24 回 (48 人)	木 曾	B	【巡回診療実施件数】 <table><tr><td>地区名</td><td>実 績</td><td>年度目標</td><td>対目標比</td><td>前年度実績</td><td>対前年度比</td></tr><tr><td>台</td><td>9 回 (9 人)</td><td>—</td><td>—</td><td>12 回 (23 人)</td><td>75.0% (28.1%)</td></tr><tr><td>才児</td><td>12 回 (35 人)</td><td>—</td><td>—</td><td>12 回 (20 人)</td><td>100.0% (175.0%)</td></tr><tr><td>計</td><td>21 回 (44 人)</td><td>24 回 (48 人)</td><td>87.5% (91.7%)</td><td>24 回 (43 人)</td><td>87.5% (102.3%)</td></tr></table> ・ 上松町 2 地区（台、才児）への巡回診療を各地区月 1 回実施した。	地区名	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	台	9 回 (9 人)	—	—	12 回 (23 人)	75.0% (28.1%)	才児	12 回 (35 人)	—	—	12 回 (20 人)	100.0% (175.0%)	計	21 回 (44 人)	24 回 (48 人)	87.5% (91.7%)	24 回 (43 人)	87.5% (102.3%)
病院名	平成 30 年度 実績	令和 2 年度 目標																																
木 曾	24 回 (34 人)	24 回 (48 人)																																
地区名	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																													
台	9 回 (9 人)	—	—	12 回 (23 人)	75.0% (28.1%)																													
才児	12 回 (35 人)	—	—	12 回 (20 人)	100.0% (175.0%)																													
計	21 回 (44 人)	24 回 (48 人)	87.5% (91.7%)	24 回 (43 人)	87.5% (102.3%)																													
19	【令和 2 年度に推進する事項】 ・ 地域の医療、保健及び福祉医療機関との連携強化による無医地区の医療機能の充実（阿南・木曾）	阿 南	A	・ 特別養護老人ホーム等 8 施設に医師 6 人の派遣を実施 ・ 全施設で閉域通信網を通じて電子カルテサーバとアクセスし、施設診療の際に画像データ等の閲覧や処方入力を行うなどの、電子カルテでの運用を実施 ・ 診療圏の町村及び福祉施設へリハビリ指導のため、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士の派遣を実施 （令和 2 年度天龍村 集団 9 回、泰阜村 個別48回、売木村 集団23回、救護施設富草寮集団12回） ・ 乳児健診において町村保健師等と連携した発達障がい児の早期発見とフォローアップ体制の維持																														
20	同上	木 曾	A	・ 木曾郡内の診療所が当院の検査機器を共同利用して患者のCT検査、MRI検査（いずれも単純撮影のみ）等を簡便に行う仕組みを構築した。 ・ 地域包括支援センター担当者会議に毎月出席し、地域の関係機関との強化を図った。 ・ 病院・地域連携連絡会議は新型コロナウイルス感染症対策により開催できなかった。																														
21	【令和 2 年度に推進する事項】 ・ へき地診療所（木曾町みたけ診療所ほか）への代診医の派遣	木 曾	A	・ 県から準地域医療人材拠点病院の指定（4 月 1 日）を受け、令和 3 年 3 月に木曾町みたけ診療所に医師 1 名を派遣した。																														

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 県立病院が担うべき医療等の提供

(2) 高度・専門医療の提供

〔自己評定〕 A

〔自己評定の理由〕

感染症医療の提供では、感染が拡大した新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に対し、信州医療センターが、県の感染症医療の拠点病院として適切な診療を提供するとともに、医療機関、地域住民等への正しい情報提供や相談等を実施した。

また、県立病院すべてが感染者等を積極的に受け入れ、感染拡大に対応した適切な医療の提供を行った。（詳細は別冊2）

精神医療の提供では、こころの医療センター駒ヶ根が、県の精神科医療の中核病院として24時間365日体制で精神科救急医療、児童精神科、アルコール・薬物依存など多職種チームによる専門医療を提供した。依存症治療では、県から指定された「依存症専門医療機関」及び「依存症治療拠点機関」として、依存症で悩む家族のためのプログラム（CRAFT）を試行的に開始した。また、ニーズが高まっているゲーム・ネット依存症治療について体制を整備し、試行的に開始した入院治療の症例検討による振り返りを行った。また、救急外来やウォークイン患者に対しては、速やかに緊急性の評価を行い、適切な入院治療に繋げた。

高度小児医療、周産期医療の提供では、こども病院が、一般の医療機関では対応が困難な高度な小児医療の中核病院、県の総合周産期母子医療センターとしての機能を担いつつ、あたまの形外来や小児アレルギー患者に対する診療体制の充実、ニューロケア（神経治療）センターの開設など、患者のニーズに対応した先進医療を提供した。

がん診療機能の向上では、木曽病院が、地域がん診療病院として、がん相談支援センター及び緩和ケア外来等の運営に加え、歯科口腔外科の開設を進めるなどがん診療機能の充実を図り、こども病院は、諏訪マタニティークリニックと連携し、がん患者の妊孕性温存に係る卵巣組織等の凍結・保存を実施する等、各病院において、がんの治療や緩和ケア等で質の高い医療サービスの提供に努めた。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績		
		病院	評定	取組結果及び取組の効果
第1 1(2) 1	ア 感染症医療 信州医療センター及び木曽病院は、県が行う感染症対策と連携し、感染症の発生予防やまん延防止を図るとともに、感染症発生時においては、早期に適切な医療を提供する。 信州医療センターは、県の感染症医療の拠点病院として、感染症に対し適切な診療を提供するほか、感染症発生時に迅速な対応ができるよう定期的に受入訓練を実施するとともに、教育機能の拡充及び医療機関、地域住民への最新情報の発信に努める。	信州	A	・行政や他の医療機関との連携による新型コロナウイルス感染症への対応 ア 感染患者等への対応 ・信州医療センター版COVIDロードマップを策定し、感染状況の変化に対応した対策を実施した。 ・北5階感染症病棟に加え、北6階結核病棟を転用し、新型コロナウイルス感染症患者の受入れを行った。 ・感染拡大中の沖縄県からの医療協力支援要請に応じ、看護職員2人を派遣した。 ・補助金を活用した新型コロナウイルス感染症患者及び疑い患者の受入体制整備を行った。 ・ビジネス海外渡航者のためのPCR検査の実施と結果証明書の発行を開始した。 イ 感染拡大防止対策 ・一般外来と動線が異なる発熱外来を設置した。 ・正面玄関での体温測定及び問診によるトリアージを実施した。 ・感染状況に応じた面会の禁止及び制限を行った。 ・電話による再診、処方箋の発行を行った。 ・各種媒体を活用した地域住民に向けた新型コロナウイルス感染症及び当院の感染症病棟についての正しい情報を発信した。 ・福祉施設において、新型コロナウイルス感染症についての研修会を開催した。 ウ その他 ・感染症センターの機能を生かした新型コロナウイルス感染症の診療等に関する情報

				提供を行った。 ・県内医療機関及び福祉施設を対象とした電話及びメールでの相談を実施した。 ・感染者受入れ等の詳細 参照 別冊2 (p.1-No1)
2	同上	木曾	A	・第二種感染症指定医療機関として、新型コロナウイルス感染症の拡大に対応し、感染者の受入れ等を行った。 参照 別冊2 (p.6-No4)
3	【令和2年度に推進する事項】 ・海外渡航者外来での海外赴任者等に対するワクチンの予防接種及び帰国後の輸入感染症への対応	信州	A	・海外渡航者外来での海外赴任者等に対するワクチンの予防接種 令和2年度実績 48件 ・世界的な新型コロナウイルス感染症のまん延によって、海外への旅行、留学、赴任が著しく減少したため、ワクチン接種は減少した。 ・新型コロナウイルス感染症の世界的な流行に伴い、複数の国が入国者に対して求めている渡航前のPCR検査と結果証明書の発行を2020年11月から開始した。 令和2年度実績 42件 ・平日の午前中に検査を受けた場合、翌日10時までに英文の陰性証明書を発行した。
4	【令和2年度に推進する事項】 ・第一種感染症指定医療機関として集団発生等に適切に対応するため、受入訓練を実施	信州	A	・第一種感染症指定医療機関として、集団発生等に適切に対応するため、受入訓練を9回実施した。 ・新型コロナウイルス感染症による院内感染が生じた一般病院へスタッフを派遣して、現場指導や病棟内ゾーニング、PPEの着脱について指導など行った。
5	イ 精神医療 こころの医療センター駒ヶ根は、県の政策的・先進的な精神医療を担う病院として、次に掲げる医療を提供する。 ・精神科救急医療の常時対応型病院として24時間体制の精神科救急・急性期医療を行うとともに、m-E C T（修正型電気痙攣療法）等の先進的な専門医療を充実する。	駒ヶ根	A	・24時間365日、重症精神科急性期患者の受入れに対応する常時対応型施設として常に空床2床を確保し、精神保健指定医等による診療応需態勢を整備した。（国の精神科救急医療体制整備事業）また、措置入院を20人受け入れた。 ・救急外来やウォークイン患者に対して、速やかに緊急性の評価を行い、適切な入院治療に繋がった。 ・医療機関の診察時間外の緊急相談に対応する精神障がい者在宅アセスメントセンターへの相談件数は252件であった。（元年度428件） ・治療抵抗性や難治性疾患患者へのクロザピンの投薬（実人数9人）、m-E C T治療（実

	【令和２年度に推進する事項】 ・ m-E C T（修正型電気痙攣療法）治療の充実とセンター化に向けた施設改修			施件数243件）等の専門医療を提供した。 ・ 治療の充実、実施回数の増を図り、県内医療機関からの入院患者受入れるため、m-E C Tのセンター化に向けた施設改修を開始した。 ・ 令和２年４月に精神科では取組みの少ない栄養サポートチーム（N S T）稼働施設の認定を受け、糖尿病、摂食障がい患者の多職種チーム回診を開始した。
6	・ 県全域を対象とした児童・思春期、青年期の精神疾患の専門医療機能を充実させる。 【令和２年度に推進する事項】 ・ 児童・思春期、青年期までの医療提供のため専門病棟の新設に向けた検討	駒ヶ根	A	・ 児童・思春期、青年期の子どもに関するあらゆる課題に対応するため、令和６年度開設予定の「子どものこころ総合医療センター（仮称）」について、県との連携により専門病棟、専門外来、小規模デイケアの新設と人材育成に向けた検討を進めた。 ・ 子どものこころ診療センターにおいて、医師、看護師、公認心理師及び精神保健福祉士による多職種チームでの外来診療を行った。（２年度 143件、元年度 127件、前年度比16件増）また、家族支援のためのペアレントトレーニングを進めた。
7	・ アルコール・薬物・ギャンブル等多様な依存症の専門医療機能の強化や医療従事者等への研修の充実を図るほか、ゲーム依存症の診療体制を整備する。 【令和２年度に推進する事項】 ・ ゲーム依存症対応のため会議の設置、治療体制の整備 ・ ギャンブル等依存症治療プログラムの開始 ・ 依存症専門医療機関及び依存症治療拠点機関の選定	駒ヶ根	A	・ ニーズが高まっているゲーム・ネット依存症治療に向けた体制を整備し、緊急避難的・試行的に入院治療を開始するとともに、症例について研究を進めた。 ・ 多職種によるゲーム・ネット依存症治療に向けたチーム会を設置し、治療体制、家族支援、情報発信について検討した。 ・ アルコール依存に引き続き、令和２年７月に県から薬物及びギャンブル依存に係る「依存症専門医療機関」及び「依存症治療拠点機関」の選定を受け、依存症専門プログラムを充実させるとともに、関係医療機関等との連携を強化した。 ・ 令和２年１月に県から指定を受けたアルコール依存症に係る「依存症専門医療機関」及び「依存症治療拠点機関」として、依存症で悩む家族のためのプログラム（C R A F T）を試行的に開始した。
8	・ 心身喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律（平成15年法律第110号）に基づく指定入院・	駒ヶ根	A	・ 指定入院医療機関として、厚生労働省が示す医療観察法各種ガイドラインに沿い、対象者９人の社会復帰に向けた治療を進めた。 ・ 新たな入院の受入れは３人、入院処遇の終了者（退院）は３人、１日平均入院患者数は

	指定通院医療機関を運営し、同法の処遇対象者が社会復帰するために必要な医療を行う。			5.5人であった。（3月末現在：入院6人、社会復帰期1人・回復期4人・急性期1人） ・指定通院医療機関としては当院を退院後の1人の治療を進めた。 ・外部評価会議では、病棟の運営状況や処遇事例について説明し、外部委員と多面的な意見交換を行った。倫理会議では、1ヶ月間の治療や処遇の経過を説明し、外部委員からの意見を処遇に反映した。 ・地域連絡会議では、無断離院時における地区への情報伝達や警察等との連携などについて意見交換を行った。
9	ウ 高度小児医療、周産期医療 こども病院は、県における高度小児医療・総合周産期医療を担う病院として、次に掲げる医療を提供する。 ・高度小児医療の中核病院として診療機能を強化させるとともに、全県的立場で小児重症患者の医療体制を充実する。	こども	B	・参照（p.4-No.5）
10	・小児在宅医療の支援体制の充実のほか、信州大学医学部附属病院等と連携した成人移行期患者に対する継続的な医療の充実に取り組む。	こども	A	・令和2年10月1日に長野県移行期医療支援センターが信州大学医学部附属病院に開設され、県と信州大学医学部附属病院と当院が連携・協働しながら自立支援と医療支援が継続的に行われる体制構築を目指し、移行期医療支援体制検討会を10月、12月、2月に開催した。 ・患者・家族を中心に、外来だけでなく病棟看護師・療育支援部・医師・リハビリ・薬剤等、他の医療スタッフも含めたカンファレンスを行い、患者・家族の自立支援に向けた体制作りができています。令和3年4月からは当院の移行期医療支援センターを開設し、複合疾患児に対する移行支援に取り組む予定である。 ・11診療科から成人移行期支援看護外来へ依頼があった。

				(介入患者数) <table><tr><th>項 目</th><th>実績</th><th>年度目標</th><th>対目標比</th><th>前年度実績</th><th>対前年度比</th></tr><tr><td>新患</td><td>73人</td><td>－</td><td>－</td><td>19人</td><td>384.2%</td></tr><tr><td>再来（延べ）</td><td>182人</td><td>－</td><td>－</td><td>16人</td><td>113.8%</td></tr></table> ・計画していた事例報告（循環器科・血液腫瘍科・小児外科・総合小児科・看護部等）は、新型コロナウイルス感染症対策のため中止した。						項 目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	新患	73人	－	－	19人	384.2%	再来（延べ）	182人	－	－	16人	113.8%																								
項 目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																																														
新患	73人	－	－	19人	384.2%																																														
再来（延べ）	182人	－	－	16人	113.8%																																														
11	・県の総合周産期母子医療センターとして、県内産科医療機関との連携を図りながら胎児診療を含む周産期医療の維持・向上に努める。	こども	A	【高度検査機器を活用した遺伝子検査の実施】 <table><tr><th>項 目</th><th>実績</th><th>年度目標</th><th>対目標比</th><th>前年度実績</th><th>対前年度比</th></tr><tr><td>遺伝学的検査</td><td>26件</td><td>－</td><td>－</td><td>19件</td><td>136.8%</td></tr><tr><td>腫瘍関連検査</td><td>33件</td><td>－</td><td>－</td><td>47件</td><td>70.2%</td></tr><tr><td>病原体遺伝子検査</td><td>146件</td><td>－</td><td>－</td><td>310件</td><td>47.1%</td></tr><tr><td>SARS-COV2検査</td><td>52件</td><td>－</td><td>－</td><td>0件</td><td>皆増</td></tr><tr><td>FA検査</td><td>20件</td><td>－</td><td>－</td><td>0件</td><td>皆増</td></tr><tr><td>新生児マススクリーニング検査</td><td>13,874件</td><td>－</td><td>－</td><td>14,796件</td><td>93.8%</td></tr></table> ・病原体遺伝子検査が激減したが、新型コロナウイルス感染症の感染予防対策が浸透し、こどもの感染症が全国的に激減していることが原因と考えられる。 ・新生児マススクリーニング検査の総検査は少子化の影響で毎年度4～5%の件数減少を認めるが、令和2年度はコロナ禍の影響があるのか、前年度より6.2%の減少であった。 ・総検査件数13,874件のうち30件が精密検査となり、そのうち治療が必要と認められた12件は早期の治療開始に結び付けることができた。						項 目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	遺伝学的検査	26件	－	－	19件	136.8%	腫瘍関連検査	33件	－	－	47件	70.2%	病原体遺伝子検査	146件	－	－	310件	47.1%	SARS-COV2検査	52件	－	－	0件	皆増	FA検査	20件	－	－	0件	皆増	新生児マススクリーニング検査	13,874件	－	－	14,796件	93.8%
項 目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																																														
遺伝学的検査	26件	－	－	19件	136.8%																																														
腫瘍関連検査	33件	－	－	47件	70.2%																																														
病原体遺伝子検査	146件	－	－	310件	47.1%																																														
SARS-COV2検査	52件	－	－	0件	皆増																																														
FA検査	20件	－	－	0件	皆増																																														
新生児マススクリーニング検査	13,874件	－	－	14,796件	93.8%																																														

12

【令和2年度に推進する事項】
・小児神経難病治療センターの開設

こども

A

- ・令和2年10月1日付でニューロケア（神経治療）センターを開設した。
- ・神経小児科、脳神経外科、リハビリテーション科、リハビリテーション技術科、臨床検査科、薬剤部が連携して、小児神経疾患に対する新規治療を行う体制を構築し、院内外に広報した。
- ・ロボットスーツHALによる治療は継続し、治療経験について学術誌へ報告や、院外施設と検討会を開催するなどの活動を行い、治療技術のさらなる向上を図った。
- ・迷走神経刺激装置埋め込み術、バクロフェン持続髄注療法のための検査及びカテーテル埋め込み術を実施し、効果を得た。

(代表的な治療法と症例)

治療法名・症例名	実 績	年度 目標	対目標 増減	前年度 実績	対前年度 増減
バクロフェン持続髄注療法 ・周産期障害による脳性麻痺（3人、うち1人手術） ・急性脳炎症後遺症による痙縮（1人）	手術1件 トライアル4件	—	—	0件	手術1件 トライアル4件
迷走神経刺激療法 ・急性脳症後遺症による難治てんかんと症候性難治てんかん（新規2人、既存2人）	新規2件	—	—	新規1件	新規1件 累計4人を管理中

				ロボットスーツHAL療法 ・デュシャンヌ型筋ジストロフィー（2人） ・肢帯型筋ジストロフィー（1人） ・脊髄性筋萎縮症（1人） ヌシネルセン髄注療法 ・脊髄性筋萎縮症（7人）	85件	－	－	51件	34件																														
					19件	－	－	11件	8件																														
13	・小児の先制医療の推進（小児がん経験者の晩期合併症早期発見のための検診の充実）	こども	A	<table><tr><th>項 目</th><th>実 績</th><th>年度目標</th><th>対目標比</th><th>前年度実績</th><th>対前年度比</th></tr><tr><td>長期フォローアップ外来</td><td>47人</td><td>－</td><td>－</td><td>46人</td><td>102.2%</td></tr></table> ・令和2年度は長期フォローアップ外来に47人の受診があり、症状および検査所見に基づき成人科への紹介を行った。						項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	長期フォローアップ外来	47人	－	－	46人	102.2%																		
項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																																		
長期フォローアップ外来	47人	－	－	46人	102.2%																																		
14	・当院の得意分野を充実させ、最近の小児患者のニーズに対応した診療体制の構築（例：あたまの形外来）	こども	A	【あたまの形外来】 <table><tr><th>項 目</th><th>実 績</th><th>年度目標</th><th>対目標比</th><th>前年度実績</th><th>対前年度比</th></tr><tr><td>紹介先医療施設数</td><td>14件</td><td>－</td><td>－</td><td>2件</td><td>700.0%</td></tr><tr><td>患者数</td><td>232人</td><td>－</td><td>－</td><td>105人</td><td>221.0%</td></tr><tr><td>新患者数</td><td>71人</td><td>－</td><td>－</td><td>32人</td><td>221.9%</td></tr><tr><td>矯正用ヘルメット作成数</td><td>30件</td><td>－</td><td>－</td><td>12件</td><td>250.0%</td></tr></table> ・あたまの形外来は、外来日を固定したことで、県内を始め近県関連施設における認知度が上がった。その結果、紹介先医療施設数、患者数、新規患者数が増加した。 ・新規のヘルメット治療の開始は、金曜日の装具外来で行っているが、前年の12件から30						項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	紹介先医療施設数	14件	－	－	2件	700.0%	患者数	232人	－	－	105人	221.0%	新患者数	71人	－	－	32人	221.9%	矯正用ヘルメット作成数	30件	－	－	12件	250.0%
項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																																		
紹介先医療施設数	14件	－	－	2件	700.0%																																		
患者数	232人	－	－	105人	221.0%																																		
新患者数	71人	－	－	32人	221.9%																																		
矯正用ヘルメット作成数	30件	－	－	12件	250.0%																																		

			件へと増加した。しかし、新患枠および診察枠が常に満杯の状況となっており、そのため時間外での対応を余儀なくされている。今後ニーズは益々増加すると考えるが、他の診療との兼ね合いもあり検討を要する状況である。 【形成外科】 ・眼瞼下垂は、初診枠の予約待ち時間が長く、1-2年待ちである状況が問題となっていた。初診に際し、1人の患者に対し1時間半程度の時間を要する点が初診枠を増やせない原因となっていた。そのため、全国的に活動されている患者会である「眼瞼下垂の会」の代表と連絡を取り合い、当院の受診を考えている患者家族を対象とした講演会（無償）を開催し、現在初診時に行っている説明の基本部分につき講演の中で説明を行うことで実際の初診時にかかる時間を短縮し、より多くの初診患者の診察が行えるよう試みた。令和2年度は講演会を3月にWebにて開催し、25組の患者家族の参加があり、質疑応答を含め約2時間の講演を行った。この講演会を受講された患者の受け入れは令和3年9月より開始する予定である。 【アレルギー科】 <table><tr><th>項 目</th><th>実 績</th><th>年度目標</th><th>対目標比</th><th>前年度実績</th><th>対前年度比</th></tr><tr><td>食物負荷試験件数</td><td>416件</td><td>－</td><td>－</td><td>446件</td><td>93.3%</td></tr></table> ・需要の増大に伴い入院負荷試験枠を増やし、令和2年度も継続して診療を行った。新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、4～5月の件数が例年の半数以下に落ち込んだ。しかしその後に件数を回復させ、負荷試験の総件数は416件で前年の93%に減少を抑えることができた。 【周術期術前外来】 <table><tr><th>項 目</th><th>実 績</th><th>年度目標</th><th>対目標比</th><th>前年度実績</th><th>対前年度比</th></tr><tr><td>患者数</td><td>8人</td><td>－</td><td>－</td><td>2人</td><td>400.0%</td></tr></table> ・発達障害があり、手術室への入室が困難なケースに関して介入した。患者やご家族に具体的な説明や、麻酔科医と情報を共有し麻酔方法を調整することで、スムーズに入室が	項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	食物負荷試験件数	416件	－	－	446件	93.3%	項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	患者数	8人	－	－	2人	400.0%
項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																						
食物負荷試験件数	416件	－	－	446件	93.3%																						
項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																						
患者数	8人	－	－	2人	400.0%																						

				でき、一定の効果が見られている。 【薬剤師外来】 <table><tr><th>項 目</th><th>実 績</th><th>年度目標</th><th>対目標比</th><th>前年度 実績</th><th>対前年度比</th></tr><tr><td>持参薬なし面談 件数</td><td>643件</td><td>－</td><td>－</td><td>198件</td><td>324.7%</td></tr><tr><td>薬剤鑑別件数</td><td>764件</td><td>－</td><td>－</td><td>293件</td><td>260.8%</td></tr><tr><td>計</td><td>1,407件</td><td>－</td><td>－</td><td>491件</td><td>286.6%</td></tr></table> 令和元年12月から入院患者面談及び持参薬鑑別を開始している。入院される全ての患者と薬剤師による面談を行った。新型コロナウイルス感染症による入院患者数の減少に伴い、月平均鑑別件数は減少した。	項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度 実績	対前年度比	持参薬なし面談 件数	643件	－	－	198件	324.7%	薬剤鑑別件数	764件	－	－	293件	260.8%	計	1,407件	－	－	491件	286.6%
項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度 実績	対前年度比																							
持参薬なし面談 件数	643件	－	－	198件	324.7%																							
薬剤鑑別件数	764件	－	－	293件	260.8%																							
計	1,407件	－	－	491件	286.6%																							
15	エ がん医療 質の高いがん医療を提供するため、がん診療連携拠点病院との連携を強化し、がん診療機能の向上に努める。 信州医療センターは、内視鏡センターの充実強化を図り、木曽病院は、地域がん診療病院として、がん患者の診療及び相談支援体制の充実に努める。	信州	B	- 須高地域の市町村がん検診事業における対策型胃内視鏡検診の受託継続 令和2年度受託件数 312件（令和元年度 347件） - 新型コロナウイルスによる年度当初のドック受診控えの影響で内視鏡検査件数が減少 参照（p.45-No6） <table><tr><th>項 目</th><th>実 績</th><th>年度目標</th><th>対目標比</th><th>前年度実績</th><th>対前年度比</th></tr><tr><td>内視鏡検査 件数</td><td>6,316 件</td><td>8,000 件</td><td>79.0%</td><td>6,334 件</td><td>99.7%</td></tr></table>	項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	内視鏡検査 件数	6,316 件	8,000 件	79.0%	6,334 件	99.7%												
項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																							
内視鏡検査 件数	6,316 件	8,000 件	79.0%	6,334 件	99.7%																							

16	同上	木曾	S	・地域がん診療病院として、がん相談支援センターへ専従職員 1 人を引き続き配置した。 ・患者サロンは新型コロナウイルス感染症対策として、例年毎月 2 回開催していたところ、会場を変更して年 3 回の開催となった。 ・緩和ケアチームに認定看護師を引き続き専従で配置した。 ・信州大学医学部附属病院での症例検討会への定期的な参加及び信州大学がんセンターから派遣された教授による化学療法、放射線治療、緩和ケア等、病棟・外来での診療・職員への指導等、信州大学医学部附属病院との連携によりがん診療体制を強化した。 ・がんチャリティーイベント「リレーフォーライフジャパン松本」にチームとして参加予定だったが、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により開催が中止となった。 ・MSWの患者への診断時からの早期介入により、相談件数は増加した。 <table><tr><td>相談実績</td><td>実 績</td><td>年度目標</td><td>対目標比</td><td>前年度実績</td><td>対前年度比</td></tr><tr><td>がん相談支援センター</td><td>1,286 件</td><td>－</td><td>－</td><td>1,045 件</td><td>123.1%</td></tr></table>	相談実績	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	がん相談支援センター	1,286 件	－	－	1,045 件	123.1%
相談実績	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比											
がん相談支援センター	1,286 件	－	－	1,045 件	123.1%											
17	こども病院は、小児がん診療機能の向上を図るとともに、小児がん連携病院として、小児がん拠点病院と連携して診療体制の整備に努める。	こども	A	・県内で発症する全ての固形腫瘍の診療を行い、臨床研究法に基づく臨床研究に積極的に参加した。また、県外の施設で行われる新規薬剤の治験の紹介も積極的に行った。 ・次世代シーケンサーを用いた白血病の微小残存病変検出法を開発し、論文化を進めた。 ・緩和ケアチームが病棟を定期的にラウンドし、緩和ケアの実施を症例ごと具体的に検討する体制となった。さらに在宅を希望する患者および家族に、地域病院と連携して医療の提供を行える体制を構築し実践した。												

18	【令和2年度に推進する事項】 ・ピロリ菌専門外来の利用促進と検査の積極的な広報	信 州	B	・ピロリ菌抗体測定検査についての積極的広報の実施 ・新型コロナウイルスによる受診控えの影響で検査件数が減少					
				項 目	実 績	年度 目標	対目 標比	前年度 実績	対前年 度比
				健康管理センターにおける 抗体測定検査件数	68件	－	－	132件	51.5%
				ピロリ菌専門外来への紹介件数	45件	－	－	61件	73.8%
				うちピロリ菌専門外来での受診 件数	31件	－	－	42件	73.8%
19	【令和2年度に推進する事項】 ・地域がん診療病院としての診療機能を充実させるため歯科口腔外科の開設	木 曽	A	・診療機能の充実のため、歯科口腔外科の令和3年4月の開設に向け準備を進めた。 ・ワーキンググループを設置し、診療体制等について検討した。					
20	【令和2年度に推進する事項】 ・がん患者への適正な生殖医療の提供や就学・就労支援体制の構築	こ ど も	A	・小児がん治療に伴う卵巣機能不全に対して、諏訪マタニティークリニックと連携し、妊孕性温存（抗がん剤や放射線治療前の卵巣組織等を採取し凍結保存することで治療後に妊娠の可能性を残すこと）を目的とした卵巣組織保存が可能となり、体制を整備し2症例実施した。 ・院内学級から原籍校への復学支援を適宜Web会議で行った。 ・発達障害サポートセンターと協力し、患者への個別の学習支援を行った。令和2年度は、12人が学習相談サポートを利用し、相談件数は17回であった。うち、小児がん患者は1人であった。 ・ハローワークと協力し、就労支援のための個別相談と集団相談を行った。相談者は26人であり、うち個別相談は29回、集団相談利用者は7人。小児がん患者は2人であった。					

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 県立病院が担うべき医療等の提供

(3) 災害医療等の提供

〔自己評定〕 A

〔自己評定の理由〕

こころの医療センター駒ヶ根では、D P A T（災害派遣精神医療チーム）の登録機関として体制を強化するため、11月に行われた先遣隊研修に3人が参加し、先遣隊隊員に登録された。令和3年1月に、長野県からの要請を受けて新型コロナ感染のクラスターが発生した東信地域の病院へチーム員4人を派遣し、職員の精神的疲弊に対応するため面談を実施した。

木曽病院では、7月の大雨特別警報発令時に、DMAT（災害派遣医療チーム）隊を中心に情報収集を実施した。また、災害拠点病院としての機能強化のため井戸水の浄化設備の整備を進めた。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績		
		病院	評定	取組結果及び取組の効果
第1 1(3) 1	災害医療等の提供 長野県地域防災計画に基づく県立病院の役割を果たすため、木曽病院は災害拠点病院及びD M A T（災害派遣医療チーム）指定病院	信州	A	・4月3日 新規採用職員及び異動職員向けに防災についてのオリエンテーションを実施した。 ・4月29日 非常用連絡網メール配信システム「オクレンジャー」を使用し、全職員及び委託業者を対象とした非常招集及び伝達訓練（夜間想定）を実施した。

	として、こころの医療センター駒ヶ根はD P A T（災害派遣精神医療チーム）登録病院として、適時適切な医療活動を行う。 他の県立病院においては、関係機関からの要請に応じた職員の派遣や患者の受け入れ等、適切に対応する。 各病院は、災害発生時において必要な医療を確実に提供するため、電子カルテデータのバックアップのほか、災害時における医療提供体制を整備する。 【令和2年度に推進する事項】 ・災害時におけるD M A T（木曽）・D P A T（駒ヶ根）等による適時適切な医療活動			・10月28日 須坂市消防本部の指導のもと、南棟地下階、1階及び2階病棟の患者を避難させる想定で、総合消防・防災訓練を実施した。 ・災害対策マニュアルについて、防災委員会で見直しを行い、一部文言の修正やトリアーシタッグの差し替え等の改訂をした。 ・衛星携帯電話の維持管理のため、トレーニングを兼ねた動作チェックを定期的実施した。 ・大規模地震発生に備えて、院内のロッカーやスチール棚等の転倒防止対策について、次年度より順次実施していくことを決定した。 ・近隣病院との災害時における相互の患者受け入れについての協約書を締結した。（平成16年度から継続）
2	同上	駒ヶ根	S	・令和2年11月にD P A T（災害派遣精神医療チーム）先遣隊研修に3人が参加し、隊員登録した。 ・令和3年1月に新型コロナ感染クラスターが発生した東信地域の病院へチーム員4人を派遣し、職員の精神的疲弊に対応するため面談を実施した。 ・災害時における適時適切な医療活動のため、資材の点検等を行った。 ・令和3年1月に国立小諸高原病院と大規模災害時の相互応援協定を締結した。
3	同上	阿南	A	・2月に電子カルテシステム更新の入札を実施して業者を決定し、災害時の電子カルテデータのバックアップができるよう、具体的な打合せを開始した。
4	同上	木曽	A	・7月の大雨特別警報発令に伴い、DMATを中心に院内外の情報収集を実施した。 ・11月に長野県D M A T緊急自動車運転研修に2人が参加し、緊急走行や安全補助要領等の実技を学んだ。 ・11月に木曽保健福祉事務所職員を対象に開催された広域災害・救急医療情報システム

				(E M I S) 操作研修に講師として2人を派遣した。
5	同上	こ ど も	A	・災害時のBCP専用電子カルテ端末を計画通り5台配置した。有事の際に備えて、毎月1日から5日までSS-MIX2(「診療情報交換推進事業」により電子化、標準化された医療情報のパッケージウェア)による通信を行い、配置場所でのカルテ確認訓練を実施した。
6	【令和2年度に推進する事項】 ・井戸水の浄化設備を整備し災害拠点病院としての機能を強化	木 曾	A	・災害拠点病院の機能強化のため、井戸水の浄化設備の整備にあたり、水量及び水質検査を実施した。

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 県立病院が担うべき医療等の提供

(4) 認知症の専門医療の提供

〔自己評定〕 A

〔自己評定の理由〕

こころの医療センター駒ヶ根では、上伊那医療圏における「認知症疾患医療センター」を令和2年4月1日に開設し、専門相談や鑑別診断、日常生活支援を開始した。

阿南病院では、高齢者の多い当地域において、地域住民が住み慣れた場所で生活していける居場所づくりや相談から治療につなげる支援を行った。

木曽病院では、院内研修の実施等により認知症ケア加算の取得を目指すなど、認知症ケアの充実に努めた。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績		
		病院	評定	取組結果及び取組の効果

第 1 1(4) 1	認知症の専門医療の提供 こころの医療センター駒ヶ根は、地域型認知症疾患医療センターの指定に向け取り組みとともに、地元市町村、関係機関等と連携し、認知症に関する専門医療・専門相談を提供する。 【令和 2 年度に推進する事項】 ・ 認知症の専門医療・専門相談の実施及び支援体制の確立	駒 ヶ 根	A ・ 令和 2 年 4 月に県の指定を受け、上伊那圏域における認知症疾患医療センターを開設した。 <table><tr><th colspan="2">項 目</th><th>実 績</th></tr><tr><td rowspan="2">専門医療相談</td><td>電話</td><td>958 件</td></tr><tr><td>面接</td><td>607 件</td></tr><tr><td colspan="2">もの忘れ外来件数</td><td>1,981 件</td></tr><tr><td colspan="2">(うち鑑別診断)</td><td>(91 件)</td></tr><tr><td colspan="2">ラウンド件数 (延べ実施数)</td><td>189 件</td></tr><tr><td colspan="2">訪問支援 (延べ件数)</td><td>19 件</td></tr><tr><td colspan="2">ピア活動 (認知症カフェ等参画)</td><td>19 件</td></tr></table> ・ 専用電話にて当事者、家族、医療介護福祉関係者等からの認知症に関する相談対応を、専門スタッフが行った。 ・ 医師、保健師、公認心理師など多職種による「もの忘れ外来」を行い、地域包括支援センター、居宅介護事業所等への紹介など、地域における生活支援を行うため医療・介護の連携を進めた。 ・ 入院治療の必要な患者に対しては、多職種で構成される「認知症高齢者ケアサポートチーム」によるラウンドを実施し、調整、助言などを行った。 ・ 令和 2 年12月に認知症に関する知識の普及・啓発及び地域ネットワーク活動の周知を図ることを目的として、研修会をWebで開催した。(参加人数80人) ・ 令和 3 年 2 月に関係機関（認知症医療機関、行政・相談支援機関、福祉・介護に係る団体、家族の会等）との連携協議会を開催した。 ・ 駒ヶ根市が実施する「認知症初期集中支援チーム事業」に認知症認定看護師と作業療法士が参画し、相談や訪問支援等を行った。	項 目		実 績	専門医療相談	電話	958 件	面接	607 件	もの忘れ外来件数		1,981 件	(うち鑑別診断)		(91 件)	ラウンド件数 (延べ実施数)		189 件	訪問支援 (延べ件数)		19 件	ピア活動 (認知症カフェ等参画)		19 件
項 目		実 績																								
専門医療相談	電話	958 件																								
	面接	607 件																								
もの忘れ外来件数		1,981 件																								
(うち鑑別診断)		(91 件)																								
ラウンド件数 (延べ実施数)		189 件																								
訪問支援 (延べ件数)		19 件																								
ピア活動 (認知症カフェ等参画)		19 件																								

2	阿南病院及び木曽病院は、認知症に対する医療需要へ対応するため、診療及び患者や家族の相談・支援体制を充実する。 【令和2年度に推進する事項】 ・専門医師による診療（阿南）及び臨床心理技術者の確保（木曽）等による認知症医療の充実	阿南	A	<table><thead><tr><th>項目</th><th>実績</th><th>年度目標</th><th>対目標比</th><th>前年度実績</th><th>対前年度比</th></tr></thead><tbody><tr><td>相談業務（院外）</td><td>194 件</td><td>－</td><td>－</td><td>98 件</td><td>198.0%</td></tr><tr><td>認知症デイサービス</td><td>867 人 (229 日)</td><td>－</td><td>－</td><td>924 人 (216 日)</td><td>93.8% (106.0%)</td></tr></tbody></table> ・相談業務は、専任スタッフと認知症看護認定看護師を配置することにより相談業務を積極的に実施した。また、HDS-Rなどの認知機能スクリーニング検査も積極的に実施した。 ・専任スタッフが中心となり、外来スタッフの協力を得ながら高齢者や認知症を併発した入院患者を対象とした院内デイサービスを継続して実施した。	項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	相談業務（院外）	194 件	－	－	98 件	198.0%	認知症デイサービス	867 人 (229 日)	－	－	924 人 (216 日)	93.8% (106.0%)
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																	
相談業務（院外）	194 件	－	－	98 件	198.0%																	
認知症デイサービス	867 人 (229 日)	－	－	924 人 (216 日)	93.8% (106.0%)																	
3	同上	木曽	A	 ・認知症患者のアセスメントや看護方法等に係る院内研修の実施等により認知症ケア加算2を取得するなど認知症ケアを充実させた。 ・臨床心理技術者の確保についてはコロナウイルス感染症の影響で収支が悪化していたため、採用を見送った。																		

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 県立病院が担うべき医療等の提供

(5) 介護サービスの提供

〔自己評定〕 A

〔自己評定の理由〕

阿南介護老人保健施設は、下伊那南部地域の老健施設の拠点として介護保険における入所、短期入所、通所リハビリテーションサービスを切れ目なく提供した。また、老健本来の役割を踏まえた入所者の在宅復帰の支援、在宅への入退所前後の訪問を積極的に推進し、優位な介護報酬の施設基準を取得し増収を図った。

木曽介護老人保健施設は、令和2年7月より在宅強化型を取得し、住み慣れた自宅で生活する能力の維持や向上を図った。また、入所前後・退所前後の居宅訪問指導により在宅復帰支援機能を強化した。

阿南病院訪問看護ステーションさくらは、令和2年4月1日に開設し、下伊那南部地域の訪問看護の拠点としてスタートした。人口減や在宅ニーズの低迷がある中でも、在宅での療養生活を継続できるよう切れ目なく支援を行った。

木曽病院介護医療院は、令和2年3月1日に開設し、長期療養のための医療と日常生活上の介護を一体的に提供する体制を整えた。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績		
		病院	評定	取組結果及び取組の効果

第 1 1(5) 1	介護サービスの提供 阿南介護老人保健施設、木曽介護老人保健施設は、適切かつ充実したサービスを提供する。	阿南	A	【阿南介護老人保健施設利用実績】					
				項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比
				利用者数	13,635 人	14,000 人	97.4%	13,700 人	99.5%
				入所単価	10,454 円	9,654 円	108.3%	9,779 円	106.9%
				【短期集中リハビリテーション加算】					
				項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比
				加算件数	146 件	—	—	57 件	256.1%
				加算金額	3,451,200 円	—	—	1,264,800 円	272.9%
				・入所者数は圏域全体の人口減少と他施設との競合が厳しい状況が続いているが、入所期間の延長や在宅復帰した利用者の再入所等を推進し前年度△65人の微減となった。 ・一方、在宅復帰率の向上や在宅訪問を進め、基本サービスの施設基準について、7月から「加算型」、12月から「在宅強化型」の単位数を算定、加えて短期集中リハ加算算定件数等も大幅に増加したことから、入所単価が向上した。					
2	同上	木曽	A	【木曽介護老人保健施設利用実績】					
				項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比
				利用者数	14,915 人	14,600 人	102.2%	14,820 人	100.6%
				入所単価	11,301 円	11,397 円	99.2%	10,547 円	107.1%
				・令和2年7月より在宅強化型を取得し、住み慣れた自宅で生活する能力の維持や向上を図った。 ・在宅復帰率を上げるため入所前後・退所前後の訪問指導の取組みを強化した。 ・短期集中リハビリ・認知症短期集中リハビリを実施し、認知機能等の維持向上が図れた。					

3	阿南病院は、訪問看護ステーションの開設により地域の在宅介護の提供体制を充実させ、木曽病院は、介護医療院の運営を行い介護ニーズに適切に対応する。 【訪問看護ステーション利用者数】 <table><tr><td>病院名</td><td>平成 30 年度 実績</td><td>令和 2 年度 目標</td></tr><tr><td>阿 南</td><td>1,047 人 (病院の訪問 分のみ)</td><td>3,108 人</td></tr></table> 【令和 2 年度に推進する事項】 訪問看護ステーションの開設及び安定的な運営	病院名	平成 30 年度 実績	令和 2 年度 目標	阿 南	1,047 人 (病院の訪問 分のみ)	3,108 人	阿南	B	【訪問看護ステーション利用実績】 <table><tr><td>項 目</td><td>実 績</td><td>年度目標</td><td>対目標比</td><td>前年度実績</td><td>対前年度比</td></tr><tr><td>利用者数</td><td>2,963 人</td><td>3,108 人</td><td>95.3%</td><td>1,006 人</td><td>294.5%</td></tr></table> 訪問看護ステーション開設を行った初年度であり、訪問看護をステーション化したことで、利用者は1,957人増であった。しかし、2年度対目標比は、新型コロナウイルスの影響もあり在宅で生活したいという方が多く、また介護者が帰省できないなどの影響で対目標比95.3%に留まった。	項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	利用者数	2,963 人	3,108 人	95.3%	1,006 人	294.5%
病院名	平成 30 年度 実績	令和 2 年度 目標																				
阿 南	1,047 人 (病院の訪問 分のみ)	3,108 人																				
項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																	
利用者数	2,963 人	3,108 人	95.3%	1,006 人	294.5%																	
4	同上	木曽	A	【木曽病院介護医療院利用実績】 <table><tr><td>項 目</td><td>実 績</td><td>年度目標</td><td>対目標比</td><td>前年度実績</td><td>対前年度比</td></tr><tr><td>利用者数</td><td>5,834 人</td><td>5,475 人</td><td>106.6%</td><td>231 人</td><td>2,525.5%</td></tr></table> - 令和 2 年 3 月 1 日より介護医療院を開設し、長期療養のための医療と日常生活上の介護を一体的に提供する体制を整えた。 - 地域の作業への参加や、病院だよりに活動を報告するコーナー「ゆうゆうらいふ（悠々生活）」を設けるなど、介護医療院の P R を行った。	項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	利用者数	5,834 人	5,475 人	106.6%	231 人	2,525.5%						
項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																	
利用者数	5,834 人	5,475 人	106.6%	231 人	2,525.5%																	
5	【令和 2 年度に推進する事項】 介護医療院、介護老人保健施設及び地域包括ケア病棟の役割分担の明確化と効果的な活用	木曽	A	ベッドコントロール会議等で部署ごとの本来の機能を確認しながら情報を共有し、入所者の状態及びニーズに合ったサービスの提供を図った。																		

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

2 地域連携の推進

(1) 地域医療構想への対応

〔自己評定〕 A

〔自己評定の理由〕

地域医療構想を踏まえ、地域における医療連携体制の強化について、県立病院としての役割・使命を果たすべく、信州医療センター、阿南病院、木曽病院は、地域医療構想調整会議等の場における議論を通して検討を行った。

こころの医療センター駒ヶ根は、将来の精神科地域医療構想を踏まえ、訪問看護ステーション開設に向けた検討を行った。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績		
		病院	評定	取組結果及び取組の効果
第1 2(1) 1	地域医療構想への対応 地域医療構想を踏まえ、地域医療構想調整会議における議論を通じて、地域における医療連携体制の強化について検討し、県立病院としての役割・使命を果たす。	信州	A	・例年2回開催されている地域医療調整会議は新型コロナウイルス感染症への対応のため2回とも書面開催となり、長野医療圏域を中心とした病床機能報告と急性期医療実施報告にとどまった。しかし2020年度は同感染症（新興感染症）に関する県、保健所、近隣医療機関との情報共有が積極的に行われ、当院は感染症指定医療機関・重点医療機関として連携体制の強化に貢献した。 ・2019年度末のダイヤモンドプリンセス号の同感染症患者受け入れを行って以降、県内での感染拡大による入院病床を確保するため、北5階感染症病棟のほか、県の許可

				(2020年3月)のもと北6階結核病棟を新型コロナウイルス感染症対応病棟とし、2020年4月上旬からの県内第1波、7月下旬からの第2波、11月上旬からの第3波では、長野医療圏域だけでなく他医療圏域の患者も多く受け入れた。 なお、県から即応病床として14床(中等症、透析患者、妊婦患者)の確保が求められ対応していたが、長野医療圏域の保健所長と感染症患者受入病院長の合同テレビ会議(毎週1回開催)など通じ情報交換する中で、即応病床数の増加の必要性が出てきたため、2021年2月より即応病床18床での運用を開始した。 ・具体的な対応 参照 (p.13-No1)
2	同上	駒ヶ根	A	・将来の精神科地域医療構想を踏まえ、訪問看護のステーション化に向け、運営方法や開設までのスケジュールを検討した。
3	同上	阿南	A	・阿南病院の現状を地域に伝え、要望や意見を運営に反映させるため、下伊那南部5町村の首長及び議会議員、地元選出の県議、県機関等を構成員とした「病院運営懇談会」を、機構発足後、初めて開催した。地域包括ケア病床の開設、新型コロナウイルス感染症への対応強化、今年4月に開設した訪問看護ステーションさくらや天龍村巡回診療の実績などを説明した。
4	同上	木曾	A	・12月に開催された木曾地区医療協議会にて、病棟編成、新型コロナウイルス感染症への対応、在宅医療の充実、診療所との連携強化等について当院の取り組みを説明した。
5	【令和2年度に推進する事項】 ・地域包括ケア病床の開設による病棟の再編成	阿南	A	【地域医療構想への対応】 ・地域医療事情の状況等から令和2年4月より一般病床を70床で運用開始 ・地域包括ケア病床準備委員会で地域包括ケア病床の早期開設の準備を行い、12月から稼働可能となったが、新型コロナウイルス感染症患者受け入れにより対応ができず、3月からの本稼働となった。

				<table> <tr> <th>実 績</th><th>計 画</th><th>対計画比</th><th>病床利用率</th><th>1日あたり 入院単価</th></tr> <tr> <td>230 人</td><td>4,380 人</td><td>5.3%</td><td>62.5%</td><td>34,082 円</td></tr> </table> 【地域包括ケアシステムの推進】 ・リハビリテーションについて前年度と同水準あるいはそれ以上での実績の確保に努めた。	実 績	計 画	対計画比	病床利用率	1日あたり 入院単価	230 人	4,380 人	5.3%	62.5%	34,082 円
実 績	計 画	対計画比	病床利用率	1日あたり 入院単価										
230 人	4,380 人	5.3%	62.5%	34,082 円										
6	【令和2年度に推進する事項】 ・地域医療構想を踏まえた病院機能の再編 (239 床→199 床)	木 曾	－	・地域密着型の病院を目指し、令和2年3月1日に許可病床数を239床から199床に変更した。(元年度実績)										

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

2 地域連携の推進

(2) 地域包括ケアシステムの推進

〔自己評定〕 A

〔自己評定の理由〕

信州医療センターでは、地域包括ケア病棟において、急性期病院との連携のほか、慢性期対応病院や介護施設及び訪問看護ステーションとの連携を図り、地域包括ケアシステムの中核的役割を果たした。また、理学療法士を2人体制とした訪問リハビリは、退院後のスムーズな在宅支援に結びつき、実施件数も増加した。

こころの医療センター駒ヶ根では、精神障がい者にも対応した地域包括ケアへの参画や精神科訪問看護の充実、強化による地域生活、社会復帰支援を実施した。

阿南病院では、地域医療総合支援センターにおいて、訪問診療・看護・リハビリ・服薬指導等を積極的に実施し在宅医療の充実を図った。

木曽病院では、患者サポートセンターを中心に、地域の医療・介護・福祉施設等との連携、退院調整、相談支援等の実施体制を強化し、また、地域の高齢化及び住宅でのターミナルケア等の患者ニーズに対応するため、24時間365日訪問体制の維持等により、在宅医療を積極的に展開した。

こども病院は、医療的ケアが必要な在宅患者に対応するために開設した訪問診療センターにおいて、引き続き小児の訪問診療及び訪問リハビリを実施した。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績		
		病	評	取組結果及び取組の効果

		院	定																																										
第 1 2(2) 1	地域の実情に応じた医療・介護ニーズに適切に対応するため、関係機関等と連携し、在宅医療に積極的に取り組むとともに、地域における各病院の立ち位置に応じて地域包括ケアシステムにおける役割を果たす。 こころの医療センター駒ヶ根は、精神障がい者の地域生活を支援する体制を強化し、こども病院は、小児の訪問診療を充実する。	信州	A	・地域の病院、診療所、訪問看護ステーション及び行政でつくる「須高在宅ネットワーク」に参加し「地域みんなで支える在宅医療」の実現に寄与した。また、地域包括ケア病棟は、急性期病院との連携のほか、慢性期対応病院や介護施設及び訪問看護ステーションとの連携を図り、地域包括ケアシステムの中核的役割を果たした。																																									
2	同上	駒ヶ根	A	・訪問看護師が退院前カンファレンスへ参加し、退院後に速やかな訪問を実施した。特に今年度から初回の入院患者は、毎週訪問（退院後 1 ヶ月間）を行い、3 ヶ月以内の再入院を防止した。 ・デイケアプログラムを強化し、入院作業療法との連携やクリニック等との連携を深めた。 特に、発達障がい等の治療的プログラム（ソーシャルスキルトレーニング（S S T））を導入したほか、リワークプログラムを実施し、円滑な地域移行に結び付けた。																																									
3	同上	阿南	A	<table><tr><th>項 目</th><th>実 績</th><th>年度 計画</th><th>対計 画比</th><th>前年度実績</th><th>対前年度比</th></tr><tr><td>リハビリテーション患者数</td><td>13,111 人</td><td>－</td><td>－</td><td>11,709 人</td><td>112.0%</td></tr><tr><td>脳血管・廃用・運動器・呼吸器</td><td>19,658 単位</td><td>－</td><td>－</td><td>17,728 単位</td><td>110.9%</td></tr><tr><td>（内訳）理学療法士（P T）</td><td>10,140 単位</td><td>－</td><td>－</td><td>7,484 単位</td><td>135.5%</td></tr><tr><td>作業療法士（O T）</td><td>6,517 単位</td><td>－</td><td>－</td><td>6,977 単位</td><td>93.4%</td></tr><tr><td>言語聴覚士（S T）</td><td>3,001 単位</td><td>－</td><td>－</td><td>3,267 単位</td><td>91.9%</td></tr></table>						項 目	実 績	年度 計画	対計 画比	前年度実績	対前年度比	リハビリテーション患者数	13,111 人	－	－	11,709 人	112.0%	脳血管・廃用・運動器・呼吸器	19,658 単位	－	－	17,728 単位	110.9%	（内訳）理学療法士（P T）	10,140 単位	－	－	7,484 単位	135.5%	作業療法士（O T）	6,517 単位	－	－	6,977 単位	93.4%	言語聴覚士（S T）	3,001 単位	－	－	3,267 単位	91.9%
項 目	実 績	年度 計画	対計 画比	前年度実績	対前年度比																																								
リハビリテーション患者数	13,111 人	－	－	11,709 人	112.0%																																								
脳血管・廃用・運動器・呼吸器	19,658 単位	－	－	17,728 単位	110.9%																																								
（内訳）理学療法士（P T）	10,140 単位	－	－	7,484 単位	135.5%																																								
作業療法士（O T）	6,517 単位	－	－	6,977 単位	93.4%																																								
言語聴覚士（S T）	3,001 単位	－	－	3,267 単位	91.9%																																								

				<table><tr><td>早期リハ加算（30 日以内介入）</td><td>11,163 単位</td><td>－</td><td>－</td><td>11,517 単位</td><td>96.9%</td></tr><tr><td>（内訳）理学療法士（P T）</td><td>5,198 単位</td><td>－</td><td>－</td><td>4,606 単位</td><td>112.9%</td></tr><tr><td>作業療法士（O T）</td><td>3,774 単位</td><td>－</td><td>－</td><td>4,292 単位</td><td>87.9%</td></tr><tr><td>言語聴覚士（S T）</td><td>2,191 単位</td><td>－</td><td>－</td><td>2,619 単位</td><td>83.7%</td></tr></table> ・作業療法士（OT）、言語聴覚士（ST）に関しては、不在や異動などにより若干単位数の減少がみられたが、セラピストが 1 名増員となった理学療法士（PT）に関して、延べ患者数が増加し、算定単位数に関しても算定が大幅に増加したことから前年度と同水準あるいはそれ以上での実績を確保した。 <table><tr><td colspan="2">項 目</td><td>実 績</td><td>年度目標</td><td>対目標比</td><td>前年度実績</td><td>対前年度比</td></tr><tr><td rowspan="2">訪問診療</td><td>実患者数</td><td>291人</td><td>－</td><td>－</td><td>186人</td><td>156.5%</td></tr><tr><td>件数</td><td>313件</td><td>－</td><td>－</td><td>192件</td><td>163.0%</td></tr><tr><td rowspan="2">訪問リハビリ</td><td>実患者数</td><td>236人</td><td>－</td><td>－</td><td>260人</td><td>90.8%</td></tr><tr><td>単位数</td><td>1,688単位</td><td>－</td><td>－</td><td>1,766単位</td><td>95.6%</td></tr></table> ・訪問診療については天龍村診療所の医師の退職により患者を引き継ぎ、新たな訪問患者の確保などにより大きく増加した。 ・訪問リハビリは、前年度下半期に施設入所や死亡等により終了となった利用者が多く、新規利用者がすぐには増加しなかったことにより実患者数が減少した。今年度は短期集中加算を算定し、週 2 回実施の利用者が 2 人いたため、実患者数の減少数に比べ、単位数の減少は抑えられた。	早期リハ加算（30 日以内介入）	11,163 単位	－	－	11,517 単位	96.9%	（内訳）理学療法士（P T）	5,198 単位	－	－	4,606 単位	112.9%	作業療法士（O T）	3,774 単位	－	－	4,292 単位	87.9%	言語聴覚士（S T）	2,191 単位	－	－	2,619 単位	83.7%	項 目		実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	訪問診療	実患者数	291人	－	－	186人	156.5%	件数	313件	－	－	192件	163.0%	訪問リハビリ	実患者数	236人	－	－	260人	90.8%	単位数	1,688単位	－	－	1,766単位	95.6%
早期リハ加算（30 日以内介入）	11,163 単位	－	－	11,517 単位	96.9%																																																								
（内訳）理学療法士（P T）	5,198 単位	－	－	4,606 単位	112.9%																																																								
作業療法士（O T）	3,774 単位	－	－	4,292 単位	87.9%																																																								
言語聴覚士（S T）	2,191 単位	－	－	2,619 単位	83.7%																																																								
項 目		実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																																																							
訪問診療	実患者数	291人	－	－	186人	156.5%																																																							
	件数	313件	－	－	192件	163.0%																																																							
訪問リハビリ	実患者数	236人	－	－	260人	90.8%																																																							
	単位数	1,688単位	－	－	1,766単位	95.6%																																																							
4	同上	木曾	A	・木曾広域連合から運営を委託された「在宅医療・介護連携支援センター」により、郡内各関係機関の情報共有や共通課題の解決を図り、地域包括ケアシステムの中核的役割を果たした。																																																									
5	同上	こども	A	・新型コロナウイルス感染症対策のためWebを活用した。院外カンファレンスのうちWeb会議は 66 件で、院外会議の 48% にあたる。 ・Web 会議により患者家族が利用している病院、学校、訪問看護、福祉施設等様々な施設からの																																																									

				参加が可能となり地域連携をより推進できた。また、入院中にタイムリーに開催ができ、退院共同指導料算定を9件算定できた。																		
				<table><tr><td>項 目</td><td>実 績</td><td>年度計画</td><td>対目標比</td><td>前年度実績</td><td>対前年度比</td></tr><tr><td>カンファレンス件数</td><td>296件</td><td>－</td><td>－</td><td>268件</td><td>110.4%</td></tr><tr><td>(うち院外件数)</td><td>(137件)</td><td>－</td><td>－</td><td>(130件)</td><td>(105.4%)</td></tr></table>	項 目	実 績	年度計画	対目標比	前年度実績	対前年度比	カンファレンス件数	296件	－	－	268件	110.4%	(うち院外件数)	(137件)	－	－	(130件)	(105.4%)
項 目	実 績	年度計画	対目標比	前年度実績	対前年度比																	
カンファレンス件数	296件	－	－	268件	110.4%																	
(うち院外件数)	(137件)	－	－	(130件)	(105.4%)																	
				・訪問診療については、参照（p.39-No.8）																		
6	【令和2年度に推進する事項】 ・措置入院者退院支援計画作成への参画	駒ヶ根	A	・保健所、市町村等と連携し、「措置入院者退院支援計画」を作成した。（6件）																		
7	【令和2年度に推進する事項】 ・精神科訪問看護ステーションの設置に向けた検討	駒ヶ根	A	・精神科訪問看護のステーション化に向けたコアチームを設置し、運営方法や開設までのスケジュールを検討した。																		
8	【令和2年度に推進する事項】 ・訪問診療センター・訪問ケア科による小児の訪問診療を充実	こども	A	・参照（p.7-No.10） ・令和元年10月に訪問診療センターを開設し、自宅で医療ケアを継続するための訪問診療及び訪問リハビリを実施した。 ・地域中核病院で管理している医療的ケア児について訪問診療時デバイス交換が行えるよう、訪問ケア科医師、看護師が同行訪問し医療技術の確認を行い連携することができた。 ・退院時に訪問ケア科による訪問リハビリテーションを導入し、在宅でのリハビリテーションを継続しながら、地域の訪問看護ステーションや訪問リハビリステーションの理学療法士、作業療法士、言語療法士の訪問の調整を行い必要なリハビリテーションを移行し、継続支援に繋がった。																		

9	【紹介率及び逆紹介率】（単位：％）				信 州	A	<table><tr><td>区 分</td><td>実 績</td><td>年度目標</td><td>対目標比</td><td>前年度実績</td><td>対前年度比</td></tr><tr><td>紹介率</td><td>60.8%</td><td>59.7%</td><td>101.8%</td><td>66.2%</td><td>91.8%</td></tr><tr><td>逆紹介率</td><td>17.6%</td><td>16.5%</td><td>106.7%</td><td>13.0%</td><td>135.4%</td></tr></table> ・ 紹介率は、新型コロナウイルス感染症患者受入れ医療機関という理由で当院を受診したがない患者や受診控えなどもあったが、目標値を上回ることができた。 ・ 逆紹介率は、地道な働きかけを継続し、医師の協力を得て目標値を上回った。	区 分	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	紹介率	60.8%	59.7%	101.8%	66.2%	91.8%	逆紹介率	17.6%	16.5%	106.7%	13.0%	135.4%
区 分	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績			対前年度比																		
紹介率	60.8%	59.7%	101.8%	66.2%			91.8%																		
逆紹介率	17.6%	16.5%	106.7%	13.0%	135.4%																				
<table><tr><td rowspan="2">病院 名</td><td colspan="2">平成 30 年度 実績</td><td colspan="2">令和 2 年度 目標</td></tr><tr><td>紹介 率</td><td>逆紹介 率</td><td>紹介 率</td><td>逆紹介 率</td></tr><tr><td>信 州</td><td>59.6</td><td>15.4</td><td>59.7</td><td>16.5</td></tr></table>				病院 名	平成 30 年度 実績		令和 2 年度 目標		紹介 率	逆紹介 率	紹介 率	逆紹介 率	信 州	59.6	15.4	59.7	16.5								
病院 名	平成 30 年度 実績		令和 2 年度 目標																						
	紹介 率	逆紹介 率	紹介 率	逆紹介 率																					
信 州	59.6	15.4	59.7	16.5																					
10	同上（単位：％）				駒 ヶ 根	A	<table><tr><td>区 分</td><td>実 績</td><td>年度目標</td><td>対目標比</td><td>前年度実績</td><td>対前年度比</td></tr><tr><td>紹介率</td><td>52.5%</td><td>52.0%</td><td>101.0%</td><td>52.5%</td><td>100.0%</td></tr><tr><td>逆紹介率</td><td>48.1%</td><td>36.0%</td><td>133.6%</td><td>38.1%</td><td>126.2%</td></tr></table> ・ 認知症疾患医療センター開設のため鑑別診断の件数が増え、診断結果をかかりつけ医や地域の診療所に紹介したことにより、他の医療機関への逆紹介が増加した。	区 分	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	紹介率	52.5%	52.0%	101.0%	52.5%	100.0%	逆紹介率	48.1%	36.0%	133.6%	38.1%	126.2%
区 分	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績			対前年度比																		
紹介率	52.5%	52.0%	101.0%	52.5%			100.0%																		
逆紹介率	48.1%	36.0%	133.6%	38.1%	126.2%																				
<table><tr><td rowspan="2">病院 名</td><td colspan="2">平成 30 年度 実績</td><td colspan="2">令和 2 年度 目標</td></tr><tr><td>紹介 率</td><td>逆紹介 率</td><td>紹介 率</td><td>逆紹介 率</td></tr><tr><td>駒ヶ根</td><td>51.5</td><td>51.7</td><td>52.0</td><td>36.0</td></tr></table>				病院 名	平成 30 年度 実績		令和 2 年度 目標		紹介 率	逆紹介 率	紹介 率	逆紹介 率	駒ヶ根	51.5	51.7	52.0	36.0								
病院 名	平成 30 年度 実績		令和 2 年度 目標																						
	紹介 率	逆紹介 率	紹介 率	逆紹介 率																					
駒ヶ根	51.5	51.7	52.0	36.0																					
11	同上（単位：％）				阿 南	A	<table><tr><td>区 分</td><td>実 績</td><td>年度目標</td><td>対目標比</td><td>前年度実績</td><td>対前年度比</td></tr><tr><td>紹介率</td><td>31.2%</td><td>21.5%</td><td>145.1%</td><td>22.5%</td><td>138.7%</td></tr><tr><td>逆紹介率</td><td>17.6%</td><td>13.5%</td><td>130.4%</td><td>15.3%</td><td>115.0%</td></tr></table> ・ 紹介率においては、診療所からの検査の紹介や新型コロナウイルス感染症患者受け入れ等により、大きく増加した。	区 分	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	紹介率	31.2%	21.5%	145.1%	22.5%	138.7%	逆紹介率	17.6%	13.5%	130.4%	15.3%	115.0%
区 分	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績			対前年度比																		
紹介率	31.2%	21.5%	145.1%	22.5%			138.7%																		
逆紹介率	17.6%	13.5%	130.4%	15.3%	115.0%																				
<table><tr><td rowspan="2">病院 名</td><td colspan="2">平成 30 年度 実績</td><td colspan="2">令和 2 年度 目標</td></tr><tr><td>紹介 率</td><td>逆紹介 率</td><td>紹介 率</td><td>逆紹介 率</td></tr><tr><td>阿 南</td><td>20.3</td><td>13.0</td><td>21.5</td><td>13.5</td></tr></table>				病院 名	平成 30 年度 実績		令和 2 年度 目標		紹介 率	逆紹介 率	紹介 率	逆紹介 率	阿 南	20.3	13.0	21.5	13.5								
病院 名	平成 30 年度 実績		令和 2 年度 目標																						
	紹介 率	逆紹介 率	紹介 率	逆紹介 率																					
阿 南	20.3	13.0	21.5	13.5																					

12	同上 (単位：％)				木 曾	B							
	病院 名	平成 30 年度 実績		令和 2 年度 目標			区 分	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	
		紹介 率	逆紹 介率	紹介 率			逆紹 介率	紹介率	20.1%	26.0%	77.3%	28.1%	71.5%
								逆紹介率	28.0%	17.0%	164.7%	21.5%	13.2%
	木 曾	27.0	18.1	26.0			17.0	・ 紹介率は、初診救急患者数の大幅な減少により目標を下回ったが、逆紹介率は分母である初診患者数の減少により目標を上回った。					
13	同上 (単位：％)				こ ど も	A							
	病院 名	平成 30 年度 実績		令和 2 年度 目標			区 分	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	
		紹介 率	逆紹 介率	紹介 率			逆紹 介率	紹介率	70.5%	77.0%	91.6%	75.4%	93.5%
								逆紹介率	80.6%	73.9%	109.1%	75.1%	107.3%
	こども	74.0	73.9	77.0			73.9	・ 地域医療支援病院計算式により算定。なお、紹介率、逆紹介率ともに地域医療支援病院認定要件を満たしている。					

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

2 地域連携の推進

(3) 地域の保健・福祉関係機関等との連携の推進

〔自己評定〕 A

〔自己評定の理由〕

信州医療センターでは、須高地域の医療機関、介護施設及び住民と活発に交流し、地域の中核病院として地域医療に貢献した。また、市町村と連携し対策型胃内視鏡検診・大腸内視鏡検診の啓発を実施した。

こころの医療センター駒ヶ根では、市町村、児童相談所等と連携し、虐待や自殺企図、摂食障がいなどの緊急入院に対応した。

阿南病院では、乳児健診において町村保健師等と連携した発達障害児の早期発見とフォローアップ体制の整備を行った。

木曽病院では、患者サポートセンターを中心に、地域の医療・介護・福祉施設等との連携、退院調整、相談支援等の実施体制を充実させた。

こども病院では、療育支援において、当院の役割への理解、転院・退院後の連携について、地域基幹病院及び入所施設との情報交換を行い、病院間連携を進めた。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績		
		病院	評定	取組結果及び取組の効果

第1 2(3) 1	各病院は、市町村、保健福祉事務所、児童相談所等の関係機関やNPO等と連携し、児童虐待への対応や発達障がい児、医療的ケア児への支援等に取り組む。 市町村等が行う健康増進施策と連携した疾病予防及び母子保健、地域のニーズに応じた健康寿命の延伸に資する取組や地域の福祉関係機関等が行う退院後の支援等に対し、積極的に協力する。	信州	A	・須高地域の医療機関、介護施設及び住民と活発に交流し、地域の中核病院としてソフト面、ハード面共に貢献した。 ・須高医師会が開設する須高休日緊急診療室を当院内で実施している。 ・DV、小児・高齢者・障がい者虐待などが疑われたり認められたりした場合は、チェックシートを用い早期発見に努めている。定期・臨時ACPT会議（院内虐待対応会議）で、医師、看護師及び相談員等が情報を共有・検討し、市町村、保健福祉事務所、児童相談所等の関係機関と連絡を密に取り合い、連携して対応した。 ・須坂市の保健師や当院の産婦人科医・小児科医・助産師・医療ソーシャルワーカー、精神科医等多職種が連携し、妊娠期から産後まで切れ目のない支援を行っている。地域の産前産後の母親のメンタルヘルスを向上させ、産後うつ予防、子どもへの虐待防止に貢献している。また、須坂市、小布施町、高山村、長野市との連携により、産後ケア事業を受託し、産後に家族の援助が受けられない方や育児に不安がある方を対象に、授乳相談や新生児の一時預かりを行った。 ・須坂市高齢者福祉課、包括支援センターとの合同会議（須坂市地域包括支援センター協議会）を2回、須坂市高齢者福祉課との連携会議を3回開催し、地域ニーズに対する意見交換を行った。 ・毎年好評の出前講座であるが、同様にほぼ活動休止を余儀なくされた中、助産師が講師を務める小中学生対象の性教育に関する出前講座は、地域の各学校とオンラインで実施でき、教職員、生徒及び保護者から高い評価が得られた。
2	同上	駒ヶ根	A	・入院後速やかに多職種により地域関係者及び家族と支援会議を行い、退院後の地域生活について協議した。 ・地域支援者の状況、福祉制度利用状況、入院及び退院時の課題などのアセスメントを実施し、地域生活へのスムーズな移行、施設での生活維持に向けた支援を行った。 ・保健所、市町村等と連携し、「措置入院者退院支援計画」を作成した。（6件） ・公立総合病院・民間精神科病院との院長懇談や会議により連携を強化した。また、精神

				科救急に関わる症例学習会で精神科認定看護師により精神疾患患者への対応を教授した。														
3	同上	阿南	A	・小児発達障害診療のため専門リハビリスタッフの早期確保・養成により効果的な医療を提供した。 ・乳児健診において町村保健師等と連携した発達障害児の早期発見とフォローアップ体制を整備した。														
4	同上	木曾	A	・患者サポートセンターを中心に、地域の医療・介護・福祉施設等との連携、退院調整、相談支援等の実施体制を充実させた。 ・新設した部位別がん検診（胃・膵臓・肺・大腸）について木曾郡内の町村を訪問し、周知を図るとともに、受診の際の助成についての検討を依頼した。														
5	同上	こども	A	【リハビリテーション技術科関係】 ・発達障がい専門外来では83人の診察を行い、行政・保育・教育からの診察同席者は19人、診察後の地域医療機関への紹介は15件であった。4、5月の外来制限や同伴者の制限などにより、受診者数が減少した。幼児の申し込みが減少したことから、発達障害児の幼児期の診断・治療については各地域での診療体制が充実してきたことが伺える。発達障がいに係る支援者育成のために実施してきた保育士や教師への研修会は感染症拡大防止のため中止とした。 ・患者支援地域連携会の開催希望のあった関係機関15施設とWeb会議を中心に実施した。互いの施設に関係する患者についての情報交換や施設の情報交換を行うことにより施設間の連携向上を図った。 <table><tr><th>項 目</th><th>実 績</th><th>年度 目標</th><th>対目 標比</th><th>前年度 実績</th><th>対前年 度比</th><th>実施後の経過</th></tr><tr><td>発達障がい 専門外来</td><td>83人</td><td>—</td><td>—</td><td>97人</td><td>85.6%</td><td>照会元の医療 機関で継続フ ォロー</td></tr></table>	項 目	実 績	年度 目標	対目 標比	前年度 実績	対前年 度比	実施後の経過	発達障がい 専門外来	83人	—	—	97人	85.6%	照会元の医療 機関で継続フ ォロー
項 目	実 績	年度 目標	対目 標比	前年度 実績	対前年 度比	実施後の経過												
発達障がい 専門外来	83人	—	—	97人	85.6%	照会元の医療 機関で継続フ ォロー												

				【療育支援部関係】 ・ 当院の役割への理解、転院・退院後の連携について、地域基幹病院及び入所施設との情報交換を行い、より一層の連携を進めた。さらにサービス事業所をはじめとした関係機関への情報提供や情報共有により、退院後の支援に対しても積極的に協力した。																		
6	【内視鏡検査件数】 <table><tr><td>病院名</td><td>平成 30 年度 実績</td><td>令和 2 年度 目標</td></tr><tr><td>信 州</td><td>7,013</td><td>8,000</td></tr></table> 【令和 2 年度に推進する事項】 ・ 市町村と連携し対策型胃内視鏡検診・大腸内視鏡検診の啓発の実施	病院名	平成 30 年度 実績	令和 2 年度 目標	信 州	7,013	8,000	信 州	C	<table><tr><td>項 目</td><td>実 績</td><td>年度目標</td><td>対目標比</td><td>前年度実績</td><td>対前年度比</td></tr><tr><td>内視鏡検査件数</td><td>6,316 件</td><td>8,000 件</td><td>79.0%</td><td>6,334 件</td><td>99.7%</td></tr></table> ・ 新型コロナウイルス感染拡大に伴う受診控えのため、検査件数は伸びなかった。 ・ 当院広報誌や地域のフリーペーパー、ケーブルテレビなどを活用し、内視鏡検査の有効性等について継続した発信を行った。	項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	内視鏡検査件数	6,316 件	8,000 件	79.0%	6,334 件	99.7%
病院名	平成 30 年度 実績	令和 2 年度 目標																				
信 州	7,013	8,000																				
項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																	
内視鏡検査件数	6,316 件	8,000 件	79.0%	6,334 件	99.7%																	
7	【令和 2 年度に推進する事項】 ・ 児童相談所・要保護児童対策地域協議会等と連携し児童虐待や自殺企図児童などの緊急入院に対応	駒 ヶ 根	A	・ 児童相談所との連携強化のため、諏訪及び飯田児童相談所へ医師を派遣した。 ・ 市町村、児童相談所等と連携した虐待や自殺企図、摂食障がいなどの緊急入院に対応した。（児童の新規入院53人、うち緊急・優先入院 3 人） ・ 児童病棟満床時には、緊急避難的に成人病棟で児童患者を受け入れた。（24人）																		
8	【令和 2 年度に推進する事項】 ・ 信州母子保健推進センターとの連携による保健師、助産師の育成	こ ど も	A	・ 令和 2 年度はコロナ禍のため、参集及びWeb研修会開催ができなかった。 ・ 令和 2 年 6 月より健診初診外来を月 2 回（院長 第 1・3 木曜日 3 枠/回）開設した。市町村の乳児検診精密検査依頼書を、市町村保健師から当院保健師が対応し、診察結果によって必要な専門科にコンサルすることで、スムーズな受診につなげた。市町村保健師と連携をとることによって、医療と地域の切れ目のない支援を行った。 <table><tr><td>項 目</td><td>実 績</td><td>年度目標</td><td>対目標比</td><td>前年度実績</td><td>対前年度比</td></tr><tr><td>健診初診外来件数</td><td>47 件</td><td>－</td><td>－</td><td>0 件</td><td>皆増</td></tr></table>	項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	健診初診外来件数	47 件	－	－	0 件	皆増						
項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																	
健診初診外来件数	47 件	－	－	0 件	皆増																	

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

3 医療従事者の養成と専門性の向上

(1) 県内医療に貢献する医師の確保・養成

〔自己評定〕 A

〔自己評定の理由〕

総合診療専門医の養成については、信州医療センターは引き続き基幹施設として、他の県立病院は連携施設として、総合診療専門研修プログラムに基づき総合診療医の養成を推進した。

信州医療センターは、信州大学と共同して総合内科医養成講座(寄附講座)の令和3年度開講に向けての準備を行った。初期研修については、定期的なシミュレーション研修を行い、確かな技術の向上に努めた。

各病院においても、精神科や小児科などの臨床研修プログラムにより臨床医を受け入れ、県内医療に貢献する医師の育成に尽力した。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績		
		病院	評定	取組結果及び取組の効果
第1 3(1) 1	各病院は、特色を活かした臨床研修プログラムやシミュレーション教育を充実させ、研修指導体制を強化するとともに、積極的な広報活動と県立病院間の指導医連携を推進し、	信州	A	- 医師の確保に向け医師求人サイトへの掲載、大学医局との連携などあらゆるチャンネルを駆使し、県、機構本部と病院が一体となり取り組んだ。 - 医師臨床研修マッチングにおいて、コロナ禍で見学、合同説明会が中止になったが、オンラインによる説明会を実施することで、医学生に寄り添った情報発信と当院の良さをアピールし、研修医を2人受け入れることができた。

	医学生、初期臨床研修医及び専攻医の受入れと育成を行う。 信州医療センターは、総合医の養成に取り組み、こころの医療センター駒ヶ根は、児童精神科医の育成に努める。 【令和2年度に推進する事項】 ・新専門医制度に対応したプログラムによる総合診療医の養成と定着を支援			・HPの掲載内容の充実や、研修医ブログの定期的な更新の効果もあり、コロナ禍で見学を一時中断していた時期もあったが、9人の病院見学者数を受け入れた。 【総合内科医の養成】 ・新専門医制度に対応したプログラムの作成及びスタッフの充実を図り、総合内科医の養成と定着を推進するため、寄附講座開設に向けた準備を実施した。 令和3年3月 信州大学との寄附講座設置に関する協定を締結 ・信州大学との寄附講座により担当教員（内科系）の配置が可能となった。
2	同上	駒ヶ根	A	・日本精神神経学会新専門医制度における信州大学の精神科研修プログラムの連携施設として専攻医1人を受け入れた。
3	同上	阿南	A	・医師の確保につなげるため、老朽化した医師住宅について、阿南町の支援を受け新築整備の準備を進めた。 ・2年度については新型コロナウイルス感染症拡大の影響により自治医科大学などの医学部学生の受入れは行わなかった。また、高校生のための医療体験を計画したが、同じく感染症拡大により、中止となった。
4	同上	木曾	—	・総合診療専門研修プログラムの連携施設であるが、研修実績はなかった。
5	同上	こども	S	・小児科専門医プログラムと研修体制を見直し、新規プログラムで公募したところ例年（0～2人）を大幅に上回る7人の希望があった。 ・院内外の専攻医のために、全科持ち回りでWebレクチャーを毎週開催して、研修機会を充実させた。 ・7月に初期研修医を対象としたWeb病院見学会を開催した。10人が参加し、当院の診療及び研修の魅力をアピールし、専攻医確保に役立てた。 ・本部研修センターが主催する学生向け説明会でWeb講義及び検討会を担当し、機構の研

				修体制と当院の研修環境の周知を行った。 ・信州大学医学部の講義や実習受入れを継続した。感染対策のため、学生実習の一時受入れ休止を余儀なくされたが、実習した学生のアンケートでは好評価を得た。
6	本部研修センターは、信州医師確保総合支援センター分室として、県との連携を強化し、医療職を目指す地域の中高生、医学生や医師を対象とした研修を充実する。 【令和2年度に推進する事項】 ・医学生や初期臨床研修医等を対象としたシミュレーション教育の充実	本部	A	・信州医療センターにおいて信州大学医学部臨床・クラークシップⅡを行う医学生へ、シミュレーション教育を16回実施し、延べ31人が参加した。 ・信州医療センターにおいて病院見学中の医学生へ、スキルスラボ及び初期研修医向けシミュレーション教育の説明を5回実施し、延べ5人が参加した。 ・信州医療センターの1年目初期研修医へ、シミュレーション教育を22回実施し、延べ74人が参加した。
7	【令和2年度に推進する事項】 ・初期研修医制度の精神科必須化への対応	駒ヶ根	A	・初期研修医制度の精神科必須化に伴い、研修医2人を受け入れた。また、選択制の研修医10人についても受入れを行った。
8	【令和2年度に推進する事項】 ・医師確保推進のための医学生対象県立病院機構病院説明会の開催	本部	A	・12月に長野県立5病院JointセミナーYouTube公式チャンネルを開設し、限定公開計6本及び公開動画3本をアップロードした。(チャンネル登録59人、再生回数1,073回)ライブ配信(3月6日)では12大学23人の参加があった。

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

3 医療従事者の養成と専門性の向上

(2) 機構職員の養成

〔自己評定〕 A

〔自己評定の理由〕

信州医療センターは、指定研修機関として、令和2年10月に看護師特定行為研修を開講した。

本部研修センターは、課程別の基礎研修から医療技術職員に対する専門研修まで含めた体系的な研修カリキュラムを構築し、計画的な人材の育成に努め、各病院においても、独自の院内研修の充実により、職員の資質向上に努めた。

各病院においては、医師・看護職・医療技術職の認定資格の取得を奨励し専門研修への派遣を行い、医療技術の向上を図った。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績		
		病院	評定	取組結果及び取組の効果

第1 3(2) 1	全職員を対象とした研修体系の評価と見直しを継続的に行い、研修の充実を図ることに より、職員の知識、技術、資質の向上を図る。 医師、看護師、医療技術職員等の認定資格の取得を推進する。 信州医療センターは、機構本部と連携し、指定研修機関として特定行為ができる看護師の養成を進める。 【令和2年度に推進する事項】 指定研修機関として特定行為ができる看護師の養成（信州）	信州	A	- 研修センターと連携し、医師・研修医・医学生・看護師等を対象にシミュレータを活用した技術研修を実施した。 ※腹腔鏡、大腸カメラ、上部消化管内視鏡、中心静脈カテーテル挿入シミュレータ、分娩シミュレータ、AED、Simman 3 G、さくら、リトルアン、切開キットなどを使用した。 - 初期研修医シミュレーション教育を10回実施した。 - 院内の各委員会等の企画による研修会を実施 - 新任職員（医師）オリエンテーション、院内感染対策研修会、医療安全推進研修会、褥瘡予防研修会、サービス向上ロールプレイング研修会、育児休暇中フォローアップ研修会、重症度・医療・看護必要度研修会、クリニカルパス学習会、口腔ケア研修会、接遇研修会、糖尿病学習会、医療ガス安全管理研修会、RST呼吸器学習会、看護師復帰支援研修会、臨床病理カンファレンス等 - 認定看護師教育課程2分野（皮膚・排泄ケア、心不全看護）の研修に、看護師を派遣した。 - 令和2年10月に看護師特定行為研修を開講し、今年度は当院2人の看護師を含む県立病院機構看護師5人が受講した。研修期間は令和3年9月までの1年間。 - 研修内容は、長期呼吸療法に係る呼吸器関連、ろう孔管理関連、創傷管理関連、栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連の4区分による、在宅・慢性期領域パッケージ研修
2	同上	駒ヶ根	A	精神保健指定医の資格取得については、医師13人のうち11人が取得済みであり、残り2人について取得に向けた取組みを進めた。
3	同上	阿南	A	- 認知症認定看護師1人に加え、特定行為研修受講者1人、摂食嚥下障害認定看護師1人が資格を取得した。（看護） - 認知症認定看護師により、新規採用職員・異動職員等に対して、認知症サポーター研修を行った。（参加者21人）また、看護職員、介護職員等を対象に認知症学習会「認知症

				を理解して転倒・転落の予防を考える」を実施した。(参加者20人)
4	同上	木 曾	A	・特定行為研修に2人が参加した。
5	同上	こ ど も	A	・院内臨床医学研究助成制度、院外研修助成制度を制定し、職員の研修、研究体制を充実させたことで、診療技能の向上に加え、病院が発行する医学雑誌に関しては、論文数が8本から13本に増加した。また、学術活動を通して職員の資質向上を図り、小児専門医療機関としての当院の専門性、学術レベルを一層向上させるとともに、当院の対外的な認知度を高めるために、学会等における職員の研究発表等について支援を行った。 ・看護部長が令和元年度に認定看護管理教育課程を受講し、令和2年度に認定看護管理者試験に合格した。 ・認定看護管理者教育課程ファーストレベル2人受講、セカンドレベル1人受講するなど計画的に受講できている。 ・感染管理認定看護師養成校の試験に1名が合格し、令和3年7月から研修を開始する。令和4年には感染管理認定看護師として育成予定。
6	同上	本 部	A	・職員の知識・技術・資質の向上を図るため、病院等の意見を反映させた課程別研修、選択研修及び専門研修を実施した。 ・課程別研修及び選択研修については、新型コロナウイルス感染防止対策のため一部の日程を延期した上、新規採用職員研修以外は集合形式での開催を取り止め、Web会議ツール等を活用したオンライン研修に変更し、全て実施した。 【課程別研修】 新規採用職員研修Ⅰ 94人 新規採用職員研修Ⅱ 41人 勤務3年目研修（オンライン） 29人 キャリア形成研修①（5年目）（オンライン） 55人

				キャリア形成研修②（10年目）（オンライン） 32人 キャリア形成研修③（15年目）（オンライン） 19人 キャリア形成研修④（20年目）（オンライン） 32人 新管理職研修（オンライン） 12人 【選択研修】 公文書の書き方・扱い方、労働条件・服務研修（オンライン） 31人 リーダー研修Ⅰフォロワーシップ（オンライン） 40人 リーダー研修Ⅱリーダーシップ（オンライン） 40人 OJT研修（オンライン） 37人 【専門研修】 看護部専門研修①（オンライン） 31人 看護部専門研修②（オンライン） 14人 薬剤師研修会（オンライン） 37人 第2回薬剤師研修会（オンライン） 35人 事務職新規採用者研修（他職種体験研修） 3人
7	【令和2年度に推進する事項】 ・精神科認定看護師の養成	駒ヶ根	—	・新型コロナウイルス感染症の影響により研修が中止となり、次年度に先送りされた。
8	【令和2年度に推進する事項】 ・在籍医師の専門医・指導医資格の取得奨励及び支援	木曾	A	・令和2年10月に1名が専門医を取得した。また、1名が専門医の申請資格を取得したが、新型コロナウイルス感染症の影響で試験が延期となり、申請資格の取得に留まった。
9	【令和2年度に推進する事項】 ・シミュレーション教育指導者委員会による指導者連携と教育の充実	本部	A	・10月5日 第1回委員会開催（シミュレーション研修の実施状況等） ・2月4日 第2回委員会開催（シミュレーション教育シナリオ情報共有事業等） ・1月～3月 シナリオ登録及びリスト作成（シミュレーション教育シナリオ情報共有事業）

10	【令和2年度に推進する事項】 ・ 特定行為研修のサポート	本部	A	・ 本部研修センター長が、信州医療センター主催の特定行為研修管理委員会に委員長として、特定行為指定研修機関へ実技試験（OSCE）の見学、実習病院の指導者へ指導内容の説明を行い、準備を行った。 ・ 特定行為指定研修機関へ実技試験（OSCE）の見学 7月16日 伊那中央病院 ・ 実習病院の指導者へ指導内容の説明 8月20日 木曽病院 9月16日 阿南病院 9月17日 こども病院 ・ 信州医療センター主催の特定行為研修管理委員会に月1回出席 ・ 全てのパッケージに共通する科目（6科目）の担当指導者として指導 ・ 受講生の修了後の活用について検討 ・ 次年度から新たに追加する研修区分について検討し申請を実施した。
11	【令和2年度に推進する事項】 ・ 全職員を対象とした研修の充実及び新卒事務職員研修の充実	本部	A	・ 新卒事務職員の配属先病院へ、多職種体験研修の実施を依頼した。 ・ 新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、今年度から実施予定であった機構体験研修の当面延期を決定（5月22日）した。 ・ こころの医療センター2人・木曽病院1人が各病院で多職種体験研修を実施し、レポート及びアンケートを提出した。

3 医療従事者の養成と専門性の向上

〔自己評定〕 A

本部研修センターでは、昨年度に引き続き、シミュレーション教育指導スキルアップシリーズを開催したほか、貸出可能なシミュレータリスト等をホームページに掲載し、他医療機関等における利便性の向上を図った。

信州大学医学部や信州木曽看護専門学校をはじめとする県内の医療関係教育機関からの要請に基づき、各病院から医師・看護師を派遣するとともに、各病院のもつ医療機能に応じ、職種ごとに実習生を積極的に受入れた。

〔取組結果及び取組の効果〕

- 54 -

				・医師関係 参照 (p.48-No.6) ・看護師関係 - 新人看護職員技術研修 (信州医療センター) 11 人 - 新人看護師メンター会 (信州医療センター) 11 人 - フィジカルアセスメント研修Ⅱ③ (こども病院) 19 人 ・薬剤師関係 - 新規採用薬剤師等の他病院体験研修 (信州医療センター) 3 人 ○学校、福祉施設等への講師派遣 - シミュレーション演習 (信州木曽看護専門学校) 52 人 - 救命救急特別講座 (信州木曽看護専門学校) 22 人 - 中学生 BLS 研修 (阿南消防署管内 3 校) 68 人 - 医療的ケア生緊急時対応訓練研修会 (寿台養護学校) 21 人 - 長野県保健師専門研修会 (長野県健康福祉部) 12 人
2	【令和 2 年度に推進する事項】 ・ホームページを活用したスキルスラボ等の利用促進	本部	A	・スキルスラボ及びシミュレータ貸出規約の見直しを行い、機構外機関へ貸出可能なシミュレータを21機種から33機種に拡大し、ホームページへの掲載により周知を行った。 ・利用者が、スキルスラボ等を安心して使用できるよう、使用時の感染対策に係る留意事項等を作成し、環境整備を行った。 ○スキルスラボ使用時の感染対策に係る留意事項の作成・掲示 ○スキルスラボ使用時の感染対策チェックシートの作成 ○シミュレータ貸出・返却チェックリストへ感染対策事項を追加 ○スキルスラボに手指消毒用アルコールジェルの設置 【スキルスラボ及びシミュレータ使用実績】 ()内はR元年度 - スキルスラボ使用回数 417回 (337回) - スキルスラボ利用者数 2,352人 (3,064人) - シミュレータ使用回数 395回 (306回)

				シミュレータ利用者数 2,087人 (2,353人) ・新型コロナウイルス感染症の影響により、集合研修が減少しスキルスラボ、シミュレータの利用者数は減少したが、シミュレータを活用した個人トレーニングの使用は増加した。また、スキルスラボの使用は、Web会議や研修での利用により増加した。
3	医療従事者の育成に資するため、医療関係職種の各養成所からの要請に基づき職員を講師として派遣するとともに、学生の実習受入れ等を積極的に行う。	信州	A	・信州木曽看護専門学校、長野県須坂看護専門学校及び佐久大学へ講師として19人派遣した。 ・看護学生等実習指導者養成講習会を看護師4人が受講した。 ・看護師養成校への訪問は、新型コロナウイルス感染症の拡大から中止した。 ・看護師のインターンシップは2回計画した。8月6日に11人の希望者がいたが中止とし、3月18日は12人が参加した。 ・看護師病院説明会は5回開催し、10人が参加した。 ・信州大学、自治医科大学医学部のクリニカルクラークシップ実習受入要請に応じているがCOVID-19感染拡大の影響により中止となった実習もあり例年より受入れ人数が減少しているが、年間9人の医学生を受け入れた。 ・各科で以下の実習生を受け入れた。 看護部 須坂看護専門学校（7月まで実習受け入れ中止） 101人 上尾看護専門学校（通信課程）10月実習は中止 4人 特定行為研修 2人 リハビリテーション技術科 長野保健医療大学 理学療法士 1人 栄養科 長野県立大学 4人 松本大学 1人
4	同上	駒ヶ根	A	・薬学生3人を受け入れ、精神科薬剤師研修プログラムを実施した。 ・医学生5人、看護学生43人、作業療法実習生11人、精神保健福祉援助実習生9人、デイケア実習生を8人受け入れた。 ・医師、看護師を講師として看護学校へ派遣した。（5ヶ所、16人）

5	同上	阿南	A	・飯田女子短大オープンキャンパスへの参加、阿南高校、信州木曽看護専門学校への講師派遣及び実習生の受入れを行った。 講師派遣：阿南高校 12回 木曽看護専門学校 1回 実習生受入：飯田女子短大2回 15人（新型コロナウイルス感染症拡大に伴い実習の短縮・1年生の基礎実習中止） 木曽看護専門学校 4回 18人
6	同上	木曽	A	・当初の受け入れ予定以外に、新型コロナウイルス感染症の影響により他病院での実習が出来なくなった信州木曽看護専門学校の学生の実習を当院で受け入れた。
7	同上	こども	A	・長野県看護大学、信州大学医学部医学科・保健学科、佐久大学、松本短期大学、信州木曽看護専門学校、岡谷看護専門学校、長野県、各市町村、各教育委員会、小学校、保育園等に小児、産科、アレルギー他に係る講師として、Webの利用や現地への派遣により講義を行った。(88件) ・信州大学医学部保健学科及び長野県看護大学の実習生や、信州大学医学部子どものこころの発達医学教室の研修コース受講生の陪席時実習については、感染症対策の面から慎重に対応し、病院間で調整のうえ受入れを行った。
8	【令和2年度に推進する事項】 ・県内の医療従事者を対象とした感染症センター（信州）、精神科研修・研究センター（駒ヶ根）、小児・周産期薬物療法（こども）等の研修の実施	信州	A	・感染症センターにより以下の取組を行った。 日本感染症学会認定施設として感染症専門医を育成 医療機関内で感染制御に関わる薬剤師の短期研修開始に向けた準備 感染症に関する知識を広めるため、研修会の実施 【講師（WEB）：医師】 ＊北信HIVセミナー（WEB）：医療従事者13会場：80人 ＊肺炎球菌ワクチンに関する研修会 福島市医師会（WEB）、大阪市医師会（WEB）、相模原市医師会（WEB） ＊長野市民病院院内感染対策研修会（ライブ・ビデオ）：500人 ＊北信ICT連絡協議会カンファレンス：新型コロナ感染症（WEB）：120人

				【講師（派遣）：感染管理認定看護師】 * 長野県：長野県看護協会主催：「新型コロナウイルス感染症に係る福祉施設等相談」 ・ 自閉症支援施設あおぞら：20人 ・ 総合福祉施設すざかやすらぎの園：7人 * 長野県補助事業：長野県看護協会主催：キャリア形成訪問指導事業 ・ 特別養護老人ホームふるさと苑：15人 * 長野県看護協会主催：看護の力で信州応援プロジェクト（看護出前講座） ・ 社会福祉法人りんどう信濃会 須坂悠生寮：16人 * 須坂市地域医療福祉推進協議会第2専門委員会研修会：20人 * 第2回感染防止対策地域連携カンファレンス：新型コロナ感染症について（WEB） 【講師（WEB）：薬剤師】 * 長野県立病院機構：薬剤師会 「COVID19 患者対応について」（WEB） * 北信ICT連絡協議会カンファレンス：新型コロナ感染症（WEB）：120人 参加者からの事前質問を薬剤師会として回答 【講師（WEB）：検査技師】 * 2020年度第2回微生物検査研究班研修会 「COVID19 患者（疑い含）対応の実際」：61人 * 北信ICT連絡協議会カンファレンス：新型コロナ感染症（WEB）：120人 参加者病院からの事前質問を検査技師会として回答
9	同上	駒ヶ根	A	・ 県内の医療従事者を対象とした「精神科研修・研究センター」による出前講座を4回実施し、107名が参加した。

10	同上	こ ど も	A	・今年度初めて新人薬剤師の他施設研修を実施し、信州医療センターにて5日間研修を行った。 ・県立病院全体で合計4人の他施設研修を実施し、研修報告会を開催した。
----	----	-------------	---	---

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

3 医療従事者の養成と専門性の向上

(4) 信州木曽看護専門学校の運営

〔自己評定〕 A

〔自己評定の理由〕

信州木曽看護専門学校の令和2年度の在学生は76人であり、充足率は84%であった。

第5期生の卒業生は22人であり、うち21人が第110回看護師国家試験に合格した。2人が佐久大学助産学専攻科に進学し、19人が就職した。1人が県外、18人が県内病院への就職であり、地域医療に貢献できる人材を輩出することができた。

コロナ禍において発出された全国緊急事態宣言下では2週間の遠隔授業を余儀なくされたが、その後は感染拡大に留意しつつ、対面授業や病院実習を実施し、学習への影響を最小限にすることができた。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績		
		病院	評定	取組結果及び取組の効果
第1 3(4 1	看護基礎教育の質を確保し、県立病院の持つ医療資源を活かして、地域医療、高度・専門医療等に幅広く対応しうる看護人材を、安定的かつ継続的に育成する。	木 曽 看	A	・令和3年度の卒業生22人中21人が看護師免許を取得し、19人が就職、2人が助産師を目指し進学した。就職者のうち18人が県内の病院へ就職し、更に看護師不足が顕著な木曽、上伊那、飯伊地域へは9人が就職している。また、県立病院機構への就職は9人であり、一定の成果を上げている。

				・県立5病院への実習、また、5病院からの講師の派遣など様々な学習機会を通して地域医療への理解を深めている。 ・環境論など特色あるカリキュラムの運用により地域への理解につながっている。
2	看護護員の確保に向け、看護教員養成講習会を受講させる。	木 曾 看	A	・令和2年度開講の長野県看護教員養成講習会へ母性看護学担当、基礎看護学担当の教員2人を派遣し、9か月間の研修を終了した。教員の研修期間中は、県立こども病院からの助産師の派遣、実習病院の指導体制の強化で、学生の教育環境を整備した。
3	【令和2年度に推進する事項】 ・令和4年度開始の改正カリキュラムに備えた学校運営	木 曾 看	A	・改正カリキュラムの理解を深めるために、中心となる教員を研修に派遣し、その他の教員はWebによる学習会へ参加した。 ・学生の夏季休暇中に3日間の集中会議を行い、現行カリキュラムの評価を行った。 ・中心となる教員2人がスケジュールを立て、月2～3回のペースで会議を企画・運営し、令和3年7月までに必要書類の提出を行う予定である。
4	【令和2年度に推進する事項】 ・入学生の質及び数の確保と看護教員の安定的な確保	木 曾 看	A	・春先は高校訪問ができない状況であったが、郡内の高校と複数人の入学生がいる高校に対し、コロナ禍がやや終息したところを見計らって訪問するとともにガイダンスに積極的に参加した。また、県内の感染レベルをみながら、対面でのオープンキャンパスを実施し、194人の参加を得た。家計急変家庭も多々あり、奨学金の説明を丁寧に行い、個々の相談に応じた。 ・入学試験は3回実施し、大学進学率の高い高校からの応募があり複数の学生が入学した。 ・看護教員については、看護部長打合せ会や本部人事課と情報交換し、適正な人員確保の協力を仰いだ。

5	【年度計画に記載のない事項】 ・新型コロナウイルス感染症への対応	木 曾 看	—	・緊急事態宣言下における休校対応 4月の緊急事態宣言下では2週間の休校を余儀なくされたが、その期間はWebによる講義・面接を実施し、講義の遅れは生じなかった。 ・コロナ禍における実習等の工夫 実習病院と連携し、厳重な学生の行動制限、体調管理のもとほぼ予定通りの実習が行われた。一部小児看護学では実習ができないグループが生じたが、急遽、木曾病院小児科外来での見学実習を取り入れた。また、模擬患者の看護過程の展開を行い、評価はOSCE（客観的臨床能力試験）で行った。 ・感染拡大防止対策 厳重な学生の行動制限と体調管理を基本に、学内では実習中の3年生と1・2年生の住み分けを行い、接触を避けた。同居家族が県外へ仕事に出かけるケースがあったが、保護者と連絡を取り、実習期間中は木曾町への居住を依頼した。 ・新型コロナウイルス感染症の影響に伴う学生支援 家計急変家庭には随時アナウンスし、大学等における修学の支援に関する法律にもとづく奨学金の手続き（6人）授業料の減免措置、Web環境の整備への補助金など各種措置を講じ、家計急変による退学者はゼロであった。
---	--	-------------	---	---

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

4 医療の質の向上に関すること

(1) より安全で信頼できる医療の提供

〔自己評定〕 A

〔自己評定の理由〕

新型コロナウイルス感染症に係る院内の感染対策については、各病院が徹底した対応を行い、院内感染の発生を防ぐことができた。

医療安全相互点検については、新型コロナウイルス感染対策のため、医療安全管理者による点検ではなく各病院の医療安全管理者等で点検を行い、医療安全管理者会議で結果について報告をし、評価を行う方法に変更して実施した。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績		
		病院	評定	取組結果及び取組の効果
第1 4(1) 1	各病院が連携して医療安全対策を推進し、各病院の医療安全の標準化と質の向上に努める。	信州	A	・参照（p.13-No1） ・新型コロナウイルス感染症の発生に伴い、感染症指定医療機関として適切に患者を受け入れるとともに、感染症センターの機能を活かし、行政や他の医療機関と連携して新型コロナウイルス感染症の早期収束に向けた取り組みを行っている。

	院内感染防止のため、県立病院間で情報の共有を図りながら、発生予防と拡大防止対策を推進する。			
2	同上	駒ヶ根	A	・参照（別冊2 p.4-No.2）
3	同上	阿南	A	・参照（別冊2 p.5-No.3） ・医療安全自己点検チェックシートを使用し、各部署のリスクマネージャーと共に自己点検を実施。点検結果から課題を見出し、改善策の検討を行い医療安全の質向上を図った。 ・新型コロナウイルス感染症入院患者の受入れの際、信州医療センターの感染管理認定看護師に来院してもらい、感染者入院病室の取扱いやPPEの着脱方法についてアドバイスを受けた。また木曽病院との合同カンファレンスを通し、情報の共有化を図った。
4	同上	木曽	A	・参照（別冊2 p.6-No.4） ・各部署のリスクマネージャーによる医療安全推進部会を毎月実施した。また、6月から3月にかけて院内巡視で各部署の点検を行い、医療安全への意識を高めた。
5	同上	こども	A	【感染対策】 ・参照（別冊2 p.7-No.5） ・新型コロナウイルス感染症の流行をきっかけに、病院機構の医療安全管理者会議のような、感染管理者会議設置の必要性が生じたため、企画を立ち上げ、ワーキンググループ会議を2回実施した。 【医療安全】 ・コロナ禍であったが、テレビ会議及びメール会議を含め医療安全管理者会議を12回実施した。繰り返すインシデント事象及びレベル3a以上は振り返りシートを用い対応策

				を各部署と検討し、3か月後に評価を行った。対応策に関しては、各部署の医療安全推進者と共にラウンドを行い、実施されているか確認した。
6	同上	本部	A	- 院内感染対策の徹底、県立病院として県の感染症対策への協力等について、理事会を始めとした各種会議において指示及び通知（5件） - 新型コロナウイルス感染症長野県対策本部からの情報を、適時に病院等に周知（27件）
7	【令和2年度に推進する事項】 ・医療安全相互点検の実施及び医療安全管理研修会の開催	信州	A	- 新型コロナウイルス感染症の感染対策を考慮し、相互点検を中止とした。現状でできる方法として、自施設の自己点検を行った。（栄養科、南7階病棟）避難経路図がない、脱衣所にナースコールがない等、指摘があり改善をした。 - 医療安全研修会はすべてオンライン研修会とし、2回開催した。 第1回 患者誤認や取り違いによる医療事故防止対策 参加数422人 第2回 インシデントアクシデントの目的と必要性 参加数453人
8	同上	駒ヶ根	A	医療安全管理研修会を開催した。（2回）
9	同上	阿南	A	7月に放射線安全管理研修会を3回開催 8月に薬剤安全管理研修会を開催 11月にスキンケア学習会をWebで開催 なお、令和2年度からナースィングスキルを活用しての研修会を行うことで、多くの参加者を確保し医療安全に関する知識の習得、資質の向上を図った。 - 医療機器安全管理研修会を13回開催
10	同上	木曽	A	- 機構全体で行ったチェックシートを用いた相互点検をTV会議にて参加した。 - 医療安全研修会はナースィングスキルを活用し、2回開催した。 第1回 医療安全の基本を知る 参加率83% 第2回 臨床現場に心理的安全があるとき、ないとき 参加率67%

				・院内BLS研修会について、当院医師を講師に9回開催した。
11	同上	こども	A	・10月27日と10月30日に臨床工学科及び手術室で相互点検を実施した。令和元年度のPICUと放射線科の再点検で指摘された部分は、改善していることを確認した。 ・コロナ禍のため、他施設からの点検はできなかったが、当院の担当で実施し、その結果をもとに医療安全管理者会議で評価を行った。 ・医療安全管理者研修会を6月と12月にWebで実施した。出席率は99%、100%となった。
12	同上	本部	A	・医療安全相互点検は新型コロナウイルス感染対策のため、医療安全管理者による点検ではなく各病院の医療安全管理者等で点検を行い、医療安全管理者会議で結果について報告をし、評価を行う方法に変更して実施した。 ・医療安全管理研修は新型コロナウイルス感染症の感染対策上実施することができなかった。
13	【令和2年度に推進する事項】 ・感染症発生時を想定した院内及び関係機関との伝達訓練の実施	信州	A	・新型コロナウイルス感染症院内発生に備えて院内PPE訓練を実施した。
14	同上	駒ヶ根	A	・感染症、災害・事故等発生時において速やかな対応を行うため、「災害時通信アプリ」を利用し、訓練を行うとともに緊急時に全職員へ情報を提供した。
15	同上	阿南	A	・新型コロナウイルス感染症の発熱外来患者の受け入れのため、3回にわたるシミュレーションを実施した。
16	同上	木曽	A	・院内感染対策研修会を1回開催した。 ・保健福祉事務所等関係機関と連携し、新型コロナウイルス感染症陽性患者等の受入れ、発熱外来の運営等を行った。

17	同上	こ ど も	A	・COVID-19対策本部会議を立ち上げ、職員への情報伝達の方法及び内容を取り決めた。 また、オクレンジャーを使用するため、未登録者に対し登録を促した。
----	----	-------------	---	---

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

4 医療の質の向上に関すること

(2) 医療等サービスの一層の向上

〔自己評定〕 A

〔自己評定の理由〕

各病院においては、患者満足度調査の結果を参考によりよい患者サービスの提供に努めた。

阿南病院では、患者の利便性を図るため、訪問診療、訪問看護、訪問リハビリの利用患者を対象として診療費の口座振替を開始した。

こども病院では、慢性疾患児等に対し、地域の教育支援者や福祉関係者と連携した学習支援及び就労支援を行った。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績		
		病院	評定	取組結果及び取組の効果
第1 4(2) 1	患者満足度調査により患者及び家族の要望・要求を把握・分析した上で、よりよい患者サービスの提供に努める。 患者の病院選択に資する臨床評価指標及び医療の質の評価指標の提供や、ACP（アドバンス・ケア・プランニング）の実践に向けた	信州	A	- 患者満足度調査を実施し患者対応力の向上を図った。 10月19日から外来及び入院患者アンケートを配布・回収し、管理者へ報告を行った。また、集計・分析結果の報告会を開催し、職員間での情報共有と改善策検討を行った。 - サービス向上委員会において、下記事業を実施した。 「接遇標語」を作成し、院内に掲示 全職員対象の接遇研修を実施（職員の80%以上が参加）

	検討等、患者サービスの一層の向上に努める。			各パートの「いいところ探し」を募集し、20部門から21の「いいところ」を院内掲示
2	同上	駒ヶ根	A	・調査結果は、入院、外来ともに令和元年度に比較して満足度が上昇した。(回答者 入院69人、外来287人) ・この調査結果について運営会議で報告するとともに、セクションごと結果の考察と今後の対応について検討し、満足度の向上・維持への取組みを進めた。
3	同上	阿南	A	・地域の薬剤師との連携の維持、病棟専任薬剤師の配置等により、病棟薬剤業務の強化を図った。 ・時間予約制や眼科、泌尿器科、整形外科、精神科の午後診療の周知により、患者の利便性の向上を推進した。 ・訪問診療、訪問看護、訪問リハビリの利用患者を対象に、診療費の口座振替を開始した。 ・サービス向上・接遇委員会においては接遇対応の月間目標の設定、また、経営企画会議においては満足度調査の分析から改善策を検討し実施することで、患者サービス意識の向上に努力した。
4	同上	木曾	A	・患者満足度調査の報告会を開催し結果を共有することで患者サービスの向上を図った。(回答 入院72名、外来142名) ・患者の利便性の向上を図るため、耳鼻咽喉科外来について、令和2年12月より予約制を開始した。 ・サービス向上委員会で「接遇標語」を作成し、院内各所に掲示し周知した(2月に1回)。 ・接遇の改善を図るために、身だしなみチェックを実施した。 ・5月及び10月に、木曾病院を守る会の協力のもと、プランターに花の苗を植え、入口や中庭に配置した。
5	同上	こども	A	・患者満足度アンケート回収数は入院が89件(前年度比△40件)、外来が223件(前年度比29件)となった。 ・入院患者満足度調査の結果から、概ね令和元年度結果と同等又は上昇しているが、「再利

				用意向」「便利さの満足」が低下した。 ・医師及び看護師への満足度は調査項目全て令和元年度より上昇し、医療技術部門及び事務職への満足度は薬剤師、放射線技師、会計窓口が令和元年度より低下した ・外来患者満足度に関する項目は、全てが令和元年度を上回った。 ・自由記載の内容を参考に、各部署で話し合いを行い、対策を立て実践している。 ・内容をホームページへ掲載及び家族ラウンジにて閲覧できるようにし、公開を行った。																											
6	【令和2年度に推進する事項】 ・医療の質の向上と病院運営の透明化のため 病院機能評価の更新	駒ヶ根	A	・病院機能評価の更新は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、令和3年度に延期となった。 ・入院から退院までの診療・看護を遂行していく過程（ケアプロセス）について、多職種によるチーム医療の実施状況を検証した。																											
7	【令和2年度に推進する事項】 ・患児の適性に配慮した就学、就労サポートを実施できる窓口の開設を検討	こども	A	<table><tr><th>項 目</th><th>人 数</th><th>年度 目標</th><th>対目 標比</th><th>前年度 実績</th><th>対前年 度比</th><th>内 容</th></tr><tr><td>就 労 支 援相談</td><td>延べ15人</td><td>－</td><td>－</td><td>延べ22人</td><td>68.2%</td><td>就労に対する不安や悩み、就労準備のアドバイス、転職、体調不良、集団講和の開催など</td></tr><tr><td>就 学 支 援相談</td><td>延べ15人</td><td>－</td><td>－</td><td>延べ1人</td><td>1500%</td><td>学力低下、授業についていけない、いじめ、進学・進路など</td></tr></table> 【就労支援】 ・令和元年9月に開設し、個別指導、集団講話（令和2年度はコロナで中止）、カンファレンス、適性検査を実施し、個別の面談を行った。令和2年度に希望があり関わった慢性疾患児は延べ15人、年齢は15歳～32歳であった。							項 目	人 数	年度 目標	対目 標比	前年度 実績	対前年 度比	内 容	就 労 支 援相談	延べ15人	－	－	延べ22人	68.2%	就労に対する不安や悩み、就労準備のアドバイス、転職、体調不良、集団講和の開催など	就 学 支 援相談	延べ15人	－	－	延べ1人	1500%	学力低下、授業についていけない、いじめ、進学・進路など
項 目	人 数	年度 目標	対目 標比	前年度 実績	対前年 度比	内 容																									
就 労 支 援相談	延べ15人	－	－	延べ22人	68.2%	就労に対する不安や悩み、就労準備のアドバイス、転職、体調不良、集団講和の開催など																									
就 学 支 援相談	延べ15人	－	－	延べ1人	1500%	学力低下、授業についていけない、いじめ、進学・進路など																									

		【学習相談】 ・令和２年２月に開設し、令和２年度に希望があり対応した慢性疾患児は延べ15人。年齢７歳～17歳であった。相談をもとに地域の関係者会議につなげたケースもあった。今後も慢性疾患児の適切な就学・就労支援を教育支援者や福祉関係者と協働しながら、社会参画を促し、自立した生活が送れ、納税者として社会貢献できるように伴走者としての役割を担っていく。また、協力してくれる多くの地域支援者を見つけていく必要がある。
--	--	--

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

4 医療の質の向上に関すること

(3) 先端技術の活用

〔自己評定〕 A

〔自己評定の理由〕

信州医療センター及び木曽病院では、一部の外来診療科においてA I問診サポートを導入し、患者待ち時間の短縮や診療の効率化を図った。
各病院では、新型コロナウイルス感染症対策のためオンライン面会をや電話診療を実施し、患者の利便性を図った。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績		
		病院	評定	取組結果及び取組の効果
第1 4(3) 1	訪問診療等における遠隔診療の実施や、電子カルテの相互参照、モバイル端末による医療従事者間の情報共有等、医療分野における先端技術の活用により、医療従事者の負担軽減及び業務の効率化を推進するとともに、地域の診療機能の充実を図り医療・介護サービスを提供する。 【令和2年度に推進する事項】	信州	A	・信州メディカルネットは、平成31年1月の新電子カルテ運用開始に伴い、未接続とした。それに代わるものとして、須高地域の医療機関との連携を強化し、診療情報を共有するID-Linkを利用した「須高医療連携ネットワーク」の運用について、須高医師会と協議・検討を行い、仕組みを構築した。 ・外来の一部診療科でタブレットによるA I問診サポートを導入し、医師、看護師における問診時間の削減、カルテ記載業務の大幅な効率化、患者との対話時間の増加及び診療待ち時間短縮による患者満足度の向上を図った。 ・新型コロナウイルス感染症患者・家族のオンライン面会を実施した。(30回以上)

	・外来の一部診療科でタブレットによる AI 問診サポートの導入の検討(信州)							
2	同上	駒ヶ根	A	・新型コロナウイルスの確定診断を行うため、信州医療センター、木曽病院に当院電子カルテモバイル端末を配置し、呼吸器専門医によるコンサルテーションを行った。 ・院内のインターネット環境を再整備し、オンライン面会を開始した。(200件) また、Web研修やオンラインでの支援会議、公開講座を実施する機器や体制を整備した。				
3	同上	阿南	A	・院内医療情報システムと信州メディカルネットを接続し、相互データ参照・公開を行った。 ・院内のインターネット環境を整備し、オンライン面会を実施した。(11件)				
4	同上	木曽	A	・ビデオ通信機能を使用したオンライン診療の導入に向けワーキンググループを立ち上げ、小児科において試行を開始した。 ・信州メディカルネットのリモートカルテ機能を活用し、非常勤医師や拘束医師への相談機能を強化した。 ・新型コロナウイルス感染症対策で面会禁止となっている入院患者にオンラインによる面会体制を整備した。(令和2年度実績 446件)				
5	同上	こども	A	<table><tr><th>項 目</th><th>実 績</th></tr><tr><td>電話診療実施件数</td><td>125件</td></tr></table> ・来院の必要が無い患者に対する電話診療による処方箋の発行については、診療体制を継続し、十数人の外来担当医師が利用している。 ・面会制限に伴い、i P a dを活用し院内でテレビ電話による面会を行った。 また、病院外からのオンライン面会システム導入の検討を行い、令和3年度から実施を予定している。 ・院内におけるWeb会議の推奨を継続して業務の効率化と感染防止に寄与した。 ・薬剤部では、メーカーの新薬説明会や情報提供はオンラインによる面談に切り替えて実施した。	項 目	実 績	電話診療実施件数	125件
項 目	実 績							
電話診療実施件数	125件							

6	【令和2年度に推進する事項】 ・モバイル端末の活用による医療従事者間の 情報共有の推進	阿 南	A	・訪問診療時のモバイル端末の活用による電子カルテ等の参照、医療従事者間の情報共有を推進した。
7	同上	木 曾	A	・医師及び看護師の負担軽減及び患者サービスの向上のため、外来の一部診療科（内科）でタブレットによるAI問診サポートを導入した。来院前にWebにより問診票への入力ができるなど、初診患者の待ち時間の削減等の負担軽減を実現した。

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

4 医療の質の向上に関すること

(4) 信州大学等との連携

〔自己評定〕 A

〔自己評定の理由〕

こころの医療センター駒ヶ根及びこども病院は、信州大学との協定に基づく連携大学院教育により、臨床業務に携わりながら研究活動を行う医学博士取得を目指す医師を養成した。

信州医療センターは、総合内科医の養成と定着を推進するため、令和3年3月に信州大学と協定を締結し、寄附講座開設に向けた準備を行った。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績		
		病院	評定	取組結果及び取組の効果

第1 4(4) 1	こころの医療センター駒ヶ根及びこども病院における信州大学との連携大学院教育等により、職員の研究活動を推進し専門性の高い医師等の養成を行う。 【令和2年度に推進する事項】 ・連携大学院教育による勤務医の博士号の取得及び職員の研究活動の促進	駒ヶ根	A	・連携大学院教育による勤務医の博士号取得に係る研究を実施した。 (臨床での指導2人)																							
2	同上	こども	S	(連携大学院) <table><tr><td>項目</td><td>実績</td><td>年度目標</td><td>対目標比</td><td>前年度実績</td><td>累計</td></tr><tr><td>入学者数</td><td>2人</td><td>－</td><td>－</td><td>4人</td><td>6人</td></tr><tr><td>セミナー開催</td><td>7回</td><td>－</td><td>－</td><td>4回</td><td>対前年度比175%</td></tr></table> ・信州大学との連携大学院が開講2年目に当たり、第一期生4人の研究が進行した。 ・令和2年度はさらに2人が入学し、合計6人の研究指導がそれぞれの部署で進められた。 ・連携大学院セミナーでの指導が定着し、多部署からの参加があり、院内の研究マインドの涵養に寄与した。 ・令和3年度の入学希望者3人が受験し、全員合格した。 ・当初、年間2人程度であった事と比較すると、確実に大学院教育と研究が充実してきていると言える。						項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	累計	入学者数	2人	－	－	4人	6人	セミナー開催	7回	－	－	4回	対前年度比175%
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	累計																						
入学者数	2人	－	－	4人	6人																						
セミナー開催	7回	－	－	4回	対前年度比175%																						
3	県と信州大学との地域医療の推進に関する覚書に基づき、県立病院と信州大学医学部附属病院との電子カルテの統一等について検討する。	本部	－	・信州大学医学部附属病院との定例的な検討会を令和元年度からの開始を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から実施しなかった。																							

4	【令和2年度に推進する事項】 ・「子どもの心の診療ネットワーク事業」による児童精神科医の育成	駒ヶ根	A	・子どものころ公開講座をWeb開催し、小児科医等5人が参加した。(その他、関係者の参加160人)
5	同上	こども	B	・県から「発達障がい診療専門家現地派遣事業」の一部委託を受け、信州大学医学部附属病院、こころの医療センター駒ヶ根とともに、県内10圏域の地域連携病院と保健福祉事務所で企画する研修会に、講師として専門家を派遣し、各地域における発達障害診療のネットワークづくりに寄与した。 ・感染症拡大防止のため各圏域での連携会は7回、参加者数は692人と、回数・参加者数ともに前年の半数となった。また、医師向け研修会はWeb配信で実施し、97人が受講し、かかりつけ医の発達障害理解促進に寄与した。
6	【年度計画に記載のない事項】 ・信州大学と連携した寄附講座の開設	信州	－	・総合内科医の養成と定着を推進するため、令和3年3月に信州大学と協定を締結し、寄附講座開設に向けた準備を行った。 ・参照（P.46 -No1）

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

4 医療の質の向上に関すること

(5) 医療に関する研究及び調査の推進

〔自己評定〕 A

〔自己評定の理由〕

各病院では、学会、公開講座及び出前講座等において、またホームページや各種メディアを通じて、各病院で行った調査研究の成果を、積極的に情報発信し県民の健康増進に貢献した。

「令和元年度長野県立病院機構年報」においては、機構発足10年を振り返る寄稿文とともに、第1期及び第2期中期計画期間の統計データを掲載し、資料としての価値を高めた。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績		
		病院	評定	取組結果及び取組の効果
第1 4(5) 1	臨床研究を推進して研究機能を向上させ、医療技術・医療水準の向上に努める。 病院機構が行っている取組や研究の成果を、テレビや新聞、ホームページ、公開講座等を通じて広報する。	信州	A	・学会、講演会、出前講座、院内研修会等の活動を病院ホームページにて公開した。 ・須坂市報への当院の情報掲載を継続した。なお、須坂市報8月号、12月号における新型コロナに関する特集企画では、当院の役割や取組みや住民への注意喚起等地域へ向けた情報発信を行った。 ・院外広報誌「かがやき」を5月、6月（号外）、10月、2月に発行し、須高地域に全戸

				配布を行った。 ・医療に関する職員の学術研究や講演会活動実績をホームページにて公開した。 ・マスメディアを利用した病院広報・PRにより健康に関する関心を高め、地域の健康増進に寄与した。 ・新聞掲載 - 信濃毎日新聞 7回（新型コロナ、運営協議会、寄附講座協定締結等） - 須坂新聞 7回（特定行為研修開講式、運営協議会、新型コロナ等） ・テレビ出演 - Goolight「子育てポケット」（コロナ禍の妊娠・出産、妊娠中の生活習慣） - その他コロナウイルス関連で感染症専門医師が各局の取材に対応
2	同上	駒ヶ根	A	・公開講座 3件、参加者290人 10月「令和2年度長野県依存症研修会」（講師 副院長 犬塚伸 他）聴講者 約50人 12月「認知症疾患医療センター研修会」（講師 院長 埴原秋児 他）聴講者 約80人 2月「キレるはこころのSOS」（講師 副院長 原田謙）聴講者 約160人 ・出前講座 14件、参加者389人 - 精神疾患について 4回 89人 - アルコール依存症 2回 80人 - ソーシャルスキルトレーニング（SST）2回 18人 - 心理的応急処置（PFA） 1回 27人 - ゲートキーパー養成 5回 175人 ・新聞掲載 - 信濃毎日新聞 3回（依存症拠点機関指定、災害協定等） - 中日新聞 3回（依存症拠点機関指定、災害協定等） - 長野日報 3回（依存症拠点機関指定、災害協定等）

				医療タイムス 5回（依存症拠点機関指定、病院運営協議会等） 読売新聞 1回（依存症拠点機関指定） 朝日新聞 1回（依存症拠点機関指定） 月刊かみいな 12回（月1回掲載 依存症、精神科看護、児童・思春期精神等）																								
3	同上	阿南	－	・医療講演会、出前講座などを計画したが、新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった。																								
4	同上	木曾	A	・木曾病院年報に研修・研究の取組み内容及び成果を掲載した。 ・業務実績、医療の質、病院情報についてホームページへ掲載し、情報発信を行った。																								
5	同上	こども	A	・英文専門誌（PubMed掲載論文）に採択された論文は30編。うち8編は生命科学研究センター研究員による研究論文であった。 ・院内規程による臨床医学研究助成制度において、新たに6人の研究を採択し研究を支援した。 <table><tr><td>項 目</td><td>実 績</td><td>年度目標</td><td>対目標比</td><td>前年度実績</td><td>対前年度比</td></tr><tr><td>院内公募採択件数</td><td>7件</td><td>－</td><td>－</td><td>15件</td><td>（比較不可能）</td></tr></table> （令和元年度まで2年に1回（研究期間2年）の募集であったが、令和2年度から毎年公募（研究期間2年）となったため比較なし。） ・「長野県立こども病院医学雑誌」への投稿を推奨し、多職種により研究成果を発表した。 また、臨床医学研究助成制度による研究支援期間が終了した9人も研究成果を報告した。 <table><tr><td>項 目</td><td>実 績</td><td>年度目標</td><td>対目標比</td><td>前年度実績</td><td>対前年度比</td></tr><tr><td>投稿論文数</td><td>13件</td><td>－</td><td>－</td><td>8件</td><td>162.5%</td></tr></table> ・生命科学研究センターが関わった研究に関しては同センターのホームページで公開した。 ・病院の医学指標を機構本部のホームページで、また各診療科での診療実績や手術成績	項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	院内公募採択件数	7件	－	－	15件	（比較不可能）	項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	投稿論文数	13件	－	－	8件	162.5%
項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																							
院内公募採択件数	7件	－	－	15件	（比較不可能）																							
項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																							
投稿論文数	13件	－	－	8件	162.5%																							

				については当院のホームページで公開した。 ・院内外向け広報誌「しろくまニュースレター」を年6回発行した。
6	【令和2年度に推進する事項】 ・科研費の活用による研究の促進と最先端医療に対応できる人材の育成	こども	A	・外部研究資金の窓口一本化を実現し、研究活動推進の基盤環境を整備した。 ・生命科学研究センターが文部科学省科学研究費における研究機関に指定されてから、初めての申請として5課題、他施設（大学）の研究に当院の職員が研究分担者として参画予定の課題（1件）を申請した。 ・厚生労働省科学研究費等の外部資金による研究に11課題、7名の医師が分担研究者として参画し研究を行った。
7	【令和2年度に推進する事項】 ・県立病院の担う医療、各種データ、研究成果等を網羅した「機構年報」の発刊	本部	A	・「令和元年度長野県立病院機構年報」について、通常の県立病院が担う医療や各種データに加え、第1期、第2期中期計画期間の統計データを併せて掲載し、資料としての利用価値を高めた。また、機構発足10年を振り返る寄稿文を記載し、令和3年1月に発刊した。

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 業務運営体制の強化

〔自己評定〕 A

〔自己評定の理由〕

医療組織にふさわしい人事評価制度の構築のため、「人事評価検討ワーキンググループ」による検討を進め、8月に「人事評価制度の基本方針（素案）」を作成し、令和2年度後半から新しい人事評価制度を試行的に導入した。

木曽病院は、時間当たり採算指標を用いた職員の経営参画を促す仕組み（京セラ式アメーバ経営）導入のため、部門ごとに面談を実施するなど、院内の仕組みの構築を進めた。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績		
		病院	評定	取組結果及び取組の効果
第2 1 1	医療組織に適した人事評価制度を構築するとともに、医療環境の変化に柔軟に対応し、医療機能や病院規模に応じた適切な職員配置を進める等、的確な組織・人事運営を行う。	信州	A	・医療サービスの内容によって職員を配置している。 ・医師については、泌尿器科の常勤医を確保し、患者数及び手術件数の増加と収益確保に努めた。 ・看護師については、適正な人員数と配置場所について検討を行い、限られた人員を効果的に活用するという意識の変化がみられた。 ・全産育休者を対象にして、キャリアシート及び妊娠時の手続きフローシートを活用した面談を実施し、復帰に向けた支援を実施した。

2	同上	駒ヶ根	A	・新たな人事評価制度の試行的な導入に伴い、院長と医師の面談、部門長と職員の面談を実施した。また、評価の精度と公平性を上げるため、院内の人事評価委員会において総合評価を実施した。
3	同上	阿南	A	・令和2年8月1日に人事評価委員会を設置。令和3年3月9日に人事評価委員会を開催し評価結果の確定を行った。 ・病棟看護師の業務負担軽減を図るべく病棟の看護補助者（3名）を増員した。
4	同上	木曾	A	・毎月の運営委員会にて経営状況表及び経営改善ニュースを発行し、経営状況及び経営改善の取組みについて情報を共有した。特に経営改善ニュースに「きそっぴーの皮算用」コーナーを設け、指導料・管理料の算定状況を分かりやすく伝えることにより、診療単価の向上を図った。
5	同上	こども	S	・当院に適した新たな人事評価制度を検討し、医師のみを対象としていた行動評価の多面評価方式を全所属に拡大し、各部署の双方向多面式評価を取り入れた「県立こども病院における新人事評価制度の運用について」により実施した。 ・薬剤師の産休代替職員の応募がなかったため、機構で初めて派遣契約による薬剤師を2名確保した。
6	同上 【令和2年度に推進する事項】 ・職員の人材育成に主眼を置いた新たな人事評価制度の試行的な導入	本部	A	・医療組織にふさわしい人事評価制度の構築のため、「人事評価検討ワーキンググループ」による検討を進め、8月に「人事評価制度の基本方針（素案）」を作成するなど、令和2年度後半から新しい人事評価制度を試行的に導入した。
7	職員満足度調査等を活用し、職員が意欲を持って働くことのできる職場環境の整備に努める。	信州	A	・10月に職員組織文化に関する調査を実施し報告書により管理者への報告を行った。

8	同上	駒ヶ根	A	・現場の職員のモチベーションアップと融和を図るため、院長と職員との懇談会を開催するとともに、院内広報誌「猫べんちのつぶやき」を発行した。（懇談会2回開催、広報誌6回発行） ・コロナの感染対応に努めた職員及びセクションを中心に、感謝のメッセージを贈り、前述の院内広報誌でその内容を紹介した。															
9	同上	阿南	A	・職員のモチベーションアップや職務満足を図るために、経営企画会議において満足度調査の結果の分析を行い、改善策を検討した。															
10	同上	木曾	A	・職員満足度調査の実施 10月に調査を実施し、調査結果について報告会を実施した。 ・院長、看護部長、事務部長による「院内巡回ミーティング」を実施し、職員からの要望・意見等を収集し、必要な対策を実施した。															
11	同上	こども	S	・看護部師長会小チーム活動を行い、超過勤務削減に努めた。令和元年度比較では、1人平均5.74時間/月削減できた。また、各師長と専門スタッフが協力し、祝日代休取得や年休消化を進めた。祝日代休は一人平均3.87日/月増加し取得できた。年休消化は目標値を10日/年とし取り組んだ。結果一人平均10.6日/年（2.8日/月増加）取得できた。 ・神経小児科では、カンファレンス時間の見直しを行い、超過勤務削減につなげた。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>部 署</th><th>手当額実績</th><th>前年度手当額</th><th>対前年度増減</th><th>対前年度比</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>看護部</td><td>92,938,424円</td><td>145,853,520円</td><td>△52,915,096円</td><td>63.7%</td></tr> <tr> <td>神経小児科</td><td>12,128,969円</td><td>17,243,875円</td><td>△5,114,906円</td><td>70.3%</td></tr> </tbody> </table>	部 署	手当額実績	前年度手当額	対前年度増減	対前年度比	看護部	92,938,424円	145,853,520円	△52,915,096円	63.7%	神経小児科	12,128,969円	17,243,875円	△5,114,906円	70.3%
部 署	手当額実績	前年度手当額	対前年度増減	対前年度比															
看護部	92,938,424円	145,853,520円	△52,915,096円	63.7%															
神経小児科	12,128,969円	17,243,875円	△5,114,906円	70.3%															
12	同上	本部	A	・9月に組織文化調査結果の報告会を局内にて実施した。4年前の調査開始当初から比べると全ての評価軸で改善しているが、情報共有、組織の価値観、責任と権限といった評価軸でベンチマークよりも低い傾向が見られた。 ・新たな取組として、週1回の幹部会議の参集範囲を課長以上に拡大し、課題共有や責任の明確化に努めたほか、課を横断した構成員による本部適正人員配置検討会を立上げ、月1回ペースで業務改善を含めた検討を継続実施している。															

13	病院運営に一体的に取り組むため、経営状況や経営改善の取組について情報共有に努める。	信州	A	・部長会議、理事会において月次決算（前月の経営状況）を示し、また各病院においても運営会議等の場で活用され、収益向上・費用削減の取り組みが図られた。 ・役職者を対象とした毎月の運営会議では、医事課での分析結果による患者状況の把握と会計決算係による収支の分析結果を組織全体で把握している。 ・毎月の全体朝礼で院長から、経営状況や課題等の説明、損益分岐点となる病床稼働率と医療看護必要度を維持するための病床運用への協力の呼び掛けがなされた。							
14	同上	駒ヶ根	A	・毎朝実施しているベッドコントロール会議において、入院患者の情報共有を行い、病棟ごとの空床状況を確認し、病床利用率の目標達成に向けた調整を実施した。 ・毎月の病院運営会議において、組織全体の課題の検討及び業務の進捗状況、経営状況を共有した。 ・「病院運営会議だより」を毎月発行し、グループウェアにより全職員に対して決定事項及び経営状況を周知した。							
15	同上	阿南	A	・院内各部署における日頃の業務内容や調査研究、業務改善の取り組み等の報告を行う院内情報交換会を開催した。							
16	同上	木曽	A	・毎月の運営委員会にて経営状況表及び経営改善ニュースを発行し、経営状況及び経営改善の取組について情報を共有した。							
17	同上	こども	A	・月2回会議を実施した。病院の経営状況を確認するとともに、未来志向型のプロジェクトを策定し14件のプロジェクトを立案した。そのうちニューロケア（神経治療）センターの開設・P I C Uの運用変更など8件を実施することができた。							
				項 目		立案件数実績		実行件数実績			
				経営企画室プロジェクト		14件		8件			
				項 目		増収額実績		経費削減額実績		経営改善総額	
				経営改善実績		56,337,007円		85,180,454円		141,517,461円	

18	同上	本部	A	・理事会や院長会議等において、前月の経営状況について報告し、機構内で情報を共有した。
19	【令和2年度に推進する事項】 時間当たり採算指標等を用いた職員の経営参画を促す仕組みの構築	木曾	A	・時間当たり採算指標を用いた職員の経営参画を促す仕組みを構築した。 ・毎月、京セラコミュニケーションシステム株式会社のコンサルタントと部門リーダーとの面談を実施し、経営参画意識の醸成を働きかけた。 ・月ごとの時間当たり採算表を作成し、部門リーダーと採算指標の数値を共有した。 ・部門ごとの年間計画及び2ヶ月ごとの計画をBSCにより作成し、毎月実績の振り返りを行い、BSCの内容が時間当たり採算表の数値に反映しているかを確認しながら取組みを進めた。 ・3月に1年間の取組みについての全体での報告会を開催し、部門ごとの取組み及び成果を発表し職員の士気を高めた。

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

2 働き方改革への対応

〔自己評定〕 A

〔自己評定の理由〕

全所属における労働時間の適正把握のため、機構独自の勤怠管理システムによる管理を行った。

信州医療センターは、看護職員のユニフォーム2色制の導入により、職員の定時退勤や超過勤務の削減に効果があった。

各病院は、業務の見直しや医師事務作業補助者の増員等による医師のタスク・シフティングを推進するなど、令和6年度から適用される医師の時間外労働の上限規制への対応に向けた体制準備を進めた。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績		
		病院	評定	取組結果及び取組の効果
第2 2 1	医師の健康確保と地域医療の確保の観点から、訪問診療時に利用可能な遠隔医療等の先端技術の活用や、他職種へのタスク・シフティング（医行為の一部を他の職種へ委譲すること）、交代制勤務の導入等、職員の働き方を工夫する。	信州	A	・令和2年1月からICカードによる出退勤管理を開始し、職員の労働時間の状況の的確な把握に努めた。 ・タスク・シフティングへの取組みとして、令和2年2月に看護師特定行為研修指定研修機関としての指定を受け10月に開講した特定行為研修を当院職員2人が受講中。 ○看護職員ユニフォーム2色制導入 ・令和2年7月から、職員同士の指示の効率化や超過勤務の縮減等を目的に、看護職員のユニフォームを日勤帯（白色）と夜勤帯（緑色）で色分けをする看護職員ユニフォーム

				2色制を導入した。 ・導入6ヶ月後にアンケートを実施し、他職種からは指示・伝達がしやすくなったと評価を得ている。 ・看護職員の時間外勤務の削減 ・職員全体の定時退勤への意識の向上												
2	同上	駒ヶ根	A	・医師事務業務の削減と書類作成の迅速化を進めるため、外来クラークを2人配置し、医師のタスク・シフティングを推進した。 ・夜間の電話対応等、緊急以外の患者からの相談業務を外来診療時間内に移行し、看護当直の業務の負担を軽減した。												
3	同上	阿南	A	・医師事務作業補助者の業務を拡大し、また、非常勤医師による日当直業務を増やすことにより医師の負担軽減を図った。さらに、訪問診療や巡回診療にモバイル端末を活用することにより、診療の効率化を図った。 ・看護師の二交代制を導入した。 ・病棟看護師の業務負担軽減を図るべく病棟の看護補助者（3名）を増員した。（再掲） ・日直看護師を日勤勤務とし、負担軽減を図った。												
4	同上	木曾	A	・医師の負担軽減のため、医師事務作業補助者を増員した。（3名→5名） ・信大医師によるスポット当直精度を導入し、医師の負担軽減を図った。（実績 2件） ・各部署の会議等の開催状況を調査し、簡略化等の見直しを推進した。 ・職員の負担軽減のため、ロビーでの受付補助や患者の案内・介助等のボランティアの活用を検討した。 ・京セラ式アメーバ経営の取組みの一環として、部署間で連携し、余裕のある部署が忙しい部署を手伝うしくみを用いて職員の負担軽減を推進した。												
5	同上	こども	A	<table><tr><td colspan="4">【院内保育所夜間保育開始】</td></tr><tr><td>項 目</td><td>実施日数</td><td>利用者数</td><td>延べ利用者数</td></tr><tr><td>夜間開所実績</td><td>28日</td><td>3人</td><td>42人</td></tr></table>	【院内保育所夜間保育開始】				項 目	実施日数	利用者数	延べ利用者数	夜間開所実績	28日	3人	42人
【院内保育所夜間保育開始】																
項 目	実施日数	利用者数	延べ利用者数													
夜間開所実績	28日	3人	42人													

				・多様な働き方へ対応するため、日中のみ開所としていた院内保育所について、新たに夜間保育を開始し職場環境を整備した。その結果、3人の職員が利用し、延べ利用者数は42人であった。 【泌尿器科領域の腹部の超音波検査技師の育成】 <table><tr><th>項 目</th><th>実 績</th><th>年度目標</th><th>対目標比</th><th>前年度実績</th><th>対前年度比</th></tr><tr><td>育成人数</td><td>1.0人</td><td>－</td><td>－</td><td>0.5人</td><td>200.0%</td></tr></table> ・令和元年9月にプロジェクトを開始し、令和2年度は診療体制の都合で100%の進捗は得られなかったが、医師の業務軽減に寄与できる検査技師が1人育成できた。	項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	育成人数	1.0人	－	－	0.5人	200.0%
項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比											
育成人数	1.0人	－	－	0.5人	200.0%											
6	同上	本部	A	・職員の当直明け等の勤務の扱いについて、当直中の急患対応等により、十分な休息又は睡眠が確保できない場合は、年次休暇の取得促進のほか、健康確保の観点から職務専念義務免除を承認できるよう検討した（令和3年4月1日から実施）。												
7	職員の総労働時間の短縮等、適正な労働環境の整備に努める。	信州	A	・参照（p.87-No1）												
8	同上	駒ヶ根	A	・感染対策専従看護師の配置や夜間看護当直のあり方の見直しを行い、業務量の軽減を行った。 ・年次休暇の取得促進を行うとともに、有期雇用職員の勤務時間管理を徹底し、超過勤務時間を削減した。 <table><tr><th>区 分</th><th>実 績</th><th>年度目標</th><th>対目標比</th><th>前年度実績</th><th>対前年度比</th></tr><tr><td>年間総超過勤務時間</td><td>190時間38分</td><td>－</td><td>－</td><td>233時間21分</td><td>81.7%</td></tr></table>	区 分	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	年間総超過勤務時間	190時間38分	－	－	233時間21分	81.7%
区 分	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比											
年間総超過勤務時間	190時間38分	－	－	233時間21分	81.7%											
9	同上	阿南	A	・勤怠管理システムによる病院スタッフの労働時間を把握及び分析、さらにその内容について衛生委員会を通じ各セクションへの周知を実施した。												
10	同上	木曾	A	・京セラ式アメーバ経営の一環として、自部署の総労働時間を短縮するために部署ごとに年休取得の推進や超過勤務時間の削減に取り組み、毎月数値を確認した。												

11	同上	こども	A	・育児短時間制度及び、育児部分休業制度を31人が活用して、子育てと仕事の両立を図っている。 ・医師事務作業補助者を13人配置し、医師の負担軽減を図っている。
12	同上	本部	A	・人事給与・勤怠事務担当会議を開催（6月23日）し、新システムの超過勤務集計機能の利用方法を説明し、所属単位での労働時間の適正管理の促進を図った。 ・出退勤の適正把握とサービス残業の防止の観点から、本部事務局職員(23人)を対象とした勤務実態調査を6月実績に基づき実施し、PCの起動・停止時間と出退勤打刻時間の乖離を調査した。結果、双方の時間の乖離が30分以上ある職員が出勤時で4人9件、退勤時で5人13件確認できたことから、これらの結果を連絡会議で周知し今後の改善を求めた。
13	【令和2年度に推進する事項】 ・働き方改革の宣言と基本理念・基本方針の整備、取組みの検討	駒ヶ根	A	・働き方改革を推進するため「働き方改革宣言」を行い、方針の明確化と目標の設定を行うとともに、職員の理解を深めるため、リーフレットを作成し配付した。
14	【令和2年度に推進する事項】 ・電子カルテの更新に併せた先端機器による遠隔診療の検討	阿南	A	・電子カルテシステムの更新に合わせ、遠隔診療が開始できるよう検討を開始した。
15	【令和2年度に推進する事項】 ・看護師の夜勤回数の適正化と医師勤務の2交代制検討	こども	B	・夜勤回数が多いのはPICU・NICUの集中ケア病棟であり、それ以外の病棟の夜勤回数は適正である。 ・適正人員配置表を用いて採用人数を割り出し、看護師採用を進めた。また、夜間保育を開始し、産育休者を含め夜勤開始や夜勤回数の増加を図った。（参照 p.88-No.5）しかし、コロナウイルス感染症の影響もあり、新規の既卒採用者の中途退職が多く夜勤回数の減少には至らなかった。令和2年度の状況を判断し、令和3年度に向け院内異動を実施した。 ・医師の交代制勤務について、検討を始めた。

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

3 職員の勤務環境の向上

〔自己評定〕 A

〔自己評定の理由〕

機構全体で業務の見直しや効率化を進め、また年次休暇の取得を推進するなど、働きやすい職場環境の整備に努めた。

看護部では引き続き、医療の質と経営的な視点を両立させる適正な看護師数について、実績データに基づき各病院が人員配置表により人員試算を行い、看護師数の適正化を推進した。

本部事務局は、有期雇用職員の社会保険料算定基礎届の電子申告や源泉徴収票の電子化など、給与事務の効率化を図った。

こども病院は、新型コロナウイルス感染症に係る職員の心のケア充実のため、感染症チームの会議やラウンドに参加するなど、「こころの相談室」の相談が増加した。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績		
		病院	評定	取組結果及び取組の効果
第2 3 1	業務の見直しや効率化の取組等により労働時間の適正な管理や有給休暇の取得促進を図るほか、仕事と生活の両立に向けた働き方への支援や職員相談体制の強化等により、職員が生活との調和を図りながら、やりがいや充	信 州	A	・院内広報誌「みちしるべ」を発行し、管理者からのメッセージや各部署からのお知らせ、新任職員の紹介等を掲載し、職員間の理解と一体化を図った。 ・職員の心身の健康の保持増進と病院職員同士の横断的な交流を図るため、サークル活動支援制度を作り、交流を深められる魅力ある職場づくりに努めている。 ・例年職員交流や地域交流として実施している院内ソフトバレーボール大会の開催や須

	実感をもって働くことのできる職場環境の整備を推進する。			坂カタカタまつりへの参加などは、新型コロナの影響により中止となった。 ・院内保育所「カンガルーのぽっけ」（定員10人）では、保護者である職員が安心して働ける環境の提供に努めるとともに、病院と保育所の交流を深めている。（保育総延人数1,108人）
2	同上	駒ヶ根	A	・参照（p.89-No8）
3	同上	阿南	A	・勤務環境の整備に努め、効率的な業務運用を行うことで、各部署に対し5日を上回る年休取得ができるよう周知徹底を図った。 ・病棟看護師の業務負担軽減を図るべく病棟の看護補助者（3名）を増員した。（再掲） ・看護職員と看護補助者との業務内容及び業務範囲の見直しを実施した。
4	同上	木曾	A	・京セラ式アメーバ経営の一環として、業務の見直しや効率化、有給休暇の取得や超過勤務時間の削減に部門ごとに取り組み、良い取り組みについては運営委員会で紹介するなどし、職場環境の改善を推進した。（超過勤務時間対前年度比97.1% △950時間）
5	同上	こども	A	・参照（p.90-No.11）

6	同上	本部	A ・給与システムの活用により有期雇用職員（病院採用）の社会保険料算定基礎届の電子申告を開始し、各病院等の業務負担を軽減した。 ・全職員の源泉徴収票を電子化し、各病院等の業務負担を軽減した。 ・例月給与に関し、各病院等で法定外控除していた労金普通預金と県職員宿舍貸付料を7月から本部の一括管理とし、各病院等の業務負担を軽減した。 ・期末・勤勉手当の支給にあたり、従前は各病院等も含めて対象職員の期間率を手計算していたものを、新システムを用いることで機械的に算出可能にしたことで、本部事務局・各所属双方で計算作業がなくなり、大幅な時間削減を実現した。 例：本部事務局担当職員の当月分時間外労働 令和元年6月 48時間 ⇒ 令和2年6月 24時間 令和元年11月 36時間 ⇒ 令和2年11月 9時間 ・新規採用職員の給与振込申出書の提出を本部で集約し、システム登録する方法に改め、各病院等の業務負担を軽減した。 ・8月末時点での年次休暇の取得状況を調査・分析。取得日数が少ない職員が確実に年5日以上年次休暇を取得できるよう9月28日付けで各病院等へ通知し、必達に向けて取り組んだ結果、取得率が改善した。 【令和2年の年次休暇取得状況】※令和元年は夏季休暇を含まず 5日以上取得者 94.2%（令和元年：65.5%） 10日以上取得者 62.3%（令和元年：24.7%） ●新型コロナウイルス感染症への対応 ○新型コロナウイルス感染症に係る職員の服務上の取扱いを規定した。 ・感染（疑陽性を含む。）の場合は、出勤停止及び自宅待機 ・療養休暇又は特別休暇の取得に抛り難い場合は職専免扱い ・小学校の臨時休校等、子供の療育上必要な場合に取得した休暇は特別休暇扱い（対
---	----	----	--

象期間：令和２年２月２７日から令和３年３月３１日まで）

○感染症対策により危険性が高い業務に従事した職員に支給する特殊勤務手当（感染症防疫等作業手当）の特例（１日につき 4,000 円以内で業務に応じた額）を新設（８月 21 日施行、２月 1 日から遡及適用）した。

令和２年度実績

信州医療センター	16,883 千円
こころの医療センター駒ヶ根	404 千円
阿南病院（老健等を含む。）	1,517 千円
木曽病院（老健等を含む。）	4,769 千円
こども病院	905 千円
合計	24,478 千円

○感染拡大の懸念から事務局職員の出勤及び執務体制を制限（４月 13 日～５月 12 日）

・業務のトリアージを行い、出勤しない職員は年休取得を除き在宅勤務扱いとした。

【期間中の出勤率】

対象 日数	最小		最大		平均		在宅勤務 実施者
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	
17 日	47.8%	34.8%	91.3%	78.3%	69.1%	62.4%	9 人 (23 人中)

○在宅勤務実施要領の制定及び取組の推進

「新型コロナウイルス感染症対策に伴う本部事務局職員在宅勤務実施要領」を制定し、専用リモート P C 等を活用した在宅勤務を推進した。

1 月 8 日から 3 月 31 日までの実績：実施者 6 人（延べ人数 37 人）

				○ 医療非常事態宣言下の事務局職員の出勤抑制への取組み（1月14日～2月3日）在宅勤務及び年次休暇の取得を促進した。 【期間中の出勤率】 <table><tr><th rowspan="2">対象 日数</th><th colspan="2">最小</th><th colspan="2">最大</th><th colspan="2">平均</th><th rowspan="2">在宅勤務 実施者</th></tr><tr><th>午前</th><th>午後</th><th>午前</th><th>午後</th><th>午前</th><th>午後</th></tr><tr><td>15 日</td><td>61.9%</td><td>66.7%</td><td>100.0%</td><td>100.0%</td><td>81.6%</td><td>80.6%</td><td>5 人 (21 人中)</td></tr></table>	対象 日数	最小		最大		平均		在宅勤務 実施者	午前	午後	午前	午後	午前	午後	15 日	61.9%	66.7%	100.0%	100.0%	81.6%	80.6%	5 人 (21 人中)
対象 日数	最小		最大			平均		在宅勤務 実施者																		
	午前	午後	午前	午後	午前	午後																				
15 日	61.9%	66.7%	100.0%	100.0%	81.6%	80.6%	5 人 (21 人中)																			
7	【令和2年度に推進する事項】 ・医療の質と経営的な視点を両立させる適正な看護師数の検討	本部	A	・11月の勤務表及びデータ（患者数等）をもとに、各病院の師長等が人員試算表により自職場の人員試算を実施した。																						
8	【令和2年度に推進する事項】 ・「こころの相談室」に精神科医・リエゾン精神看護師を配置し、職員の心のケアの機会を拡充	こども	S	<table><tr><th>項 目</th><th>実 績</th><th>年度目標</th><th>対目標比</th><th>前年度実績 (10月～)</th><th>対前年度比</th></tr><tr><td>「こころの相談室」 相談件数</td><td>216件</td><td>—</td><td>—</td><td>66件</td><td>327.3%</td></tr></table> ・新型コロナウイルス感染拡大防止対策に携わる職員の心のケアを充実させるため、感染症対策チームの会議及び、ラウンドに参加することにより「こころの相談室」の存在が職員に少しずつ浸透し、相談件数が増加した。	項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績 (10月～)	対前年度比	「こころの相談室」 相談件数	216件	—	—	66件	327.3%										
項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績 (10月～)	対前年度比																					
「こころの相談室」 相談件数	216件	—	—	66件	327.3%																					

第3 予算（人件費の見積りを含む。）、収支計画及び資金計画

1 経常黒字の維持

〔自己評定〕 A

〔自己評定の理由〕

- ・経常費用に対する経常収益で表す経常収支比率は、令和元年度実績の99.4%と比べ、103.8%と4.4%の大幅なプラスとなった。
- ・令和2年度は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響により、年間を通じてすべての病院で入院患者が落ち込み、対前年90.1%（△23,691人）の大幅な減少となった。また、外来患者も、対前年92.7%（△29,088人）と大きく落ち込んだ。

令和2年度決算における病院別では、こども病院を除く4病院で黒字となった。信州医療センター、阿南病院、木曽病院では新型コロナウイルス感染症患者の受入体制整備に伴う補助金（病床確保料、協力金等）により、また、こころの医療センター駒ヶ根はデイケア患者の早期回復等により収益を上げることができた。こども病院では全国的な緊急事態宣言発令による影響で県外患者が減少し、△41,436千円の経常損失となった。

収益確保及び経費削減等の新たな経営改善の取組の効果もあり、令和2年度の決算は、機構全体で908百万円の黒字となった。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績		
		病院	評定	取組結果及び取組の効果
第3 1 1	経営基盤の確立を目指し更なる経営健全化に努めるとともに、本年度の損益計算において経常収支比率を100%以上とする。 今後必要となる設備投資を考慮し、適切な資金計画を策定する。 ・令和2年度収支計画（単位：百万円）	機構全体	A	令和3年度決算等

区 分		金 額 (税抜)	(税抜、単位：百万円)					
			科 目	令和 2 年度	令和元年度	令和 2 年度計画	増減(R2-R1)	増減(R2-計画)
経常的収益			経常収益（ア）	25,421	23,863	24,525	1,558	895
営業収益			医業収益	16,980	17,402	18,120	▲ 422	▲ 1,140
医業収益			うち入院収益	11,926	12,403	12,685	▲ 477	▲ 760
介護老人保健施設収益			うち外来収益	4,558	4,524	4,976	35	▲ 418
看護師養成所収益			うち公衆衛生活動収益等	383	373	345	10	38
運営費負担金収益			介護老人保健施設収益	371	355	365	16	6
資産見返負債戻入			看護師養成所収益	18	19	20	▲ 1	▲ 1
その他営業収益			運営費負担金収益	5,510	5,480	5,510	30	0
営業外収益			その他経常収益	2,541	607	510	1,934	2,031
運営費負担金収益			経常費用（イ）	24,501	24,006	24,458	495	43
その他営業外収益			医業費用	22,457	22,034	22,403	423	54
経常的費用			うち給与費	12,986	12,679	12,866	307	120
営業費用			うち材料費	4,173	4,037	4,079	136	94
医業費用			うち減価償却費	1,903	1,941	1,966	▲ 38	▲ 64
給与費			うち経費	3,346	3,314	3,407	31	▲ 61
材料費			介護老人保健施設費用	461	444	440	17	21
経費等			看護師養成所費用	155	152	166	3	▲ 11
減価償却費			一般管理費	347	340	372	7	▲ 25
研究研修費			財務費用（支払利息）	310	356	331	▲ 46	▲ 21
介護老人保健施設費用			その他経常費用	770	679	746	91	24
看護師養成所費用			経常損益（ア－イ）	920	▲ 143	67	1,063	852
一般管理費			臨時損益（ウ）	▲ 11	▲ 5	0	▲ 6	▲ 11
営業外費用			当期純損益(ア－イ＋ウ)	909	▲ 148	67	1,057	842
予備費			※端数処理により、内訳と合計が一致しない箇所があります。					

経常利益	67
臨時利益	0
臨時損失	0
純利益	67

注) 計数は、端数をそれぞれ四捨五入している。

【経常収支比率】 (単位：%)

病院名	平成30年度実績	令和2年度目標
病院機構全体	101.8	100.3

・報告書p.27「経常収支比率（病院機構全体）」再掲

指標：経常収支比率（病院機構全体）

達成目標：経常収支比率100%以上

(単位：百万円、%)

病 院	区 分	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度
経常収益	計 画	23,192	23,540	23,453	23,720	24,525
	実 績	23,095	23,201	23,763	23,863	25,421
経常費用	計 画	23,180	23,508	23,432	23,703	24,458
	実 績	23,358	23,324	23,346	24,006	24,501
経常損益	計 画	12	32	21	17	67
	実 績	△ 263	△ 123	417	△ 143	920
経常収支比率	計 画	103.2	100.1	100.1	100.1	100.3
	実 績	98.9	99.5	101.8	99.4	103.8

※係数は、端数をそれぞれ四捨五入しており、内訳と合計が一致しない箇所がある。

2	【医業収支比率】 医業収益÷医業費用×100 (税抜、単位：％) <table><tr><td>病院名</td><td>平成30年 度実績</td><td>令和2年 度目標</td></tr><tr><td>信 州</td><td>88.4</td><td>85.8</td></tr></table>	病院名	平成30年 度実績	令和2年 度目標	信 州	88.4	85.8	信 州	B	<table><tr><td>項 目</td><td>実 績</td><td>年度目標</td><td>対目標比</td><td>前年度実績</td><td>対前年度比</td></tr><tr><td>医業収支比率</td><td>83.6%</td><td>85.8%</td><td>97.4%</td><td>87.0%</td><td>96.1%</td></tr></table> ・新型コロナウイルス感染症患者受入れのための病床の一部制限による体制整備や、地域住民の受診行動抑制等の影響を受け、年間を通じて新規患者、紹介患者、時間外救急患者が増えず、入院及び外来患者の確保が厳しい状況となり、収益は大幅に減少した。 また、医療の充実を図るため医師を確保した医療体制設備や、感染対策に係る医療材料の購入増及び医療材料の高騰による経費の増加により、医業収支比率は前年度比で悪化した。	項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	医業収支比率	83.6%	85.8%	97.4%	87.0%	96.1%
病院名	平成30年 度実績	令和2年 度目標																				
信 州	88.4	85.8																				
項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																	
医業収支比率	83.6%	85.8%	97.4%	87.0%	96.1%																	
3	同上 (税抜、単位：％) <table><tr><td>病院名</td><td>平成30年 度実績</td><td>令和2年 度目標</td></tr><tr><td>駒ヶ根</td><td>66.6</td><td>62.1</td></tr></table>	病院名	平成30年 度実績	令和2年 度目標	駒ヶ根	66.6	62.1	駒 ヶ 根	A	<table><tr><td>項 目</td><td>実 績</td><td>年度目標</td><td>対目標比</td><td>前年度実績</td><td>対前年度比</td></tr><tr><td>医業収支比率</td><td>63.8%</td><td>62.1%</td><td>102.7%</td><td>67.8%</td><td>94.1%</td></tr></table> ・新型コロナウイルス感染症の影響で入院収益を中心に医業収益が減少したことにより、前年度比で4.0ポイント減少した。	項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	医業収支比率	63.8%	62.1%	102.7%	67.8%	94.1%
病院名	平成30年 度実績	令和2年 度目標																				
駒ヶ根	66.6	62.1																				
項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																	
医業収支比率	63.8%	62.1%	102.7%	67.8%	94.1%																	
4	同上 (税抜、単位：％) <table><tr><td>病院名</td><td>平成30年 度実績</td><td>令和2年 度目標</td></tr><tr><td>阿 南</td><td>58.7</td><td>51.2</td></tr></table>	病院名	平成30年 度実績	令和2年 度目標	阿 南	58.7	51.2	阿 南	A	<table><tr><td>項 目</td><td>実 績</td><td>年度目標</td><td>対目標比</td><td>前年度実績</td><td>対前年度増減</td></tr><tr><td>医業収支比率</td><td>53.2%</td><td>51.2%</td><td>103.9%</td><td>55.2%</td><td>96.4%</td></tr></table> ・医業収益について、常勤整形外科医が不在となったことや、年度当初から新型コロナウイルス感染症受け入れのため入院、外来患者数共に減少し計画を下回ったが、医業費用において、材料費、経費、研修研究費等において、新型コロナウイルス感染症受入による患者数の減に伴い、医薬品購入数の減、提供食事数の減による給食材料費の減、白内障手術の中止等により計画を下回る事となったため目標値を上回った。	項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度増減	医業収支比率	53.2%	51.2%	103.9%	55.2%	96.4%
病院名	平成30年 度実績	令和2年 度目標																				
阿 南	58.7	51.2																				
項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度増減																	
医業収支比率	53.2%	51.2%	103.9%	55.2%	96.4%																	

5	同上 (税抜、単位：%)			木 曽	B	<table><tr><td>項 目</td><td>実 績</td><td>年度目標</td><td>対目標比</td><td>前年度実績</td><td>対前年度比</td></tr><tr><td>医業収支比率</td><td>75.5%</td><td>77.3%</td><td>97.7%</td><td>77.7%</td><td>97.2%</td></tr></table> ・ 医業費用は給与費・医療材料費は増加したものの全体では減少した。しかし、医業収益は管理料や加算の既存算定件数の増加及び新規加算の取得に努め、診療単価は上昇したが新型コロナウイルス感染症の影響による患者数の減少により大幅に減少したため、比率は目標を下回った。	項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	医業収支比率	75.5%	77.3%	97.7%	77.7%	97.2%
項 目	実 績	年度目標	対目標比			前年度実績	対前年度比											
医業収支比率	75.5%	77.3%	97.7%			77.7%	97.2%											
6	同上 (税抜、単位：%)			こ ど も	B	<table><tr><td>項 目</td><td>実 績</td><td>年度目標</td><td>対目標比</td><td>前年度実績</td><td>対前年度比</td></tr><tr><td>医業収支比率</td><td>76.1%</td><td>77.1%</td><td>98.7%</td><td>80.1%</td><td>95.0%</td></tr></table> ・ 新型コロナウイルス緊急事態宣言等の影響に伴う患者数の減少により医業収益は減少し、感染防止対策用品の値上がりや高額医薬品の使用量増加により医業費用は増加したため、目標に達しなかった。	項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	医業収支比率	76.1%	77.1%	98.7%	80.1%	95.0%
項 目	実 績	年度目標	対目標比			前年度実績	対前年度比											
医業収支比率	76.1%	77.1%	98.7%			80.1%	95.0%											

第3 予算（人件費の見積りを含む。）、収支計画及び資金計画

2 経営基盤の強化

(1) 収益の確保

〔自己評定〕 A

〔自己評定の理由〕

新型コロナウイルス感染症の影響により厳しい運営状況ではあったが、引き続き、組織が一体となって経営改善に取り組んだ。

理事会等の会議において月次決算（前月の経営状況）を示し、病院、本部等の幹部職員により課題や取組方針を共有するとともに、各病院の運営会議等の場でも情報共有を行い、病院運営に係る職員の意識向上を図った。

また、各病院においても収益向上のための取組みを実施した。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績		
		病院	評定	取組結果及び取組の効果
第3 2(1) 1	様々な診療報酬加算や施設基準の取得のほかD P C係数向上の検討等、診療報酬改定に的確かつ迅速に対応し、収益を確保する。 診療報酬請求漏れの防止、未収金の発生防止及び早期回収を行う。	信州	A	・診療報酬改定対策チームにより新設・拡大項目（排尿自立支援加算、せん妄ハイリスク患者ケア加算、摂食嚥下支援加算等）の積極的な加算取得・算定に向けて取り組んだ。 ・令和3年2月から新規施設基準として抗菌薬適正使用支援加算の算定を開始し、DPC係数が向上した。（年間約400万円の増収見込み） ・急性期一般入院料2の施設基準である重症度、医療・看護必要度の基準値を安定的に上回り収益を確保した。（全体朝礼での院長スピーチによる職員全体の意識向上、関係す

				る院内委員会での分析等を実施) ・新型コロナウイルス感染症の重点医療機関として患者受入を行い、診療報酬上の臨時的取扱の救急医療管理加算（中等症以上）を算定した。（令和２年度実績33,240千円）
2	同上 【令和２年度に推進する事項】 ・収益に関する数値目標による管理（駒ヶ根）	駒ヶ根	A	・毎朝実施しているベッドコントロール会議において、入院患者の情報共有を行い、病棟ごとの空床状況を確認し、病床利用率の目標達成に向けた調整を実施した。 ・毎月の病院運営会議において、組織全体の課題の検討及び業務の進捗状況、経営状況を共有した。
3	同上	阿南	A	・経営企画会議において収益増の検討や損益分岐点の分析を行い、運営会議及び医局会を通じて職員への周知を実施した。 ・収益確保を目指すことを院内全体で認識し、各職員がそのことを意識するため、キャッチフレーズを職員から募集した。その中から「めざせ５０　まわせ７０」を選定し、収益確保という意識付けを職員間に醸成した。 ・職員通用口に入院、外来患者数、平均在院日数等を掲示し、毎日更新することで職員の経営意識の向上を図った。
4	同上	木曾	A	・経営戦略ワーキンググループを立ち上げ、収益増及び費用の抑制について検討した。 ・算定できていない管理料や加算の抽出を行い、既存算定件数の増加及び新規加算の取得に努めた。この結果診療単価の上昇を図ることができた。 ・人間ドック部位別がん検診を新設し、受診者の増加を図った。 ・訪問看護のステーション化の検討を始めた。
5	同上	こども	A	【小児入院医療管理料１】 ・11月よりPICU病棟12床のうち４床をHCU病棟に変更し、病棟師長とベッドコントロールの情報を共有することで、当該病棟の小児入院医療管理料１が2,708千円／月（計13,538千円）の増収となった。 【入院栄養食事指導料】 ・食物アレルギー検査入院時の「入院栄養食事指導料」260点の算定要件を栄養科と確認し、請求につ

				なげることができた(令和元年度10件→令和2年度376件)。 【排尿自立支援加算】 ・入院での新規算定項目の「排尿自立支援加算」200点のオーダー漏れを確認し、請求につなげている(19件/年)。 【薬剤管理指導料】 <table><tr><td>項 目</td><td>実 績</td><td>年度目標</td><td>対目標比</td><td>前年度実績</td><td>対前年度増減</td><td>前年度比</td></tr><tr><td>件 数</td><td>2,950件</td><td>－</td><td>－</td><td>1,687件</td><td>1,263件</td><td>174.9%</td></tr><tr><td>稼働額</td><td>9,949,850円</td><td>－</td><td>－</td><td>5,137,050円</td><td>4,812,800円</td><td>193.7%</td></tr></table> ・入院患者及び保護者への薬剤の指導及び効果・副作用フォローを実施し、安全で有効な薬物療法を推進した。 【病棟業務実施加算】 <table><tr><td>項 目</td><td>実 績</td><td>年度計画</td><td>対目標比</td><td>前年度実績</td><td>対前年度増減</td><td>前年度比</td></tr><tr><td>件 数</td><td>15,261件</td><td>－</td><td>－</td><td>10,176件</td><td>5,085件</td><td>150.0%</td></tr><tr><td>稼働額</td><td>24,034,290円</td><td>－</td><td>－</td><td>15,178,701円</td><td>8,855,589円</td><td>158.3%</td></tr></table> ・カンファレンスや情報提供及び安全対策等を含めた病棟業務全般に対する薬剤師技術料を積極的に算定した。さらに診療報酬改定により病棟薬剤業務実施加算1（一般病棟）、2（集中治療）が増額となり、年間で886万円の増額となった。	項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度増減	前年度比	件 数	2,950件	－	－	1,687件	1,263件	174.9%	稼働額	9,949,850円	－	－	5,137,050円	4,812,800円	193.7%	項 目	実 績	年度計画	対目標比	前年度実績	対前年度増減	前年度比	件 数	15,261件	－	－	10,176件	5,085件	150.0%	稼働額	24,034,290円	－	－	15,178,701円	8,855,589円	158.3%
項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度増減	前年度比																																								
件 数	2,950件	－	－	1,687件	1,263件	174.9%																																								
稼働額	9,949,850円	－	－	5,137,050円	4,812,800円	193.7%																																								
項 目	実 績	年度計画	対目標比	前年度実績	対前年度増減	前年度比																																								
件 数	15,261件	－	－	10,176件	5,085件	150.0%																																								
稼働額	24,034,290円	－	－	15,178,701円	8,855,589円	158.3%																																								
6	同上	本部	A	・新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から支払基金との事務打合せ会は中止となったが、本部より診療報酬加算や施設基準の取得等の病院支援を適宜実施した。 ・民法の一部を改正する法律が施行されたことに伴い、未収金対応マニュアルの見直しを実施した。																																										
7	【令和2年度に推進する事項】 ・全国小児病院研究会の情報交換によるDPC 請求における精度の向上	こども	A	・新型コロナウイルス感染症の影響で対面での情報交換はできなかったが、全国のこども病院のメーリングリストの活用による他病院との情報交換を請求に活かすことができた。 確認事項（抜粋）																																										

						・個室料金について⇒11月より小児病棟の個室に個室料金を設定（令和２年度：542日896,000円を請求）。 ・当院から他院へ転送する際に発生する料金の請求について⇒県外への転送時の交通費、手数料を設定。（２件、39,810円請求）																																										
8	【延患者数】（単位：人） <table><tr><td rowspan="3">病院名</td><td colspan="2">平成 30 年度実績</td><td colspan="2">令和 2 年度目標</td></tr><tr><td>入院</td><td>外来</td><td>入院</td><td>外来</td></tr><tr><td>信州</td><td>90,876</td><td>120,801</td><td>90,432</td><td>117,462</td></tr></table>	病院名	平成 30 年度実績		令和 2 年度目標		入院	外来	入院	外来	信州	90,876	120,801	90,432	117,462	信州	B	<table><tr><td>項 目</td><td>実 績</td><td>年度目標</td><td>対目標比</td><td>前年度実績</td><td>対前年度比</td></tr><tr><td>延患者数（入院）</td><td>76,307 人</td><td>90,432 人</td><td>84.4%</td><td>88,977 人</td><td>85.8%</td></tr><tr><td>延患者数（外来）</td><td>111,308 人</td><td>117,462 人</td><td>94.8%</td><td>120,749 人</td><td>92.2%</td></tr><tr><td>新患者数（入院）</td><td>4,299 人</td><td>－</td><td>－</td><td>4,574 人</td><td>94.0%</td></tr><tr><td>新患者数（外来）</td><td>17,373 人</td><td>－</td><td>－</td><td>21,787 人</td><td>79.7%</td></tr></table> ・令和２年度は通年で結核病棟をコロナ対応として使用した。 ・入院患者数について、一般病棟は前年比86.7%、地域包括ケア病棟は前年比98.0%となった。日本病院会等が行った新型コロナウイルス感染拡大による病院経営状況の調査第２四半期までのデータによると一般病棟で前年比88%、地域包括ケア病棟で前年比94%と結果があり、全国の傾向と同程度となっている。 ・外来についてはコロナ禍による受診控えがみられ、新外来患者数は前年比２割以上減少した。	項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	延患者数（入院）	76,307 人	90,432 人	84.4%	88,977 人	85.8%	延患者数（外来）	111,308 人	117,462 人	94.8%	120,749 人	92.2%	新患者数（入院）	4,299 人	－	－	4,574 人	94.0%	新患者数（外来）	17,373 人	－	－	21,787 人	79.7%
病院名	平成 30 年度実績		令和 2 年度目標																																													
	入院		外来	入院	外来																																											
	信州	90,876	120,801	90,432	117,462																																											
項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																																											
延患者数（入院）	76,307 人	90,432 人	84.4%	88,977 人	85.8%																																											
延患者数（外来）	111,308 人	117,462 人	94.8%	120,749 人	92.2%																																											
新患者数（入院）	4,299 人	－	－	4,574 人	94.0%																																											
新患者数（外来）	17,373 人	－	－	21,787 人	79.7%																																											
9	同上（単位：人） <table><tr><td rowspan="3">病院名</td><td colspan="2">平成 30 年度実績</td><td colspan="2">令和 2 年度目標</td></tr><tr><td>入院</td><td>外来</td><td>入院</td><td>外来</td></tr><tr><td>駒ヶ根</td><td>37,515</td><td>40,051</td><td>38,228</td><td>37,510</td></tr></table>	病院名	平成 30 年度実績		令和 2 年度目標		入院	外来	入院	外来	駒ヶ根	37,515	40,051	38,228	37,510	駒ヶ根	B	<table><tr><td>項 目</td><td>実 績</td><td>年度目標</td><td>対目標比</td><td>前年度実績</td><td>対前年度比</td></tr><tr><td>延患者数（入院）</td><td>34,779 人</td><td>38,228 人</td><td>91.0%</td><td>37,400 人</td><td>93.0%</td></tr><tr><td>延患者数（外来）</td><td>39,037 人</td><td>37,510 人</td><td>104.1%</td><td>41,189 人</td><td>94.8%</td></tr><tr><td>新患者数（入院）</td><td>519 人</td><td>－</td><td>－</td><td>513 人</td><td>101.2%</td></tr><tr><td>新患者数（外来）</td><td>1,099 人</td><td>－</td><td>－</td><td>1,091 人</td><td>100.7%</td></tr></table> ・入院患者数は新型コロナウイルス感染患者受入れに備え、空床確保を行った影響により減少した。 ・外来患者数は緊急事態宣言発令に伴い、4月中旬から６月中旬までデイケアを閉鎖したことにより減	項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	延患者数（入院）	34,779 人	38,228 人	91.0%	37,400 人	93.0%	延患者数（外来）	39,037 人	37,510 人	104.1%	41,189 人	94.8%	新患者数（入院）	519 人	－	－	513 人	101.2%	新患者数（外来）	1,099 人	－	－	1,091 人	100.7%
病院名	平成 30 年度実績		令和 2 年度目標																																													
	入院		外来	入院	外来																																											
	駒ヶ根	37,515	40,051	38,228	37,510																																											
項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																																											
延患者数（入院）	34,779 人	38,228 人	91.0%	37,400 人	93.0%																																											
延患者数（外来）	39,037 人	37,510 人	104.1%	41,189 人	94.8%																																											
新患者数（入院）	519 人	－	－	513 人	101.2%																																											
新患者数（外来）	1,099 人	－	－	1,091 人	100.7%																																											

							少しした。																																					
10	同上（単位：人）					阿南	B																																					
	病院名	平成 30 年度実績		令和 2 年度目標																																								
		入院	外来	入院	外来																																							
		阿南	19,272	47,667	15,980			48,080																																				
										<table><tr><td>項 目</td><td>実 績</td><td>年度目標</td><td>対目標比</td><td>前年度実績</td><td>対前年度比</td></tr><tr><td>延患者数（入院）</td><td>14,680 人</td><td>15,980 人</td><td>91.9%</td><td>17,053 人</td><td>86.1%</td></tr><tr><td>延患者数（外来）</td><td>47,565 人</td><td>48,080 人</td><td>98.9%</td><td>46,882 人</td><td>101.5%</td></tr><tr><td>新患者数（入院）</td><td>801 人</td><td>－</td><td>－</td><td>875 人</td><td>91.5%</td></tr><tr><td>新患者数（外来）</td><td>504 人</td><td>－</td><td>－</td><td>632 人</td><td>79.7%</td></tr></table>					項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	延患者数（入院）	14,680 人	15,980 人	91.9%	17,053 人	86.1%	延患者数（外来）	47,565 人	48,080 人	98.9%	46,882 人	101.5%	新患者数（入院）	801 人	－	－	875 人	91.5%	新患者数（外来）	504 人	－	－	632 人	79.7%
項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																																							
延患者数（入院）	14,680 人	15,980 人	91.9%	17,053 人	86.1%																																							
延患者数（外来）	47,565 人	48,080 人	98.9%	46,882 人	101.5%																																							
新患者数（入院）	801 人	－	－	875 人	91.5%																																							
新患者数（外来）	504 人	－	－	632 人	79.7%																																							
										・入院患者は、常勤整形外科医の退職により大きく減少した。																																		
										・外来患者は、新型コロナウイルス感染症の影響や冬季感染症患者の減により、対計画で若干の減少となったが、天龍村への週 1 回の巡回診療の実施や訪問看護ステーションの患者増加により、対前年では大きく増加した。																																		
										また、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、新規外来患者数は減少した。																																		
11	同上（単位：人）					木曾	B																																					
	病院名	平成 30 年度実績		令和 2 年度目標																																								
		入院	外来	入院	外来																																							
		木曾	48,709	127,418	47,473			124,233																																				
										<table><tr><td>項 目</td><td>実 績</td><td>年度目標</td><td>対目標比</td><td>前年度実績</td><td>対前年度比</td></tr><tr><td>延患者数（入院）</td><td>40,782 人</td><td>47,473 人</td><td>85.9%</td><td>43,681 人</td><td>93.4%</td></tr><tr><td>延患者数（外来）</td><td>109,849 人</td><td>124,233 人</td><td>88.4%</td><td>125,512 人</td><td>87.5%</td></tr><tr><td>新患者数（入院）</td><td>2,171 人</td><td>－</td><td>－</td><td>2,473 人</td><td>87.8%</td></tr><tr><td>新患者数（外来）</td><td>6,100 人</td><td>－</td><td>－</td><td>8,225 人</td><td>74.2%</td></tr></table>					項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	延患者数（入院）	40,782 人	47,473 人	85.9%	43,681 人	93.4%	延患者数（外来）	109,849 人	124,233 人	88.4%	125,512 人	87.5%	新患者数（入院）	2,171 人	－	－	2,473 人	87.8%	新患者数（外来）	6,100 人	－	－	8,225 人	74.2%
項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																																							
延患者数（入院）	40,782 人	47,473 人	85.9%	43,681 人	93.4%																																							
延患者数（外来）	109,849 人	124,233 人	88.4%	125,512 人	87.5%																																							
新患者数（入院）	2,171 人	－	－	2,473 人	87.8%																																							
新患者数（外来）	6,100 人	－	－	8,225 人	74.2%																																							
										・新型コロナウイルス感染症の流行により、入院・外来ともに大きく患者数が減少した。																																		
										・入院患者数については、新型コロナウイルス感染症患者及び疑い患者の受け入れ病棟として地域包括ケア病棟の一部（4 階北病棟）を空床とする運用をしたことから、4 階北病棟の利用がなくなり、前年度と比較して大きく減少した。																																		
										・外来患者数については、新型コロナウイルス感染症への感染を危惧する患者の外来キャンセル等があったことなどから前年度と比較し大きく減少した。																																		

12	同上 (単位：人)	こども	B	<table><tr><th>項 目</th><th>実 績</th><th>年度目標</th><th>対目標比</th><th>前年度実績</th><th>対前年度比</th></tr><tr><td>延患者数（入院）</td><td>49,519 人</td><td>54,573 人</td><td>90.7%</td><td>52,647 人</td><td>94.1%</td></tr><tr><td>延患者数（外来）</td><td>64,261 人</td><td>69,638 人</td><td>92.3%</td><td>66,776 人</td><td>96.2%</td></tr><tr><td>新患者数（入院）</td><td>3,744 人</td><td>－</td><td>－</td><td>4,087 人</td><td>91.6%</td></tr><tr><td>新患者数（外来）</td><td>3,578 人</td><td>－</td><td>－</td><td>4,032 人</td><td>88.7%</td></tr></table> ・新型コロナウイルス感染症の影響により、入院外来ともに患者数は減少した。 ・県外患者について、これまで全体の 6～10%の割合で入院等していたが、令和 2 年度については 1～5 % 台に落ち込んだ。	項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	延患者数（入院）	49,519 人	54,573 人	90.7%	52,647 人	94.1%	延患者数（外来）	64,261 人	69,638 人	92.3%	66,776 人	96.2%	新患者数（入院）	3,744 人	－	－	4,087 人	91.6%	新患者数（外来）	3,578 人	－	－	4,032 人	88.7%		
項 目	実 績			年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																													
延患者数（入院）	49,519 人	54,573 人	90.7%	52,647 人	94.1%																															
延患者数（外来）	64,261 人	69,638 人	92.3%	66,776 人	96.2%																															
新患者数（入院）	3,744 人	－	－	4,087 人	91.6%																															
新患者数（外来）	3,578 人	－	－	4,032 人	88.7%																															
13	【1 人 1 日当たり診療単価】（税抜、単位：円） <table><tr><th rowspan="2">病 院 名</th><th colspan="2">平成 30 年度 実績</th><th colspan="2">令和 2 年度 目標</th></tr><tr><th>入院</th><th>外来</th><th>入院</th><th>外来</th></tr><tr><td>信 州</td><td>41,785</td><td>13,042</td><td>42,964</td><td>17,300</td></tr></table>	病 院 名	平成 30 年度 実績		令和 2 年度 目標		入院	外来	入院	外来	信 州	41,785	13,042	42,964	17,300	信 州	A	<table><tr><th>項 目</th><th>実 績</th><th>年度目標</th><th>対目標比</th><th>前年度実績</th><th>対前年度比</th></tr><tr><td>診療単価（入院）</td><td>49,596 円</td><td>42,964 円</td><td>115.4%</td><td>43,532 円</td><td>113.9%</td></tr><tr><td>診療単価（外来）</td><td>16,096 円</td><td>17,300 円</td><td>93.0%</td><td>14,887 円</td><td>108.1%</td></tr></table> ・入院診療単価は、整形外科手術が昨年度比94件増加したこと、重症度、医療・看護必要度が高い値で推移したこと、平均在院日数が一般病床で13.8日に短縮したこと、結核病棟がコロナ病棟に転用され、中等症の患者の受入れで救急医療管理加算臨時特例が適用されたことなどにより上昇した。 ・外来診療単価は、救急患者数の減少等により目標を下回った。	項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	診療単価（入院）	49,596 円	42,964 円	115.4%	43,532 円	113.9%	診療単価（外来）	16,096 円	17,300 円	93.0%	14,887 円	108.1%
病 院 名	平成 30 年度 実績		令和 2 年度 目標																																	
	入院	外来	入院	外来																																
信 州	41,785	13,042	42,964	17,300																																
項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																															
診療単価（入院）	49,596 円	42,964 円	115.4%	43,532 円	113.9%																															
診療単価（外来）	16,096 円	17,300 円	93.0%	14,887 円	108.1%																															
14	同上 (税抜、単位：円)	駒ヶ根	A	<table><tr><th>項 目</th><th>実 績</th><th>年度目標</th><th>対目標比</th><th>前年度実績</th><th>対前年度比</th></tr><tr><td>診療単価（入院）</td><td>28,258 円</td><td>27,260 円</td><td>103.7%</td><td>27,432 円</td><td>103.0%</td></tr><tr><td>診療単価（外来）</td><td>7,029 円</td><td>6,750 円</td><td>104.1%</td><td>6,986 円</td><td>100.6%</td></tr></table> ・入院単価は診療単価の高い児童精神科病棟の病床利用率の上昇及び入院精神療法の件数の増加により上昇した。 ・外来単価は診療単価の高いデイケア利用者の割合が多かったことにより上昇した。	項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	診療単価（入院）	28,258 円	27,260 円	103.7%	27,432 円	103.0%	診療単価（外来）	7,029 円	6,750 円	104.1%	6,986 円	100.6%														
項 目	実 績			年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																													
診療単価（入院）	28,258 円	27,260 円	103.7%	27,432 円	103.0%																															
診療単価（外来）	7,029 円	6,750 円	104.1%	6,986 円	100.6%																															

15	同上 (税抜、単位：円)					阿南	B						
	病院名	平成 30 年度 実績		令和 2 年度 目標				項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比
		入院	外来	入院	外来			診療単価（入院）	29,671 円	31,613 円	93.9%	28,291 円	104.9%
		阿南	28,373	6,910	31,613			8,125	診療単価（外来）	8,972 円	8,125 円	110.4%	7,066 円
・入院単価は、急性期看護補助体制加算を始めとした各種加算の取得や、新型コロナウイルス感染症の受入れなどにより、対前年より大きく増加した。 ・外来単価は、訪問看護ステーションの開設や眼科における外来手術の増加などにより、対前年で10%以上の増となった。 ・上記のとおり対前年度では入院、外来共に増加しているが、対目標については、早期開設予定を見込んでいた地域包括ケア病床が、新型コロナウイルス感染症患者受け入れ等により対応ができず、3月からの本稼働となったため、入院単価は目標値を下回る結果となった。													
16	同上 (税抜、単位：円)					木曾	A						
	病院名	平成 30 年度 実績		令和 2 年度 目標				項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比
		入院	外来	入院	外来			診療単価（入院）	36,326 円	35,272 円	103.0%	37,189 円	97.7%
		木曾	35,594	10,601	35,272			11,500	診療単価（外来）	11,664 円	11,500 円	101.4%	10,040 円
・入院については、新型コロナウイルス感染症の流行により、地域包括ケア病棟（4階北病棟）が稼働できなくなったことから、回復期の患者についても、急性期病棟で対応するケースがあり、前年度比で単価を引き下げる結果となった。また、急性期を脱した患者も地域包括ケア病棟として使用できる病床が減少した影響からベッドコントロールが調整できずDPC入院期間のⅡ、Ⅲ患者の転棟が効率的に行えなかった影響から、低い単価のまま急性期病棟で受け入れをせざるを得なかったことから単価が減少した。 ・外来については、令和2年3月に許可病床数を200床未満に変更したこと及び在宅療養支援病院の施設基準を届出したことから外来単価が増加した。													

17	同上 (税抜、単位：円)				こども	A	<table><tr><td>項 目</td><td>実 績</td><td>年度目標</td><td>対目標比</td><td>前年度実績</td><td>対前年度比</td></tr><tr><td>診療単価 (入院)</td><td>105,847 円</td><td>101,000 円</td><td>104.8%</td><td>102,667 円</td><td>103.1%</td></tr><tr><td>診療単価 (外来)</td><td>13,081 円</td><td>13,230 円</td><td>98.9%</td><td>12,681 円</td><td>103.2%</td></tr></table> ・入院単価は年度目標及び前年度実績ともに上回った。 ・外来単価は、救急患者数の減少等により年度目標を下回った。	項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	診療単価 (入院)	105,847 円	101,000 円	104.8%	102,667 円	103.1%	診療単価 (外来)	13,081 円	13,230 円	98.9%	12,681 円	103.2%
	項 目	実 績	年度目標	対目標比			前年度実績	対前年度比																	
	診療単価 (入院)	105,847 円	101,000 円	104.8%			102,667 円	103.1%																	
	診療単価 (外来)	13,081 円	13,230 円	98.9%			12,681 円	103.2%																	
18	【平均在院日数】 (単位：日)			信州	A	<table><tr><td>項 目</td><td>実 績</td><td>年度目標</td><td>対目標比</td><td>前年度実績</td><td>対前年度比</td></tr><tr><td>平均在院日数</td><td>13.8 日</td><td>14.8 日</td><td>93.2%</td><td>15.4 日</td><td>89.6%</td></tr></table> ・一般病床の平均在院日数が1.6日短縮された。コロナ病棟への応援のため、一般病棟の運用病床を減らしたため、回転率が上昇したと考えられる。	項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	平均在院日数	13.8 日	14.8 日	93.2%	15.4 日	89.6%							
	項 目	実 績	年度目標			対目標比	前年度実績	対前年度比																	
	平均在院日数	13.8 日	14.8 日			93.2%	15.4 日	89.6%																	
<table><tr><td>病院名</td><td>平成 30 年度実績</td><td>令和 2 年度目標</td></tr><tr><td>信 州</td><td>14.8</td><td>14.8</td></tr></table>	病院名	平成 30 年度実績	令和 2 年度目標	信 州	14.8	14.8																			
病院名	平成 30 年度実績	令和 2 年度目標																							
信 州	14.8	14.8																							
19	同上 (単位：日)			駒ヶ根	A	<table><tr><td>項 目</td><td>実 績</td><td>年度目標</td><td>対目標比</td><td>前年度実績</td><td>対前年度比</td></tr><tr><td>平均在院日数</td><td>67.5 日</td><td>71.7 日</td><td>94.1%</td><td>72.7 日</td><td>92.8%</td></tr></table> ・新型コロナウイルス感染患者受入に備え、空床確保を行った影響により、平均在院日数は短縮した。	項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	平均在院日数	67.5 日	71.7 日	94.1%	72.7 日	92.8%							
	項 目	実 績	年度目標			対目標比	前年度実績	対前年度比																	
	平均在院日数	67.5 日	71.7 日			94.1%	72.7 日	92.8%																	
<table><tr><td>病院名</td><td>平成 30 年度実績</td><td>令和 2 年度目標</td></tr><tr><td>駒ヶ根</td><td>69.3</td><td>71.7</td></tr></table>	病院名	平成 30 年度実績	令和 2 年度目標	駒ヶ根	69.3	71.7																			
病院名	平成 30 年度実績	令和 2 年度目標																							
駒ヶ根	69.3	71.7																							
20	同上 (単位：日)			阿南	A	<table><tr><td>項 目</td><td>実 績</td><td>年度目標</td><td>対目標比</td><td>前年度実績</td><td>対前年度比</td></tr><tr><td>平均在院日数</td><td>18.3 日</td><td>20.9 日</td><td>87.6%</td><td>19.9 日</td><td>92.0%</td></tr></table> ・患者数の減少や入院期間が比較的短い新型コロナウイルス感染症患者の多数受入れなどにより、短縮傾向となった。	項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	平均在院日数	18.3 日	20.9 日	87.6%	19.9 日	92.0%							
	項 目	実 績	年度目標			対目標比	前年度実績	対前年度比																	
	平均在院日数	18.3 日	20.9 日			87.6%	19.9 日	92.0%																	
<table><tr><td>病院名</td><td>平成 30 年度実績</td><td>令和 2 年度目標</td></tr><tr><td>阿 南</td><td>20.4</td><td>20.9</td></tr></table>	病院名	平成 30 年度実績	令和 2 年度目標	阿 南	20.4	20.9																			
病院名	平成 30 年度実績	令和 2 年度目標																							
阿 南	20.4	20.9																							
21	同上 (単位：日)				木	A																			

	<table><tr><td>病院名</td><td>平成 30 年 度実績</td><td>令和 2 年 度目標</td></tr><tr><td>木 曾</td><td>16.5</td><td>16.5</td></tr></table>	病院名	平成 30 年 度実績	令和 2 年 度目標	木 曾	16.5	16.5	曾		<table><tr><td>項 目</td><td>実 績</td><td>年度目標</td><td>対目標比</td><td>前年度実績</td><td>対前年度比</td></tr><tr><td>平均在院日数</td><td>15.9 日</td><td>16.5 日</td><td>96.4%</td><td>17.9 日</td><td>88.8%</td></tr></table> ・急性期病棟と地域包括ケア病棟、介護医療院、介護老人保健施設とで連携し、長期入院になりそうな患者等について早期に対応することで平均在院日数が減少した。	項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	平均在院日数	15.9 日	16.5 日	96.4%	17.9 日	88.8%			
病院名	平成 30 年 度実績	令和 2 年 度目標																							
木 曾	16.5	16.5																							
項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																				
平均在院日数	15.9 日	16.5 日	96.4%	17.9 日	88.8%																				
22	<table><tr><td>同上</td><td colspan="2">(単位：日)</td></tr><tr><td>病院名</td><td>平成 30 年 度実績</td><td>令和 2 年 度目標</td></tr><tr><td>こども</td><td>14.3</td><td>14.1</td></tr></table>	同上	(単位：日)		病院名	平成 30 年 度実績	令和 2 年 度目標	こども	14.3	14.1	こども	A	<table><tr><td>項 目</td><td>実 績</td><td>年度目標</td><td>対目標比</td><td>前年度実績</td><td>対前年度比</td></tr><tr><td>平均在院日数</td><td>12.8 日</td><td>14.1 日</td><td>90.8%</td><td>12.4 日</td><td>103.2%</td></tr></table> ・年度目標に対し、延べ患者数減に伴い下回った。	項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	平均在院日数	12.8 日	14.1 日	90.8%	12.4 日	103.2%
同上	(単位：日)																								
病院名	平成 30 年 度実績	令和 2 年 度目標																							
こども	14.3	14.1																							
項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																				
平均在院日数	12.8 日	14.1 日	90.8%	12.4 日	103.2%																				
23	<table><tr><td colspan="3">【病床利用率】 (単位：%)</td></tr><tr><td>病院名</td><td>平成 30 年 度実績</td><td>令和 2 年 度目標</td></tr><tr><td>信 州</td><td>81.2</td><td>82.0</td></tr></table> (注 1) 信州医療センターは、運用病床（平成 30 年 12 月から 215 床）での利用率 ※地域包括ケア病床（平成 31 年 1 月から 49 床）、結核病床（24 床）及び感染症病床（4 床）は除く	【病床利用率】 (単位：%)			病院名	平成 30 年 度実績	令和 2 年 度目標	信 州	81.2	82.0	信州	B	<table><tr><td>項 目</td><td>実 績</td><td>年度目標</td><td>対目標比</td><td>前年度実績</td><td>対前年度比</td></tr><tr><td>病床利用率</td><td>68.7%</td><td>82.0%</td><td>83.8%</td><td>79.9%</td><td>86.0%</td></tr></table> ・日本病院会等が行った新型コロナウイルス感染拡大による病院経営状況の調査第 2 四半期までのデータによると一般病棟で前年比88%、地域包括ケア病棟で前年比94%と結果があり、全国の傾向と同程度となっている。	項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	病床利用率	68.7%	82.0%	83.8%	79.9%	86.0%
【病床利用率】 (単位：%)																									
病院名	平成 30 年 度実績	令和 2 年 度目標																							
信 州	81.2	82.0																							
項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																				
病床利用率	68.7%	82.0%	83.8%	79.9%	86.0%																				
24	<table><tr><td>同上</td><td colspan="2">(単位：%)</td></tr><tr><td>病院名</td><td>平成 30 年 度実績</td><td>令和 2 年 度目標</td></tr><tr><td>駒ヶ根</td><td>78.5</td><td>80.0</td></tr></table> (注 2) こころの医療センター駒ヶ根は、許可病床 129 床での利用率	同上	(単位：%)		病院名	平成 30 年 度実績	令和 2 年 度目標	駒ヶ根	78.5	80.0	駒ヶ根	B	<table><tr><td>項 目</td><td>実 績</td><td>年度目標</td><td>対目標比</td><td>前年度実績</td><td>対前年度比</td></tr><tr><td>病床利用率</td><td>72.8%</td><td>80.0%</td><td>91.0%</td><td>78.1%</td><td>93.2%</td></tr></table> ・新型コロナウイルス感染患者受入に備え、空床確保を行ったことや緊急事態宣言発令に伴い任意入院患者数が減少したことにより、病床利用率は低下した。	項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	病床利用率	72.8%	80.0%	91.0%	78.1%	93.2%
同上	(単位：%)																								
病院名	平成 30 年 度実績	令和 2 年 度目標																							
駒ヶ根	78.5	80.0																							
項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																				
病床利用率	72.8%	80.0%	91.0%	78.1%	93.2%																				

25	同上 (単位：%)		阿 南	C						
	病院名	平成 30 年 度実績	令和 2 年 度目標		項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比
	阿 南	60.4	70.0		病床利用率	54.3%	70.0%	77.6%	57.4%	94.6%
	(注 3) 阿南病院は、運用病床（平成 25 年 6 月から新病棟 85 床、平成 31 年 1 月から 77 床、令和 2 年 4 月から 70 床）での利用率				令和 2 年 4 月から運用病床数を 70 床とし、利用率の向上を目指したが、整形外科医が非常勤になったことや新型コロナウイルス感染症受け入れなどにより、思うように伸ばすことができなかった。					
26	同上 (単位：%)		木 曽	B						
	病院名	平成 30 年 度実績	令和 2 年 度目標		項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比
	木 曽	78.1	74.0		病床利用率	61.2%	74.0%	82.7%	69.4%	88.2%
	(注 4) 木曽病院は、運用病床（令和 2 年 3 月から 151 床）での利用率				新型コロナウイルス感染症患者受入れ用病棟として、地域包括ケア病棟の一部（4 階北病棟）を空床としたため、病床の利用率が減少した。					
27	同上 (単位：%)		こ ど も	B						
	病院名	平成 30 年 度実績	令和 2 年 度目標		項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比
	こども	78.0	76.8		病床利用率	69.2%	76.8%	90.1%	73.1%	94.7%
	(注 5) こども病院は、運用病床（平成 25 年 10 月から 180 床）での利用率				病床利用率は年度目標及び令和元年度実績ともに下回った。					

第3 予算（人件費の見積りを含む。）、収支計画及び資金計画

2 経営基盤の強化

(2) 費用の抑制

〔自己評定〕 A

〔自己評定の理由〕

新型コロナウイルス感染症の影響により厳しい運営状況ではあったが、引き続き、組織が一体となって必要な経営改善に取り組んだ。
 機構全体では、本部事務局及び各病院が連携し、下半期薬品費の価格交渉を実施したことにより、大幅な経費削減を実現した。
 また、各病院においても経費削減のための取組みを実施した。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績		
		病院	評定	取組結果及び取組の効果
第3 2(2) 1	診療材料や医薬品等の適切な管理により、コスト削減に努めるとともに、経営状況の分析を随時行い、費用対効果を意識した業務改善に積極的に取り組む。 【令和2年度に推進する事項】	信州	A	・ベンチマークシステムを活用し、診療材料費削減に努めるも手術材料費、新型コロナウイルス感染対策の材料費が増加した。 ・「収益増加・費用削減に関するプロジェクトチーム」を立ち上げ、各部署から様々な提案をとりまとめた「信州医療センター版SDGs」を策定し職員に周知することにより職員の費用削減に関する意識が向上した。 ・医薬品費、診療材料費の削減に継続的に取り組むとともに経費削減を徹底した。

	・ベンチマークシステムを活用した医療器械・診療材料・医薬品の費用削減															
2	同上	駒ヶ根	A	・新型コロナウイルス感染症蔓延に伴う研修のオンライン化により、旅費等研修費が減少した。 ・有期雇用職員には超過勤務命令を行わないことを原則とし、各セクションにて業務内容の現状分析と改善を行い、超過勤務手当の削減を図った。 <table><tr><td>項 目</td><td>実 績</td><td>前年度実績</td><td>前年度との差</td><td>対前年度比</td></tr><tr><td>超過勤務手当額</td><td>171千円</td><td>454千円</td><td>△283千円</td><td>37.7%</td></tr></table>	項 目	実 績	前年度実績	前年度との差	対前年度比	超過勤務手当額	171千円	454千円	△283千円	37.7%		
項 目	実 績	前年度実績	前年度との差	対前年度比												
超過勤務手当額	171千円	454千円	△283千円	37.7%												
3	同上	阿南	A	・光熱水費の執行状況の周知、照明のLED化による省エネ対策を計画的に実施した。 ・事務部内で経費削減の取組みを開始し、病院敷地の借上げ方法の見直し、老朽化した医師住宅の解体撤去を実施した。												
4	同上	木曾	A	・クレジットカード支払い手数料を他病院と同じ割合まで下げるよう交渉し、削減した。 ・物品購入等を総合的に管理するための物品在庫管理システムの導入を検討した。 ・経営状況表及び時間当り採算表の数値の分析結果を経営改善ニュースにより運営委員会で周知するとともに、部門ごとの経費の明細を確認し、経費削減を働きかけた。												
5	同上	こども	A	<table><tr><td>項 目</td><td>削減額（実績）</td></tr><tr><td>診療材料費（薬品費除く）</td><td>3,397,977円</td></tr><tr><td>消耗品費</td><td>731,046円</td></tr><tr><td>給食材料費</td><td>624,259円</td></tr><tr><td>修繕費</td><td>946,798円</td></tr><tr><td>委託費</td><td>11,298,381円</td></tr></table> ・診療材料については同種同等品への積極的な切り替えを実施し購入金額の削減に努めた。 ・委託料については、仕様書の内容を再確認の上価格交渉を実施し、契約金額の削減	項 目	削減額（実績）	診療材料費（薬品費除く）	3,397,977円	消耗品費	731,046円	給食材料費	624,259円	修繕費	946,798円	委託費	11,298,381円
項 目	削減額（実績）															
診療材料費（薬品費除く）	3,397,977円															
消耗品費	731,046円															
給食材料費	624,259円															
修繕費	946,798円															
委託費	11,298,381円															

				に取り組んだ。修繕については、修繕内容（材質変更、工程変更等）を精査することで、コスト削減を図った。																												
6	同上	本部	S	・理事会や院長会議等において、前月の経営状況について報告し、機構内で情報共有を行った。 ・医薬品費の削減 機構全体の経費削減のため、コンサルを活用し、各病院薬剤部長等と連携した下半期医薬品の価格交渉を実施した。対前年度の薬価差益が3,668万円の増となった。 【薬価差益（薬価－（購入価×消費税）比較）】 <table><tr><th>施設名</th><th>下半期 薬価差益の計a</th><th>前年度下半期 薬価差益の計b</th><th>薬価差益 増加分a-b</th></tr><tr><td>信州医療センター</td><td>29,417千円</td><td>14,037千円</td><td>15,380千円</td></tr><tr><td>こころの医療センター駒ヶ根</td><td>2,820千円</td><td>1,682千円</td><td>1,138千円</td></tr><tr><td>阿南病院</td><td>3,793千円</td><td>2,198千円</td><td>1,595千円</td></tr><tr><td>木曽病院</td><td>17,287千円</td><td>7,859千円</td><td>9,428千円</td></tr><tr><td>こども病院</td><td>16,101千円</td><td>6,962千円</td><td>9,139千円</td></tr><tr><td>計</td><td>69,418千円</td><td>32,738千円</td><td>36,680千円</td></tr></table> ・診療材料費の削減 コンサル活用による診療材料購入に係る費用削減等の検討を開始した。 ・電気料の削減 機構全体の電気供給契約について、基本料金法人割引の見直し等により下半期の電気料を対前年で2,151万円削減した。	施設名	下半期 薬価差益の計a	前年度下半期 薬価差益の計b	薬価差益 増加分a-b	信州医療センター	29,417千円	14,037千円	15,380千円	こころの医療センター駒ヶ根	2,820千円	1,682千円	1,138千円	阿南病院	3,793千円	2,198千円	1,595千円	木曽病院	17,287千円	7,859千円	9,428千円	こども病院	16,101千円	6,962千円	9,139千円	計	69,418千円	32,738千円	36,680千円
施設名	下半期 薬価差益の計a	前年度下半期 薬価差益の計b	薬価差益 増加分a-b																													
信州医療センター	29,417千円	14,037千円	15,380千円																													
こころの医療センター駒ヶ根	2,820千円	1,682千円	1,138千円																													
阿南病院	3,793千円	2,198千円	1,595千円																													
木曽病院	17,287千円	7,859千円	9,428千円																													
こども病院	16,101千円	6,962千円	9,139千円																													
計	69,418千円	32,738千円	36,680千円																													

				【電気料金（病院本体分）比較】							
				施設名	下半期電気料a	前年度 下半期電気料b	削減額b-a				
				信州医療センター	33,444千円	38,528千円	5,084千円				
				こころの医療センター駒ヶ根	12,078千円	13,397千円	1,319千円				
				阿南病院	13,038千円	14,041千円	1,003千円				
				木曽病院	25,432千円	30,309千円	4,877千円				
				こども病院	40,582千円	49,809千円	9,227千円				
				計	124,574千円	146,084千円	21,510千円				
7	【医療材料費／医業収益比率】 (税抜、単位：％)			信州	B						
	病院名	平成30年度実績	令和2年度目標			項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比
	信 州	24.3	25.6			医療材料費／ 医業収益比率	28.9%	25.6%	112.9%	27.4%	105.8%
						・新型コロナウイルス感染症の発生に伴い防護服類、消毒関係、その他医療材料の使用量が通常期に比べ増加したことに加え、医療材料の高騰により材料費が増加し、目標比、前年比でともに悪化した。					
8	同上 (税抜、単位：％)			駒ヶ根	B						
	病院名	平成30年度実績	令和2年度目標			項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比
	駒ヶ根	5.7	6.1			医療材料費／ 医業収益比率	6.4%	6.1%	104.9%	5.9%	108.5%
						・新型コロナウイルス感染症の影響で入院収益を中心に医業収益が減額したことにより、目標比、前年度比ともに上昇した。					

9	同上 (税抜、単位：％)			阿南	B						
	病院名	平成 30 年 度実績	令和 2 年度 目標			項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比
	阿 南	15.5	16.3			医療材料費／ 医業収益比率	16.4%	16.3%	100.6%	16.1%	101.9%
	・新型コロナウイルス感染症の発生に伴い、検査等に係る試薬や個人防護具類、消毒類等の感染予防対策に係る医療材料の購入増により、目標を上回った。										
10	同上 (税抜、単位：％)			木曾	B						
	病院名	平成 30 年 度実績	令和 2 年度 目標			項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対目標比
	木 曾	22.4	22.4			医療材料費／ 医業収益比率	22.9%	22.4%	102.2%	21.4%	107.0%
	・新型コロナウイルス感染症の影響により患者数が減少したため、医業収益が減少したこと及びがん治療薬等高額な医薬品の使用増、監査試薬の購入により医療材料費が増加したことにより、比率は目標を上回った。										
11	同上 (税抜、単位：％)			こども	B						
	病院名	平成 30 年 度実績	令和 2 年度 目標			項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比
	こども	21.3	20.9			医療材料費／ 医業収益比率	23.4%	20.9%	112.0%	21.9%	106.8%
	・購入費用の削減に積極的に取り組んだが、新型コロナウイルス感染症対策として必要な P P E の調達コストが大幅に増加したほか、医療安全を推進するために一部材料をディスプレイ化したことなどにより購入費用が増額した。また、患者数減少による医業収益の大幅な減収も相まって比率は悪化した。										

12	【ジェネリック医薬品使用割合（院内）】 (単位：%) <table><tr><td>病院名</td><td>平成 30 年 度実績</td><td>令和 2 年度 目標</td></tr><tr><td>信 州</td><td>90.0</td><td>90.0</td></tr></table>	病院名	平成 30 年 度実績	令和 2 年度 目標	信 州	90.0	90.0	信 州	A	<table><tr><td>項 目</td><td>実 績</td><td>年度目標</td><td>対目標比</td><td>前年度実績</td><td>対前年度比</td></tr><tr><td>ジェネリック医薬 品使用割合（院内）</td><td>90.5%</td><td>90.0%</td><td>100.6%</td><td>91.7%</td><td>98.7%</td></tr></table> ・製薬会社からの供給停止等、安定的な調達ができない医薬品があり、先発品に切り替えざるを得ないものがあったが、目標は達成した。	項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	ジェネリック医薬 品使用割合（院内）	90.5%	90.0%	100.6%	91.7%	98.7%
病院名	平成 30 年 度実績	令和 2 年度 目標																				
信 州	90.0	90.0																				
項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																	
ジェネリック医薬 品使用割合（院内）	90.5%	90.0%	100.6%	91.7%	98.7%																	
13	同上 (単位：%) <table><tr><td>病院名</td><td>平成 30 年 度実績</td><td>令和 2 年度 目標</td></tr><tr><td>駒ヶ根</td><td>84.1</td><td>85.0</td></tr></table>	病院名	平成 30 年 度実績	令和 2 年度 目標	駒ヶ根	84.1	85.0	駒 ヶ 根	A	<table><tr><td>項 目</td><td>実 績</td><td>年度目標</td><td>対目標比</td><td>前年度実績</td><td>対前年度比</td></tr><tr><td>ジェネリック医薬 品使用割合（院内）</td><td>90.1%</td><td>85.0%</td><td>106.0%</td><td>88.3%</td><td>102.0%</td></tr></table> ・薬事委員会等において、使用数量の多い薬剤を中心にジェネリック医薬品への切り替えを推進した。	項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	ジェネリック医薬 品使用割合（院内）	90.1%	85.0%	106.0%	88.3%	102.0%
病院名	平成 30 年 度実績	令和 2 年度 目標																				
駒ヶ根	84.1	85.0																				
項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																	
ジェネリック医薬 品使用割合（院内）	90.1%	85.0%	106.0%	88.3%	102.0%																	
14	同上 (単位：%) <table><tr><td>病院名</td><td>平成 30 年 度実績</td><td>令和 2 年度 目標</td></tr><tr><td>阿 南</td><td>86.2</td><td>88.0</td></tr></table>	病院名	平成 30 年 度実績	令和 2 年度 目標	阿 南	86.2	88.0	阿 南	B	<table><tr><td>項 目</td><td>実 績</td><td>年度目標</td><td>対目標比</td><td>前年度実績</td><td>対前年度比</td></tr><tr><td>ジェネリック医薬 品使用割合（院内）</td><td>86.0%</td><td>88.0%</td><td>97.7%</td><td>86.7%</td><td>99.2%</td></tr></table> ・ジェネリック医薬品の採用を342品目と前年から44品目増やすことができた。後発医薬品使用率は85%を維持したが、年度末では85%を下回り加算Ⅱとなった。しかし、年度累計では86.0%と高い水準を維持することができた。	項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	ジェネリック医薬 品使用割合（院内）	86.0%	88.0%	97.7%	86.7%	99.2%
病院名	平成 30 年 度実績	令和 2 年度 目標																				
阿 南	86.2	88.0																				
項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																	
ジェネリック医薬 品使用割合（院内）	86.0%	88.0%	97.7%	86.7%	99.2%																	

15	同上 (単位：%)		木 曾	B						
	病院名	平成 30 年 度実績			項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比
	木 曾	82.4			ジェネリック医薬 品使用割合 (院内)	84.9%	85.0%	99.9%	81.9%	103.7%
					・後発医薬品への切替えを推進するため、「後発医薬品への切り替え基本方針」を策定し、 それに基づき切替えを行った。使用量の多い医薬品を優先的に切替えた結果、後発医薬 品使用割合が前年度より3.0%増加し、84.9%となった。					
16	同上 (単位：%)		こ ど も	A						
	病院名	平成 30 年 度実績			項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比
	こども	86.5			ジェネリック医薬 品使用割合 (院内)	89.5%	85.0%	105.3%	88.6%	101.0%

第4 その他業務運営に関する事項

1 コンプライアンスの推進と適切な情報管理

〔自己評定〕 A

〔自己評定の理由〕

機構本部と各病院等が連携し、全職員を対象としたコンプライアンスに関する研修を実施した。

また、県の個人情報保護条例及び情報公開条例に基づき適切な情報管理を行うとともに、情報セキュリティ及び個人情報保護に関する研修を実施し、個人情報の適切な取扱いを推進した。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績		
		病院	評定	取組結果及び取組の効果
第4 1 1	各種研修会等の開催により、法人内のコンプライアンス（法令等を遵守するとともに社会規範を尊重して行動すること）の強化を図るとともに、内部統制委員会及びリスク管理委員会の活動を通じて内部統制等の評価・検証を行い適切な業務運営を行う。 長野県個人情報保護条例や長野県情報公開条例等に基づき、保有する個人情報の適切な情報管理と情報セキュリティ対策を講じるととも	信州	A	・新任職員へのオリエンテーションにおいて、個人情報の取扱いや情報セキュリティについての研修を実施した。 ・全職員を対象に情報セキュリティ研修を実施し、職員の知識及び意識の向上を図った。また、受講後に確認テストを実施した。

	に、定期的な研修会等により、職員の理解を深める。			
2	同上	駒ヶ根	A	・新規採用職員、転入職員へのオリエンテーションで個人情報の適正な取扱い、情報基盤ネットワークの適切な運用及び情報セキュリティに関する知識の習得を図るため研修を実施した。 ・情報セキュリティ研修を委託職員含め160人が受講し、職員の情報セキュリティに関する意識の向上を図った。
3	同上	阿南	A	・4月に新規入職者向けの研修会を開催し、電子カルテの院内管理運用規程とセキュリティ遵守のための具体的遵守事項を説明した。 ・3月に機構本部主催の情報セキュリティ研修会（e-ラーニング）を実施した。 （受講対象者 98人、受講者 91人）（委託職員を含む全職員190人中、122人が実施）
4	同上	木曾	A	・新規採用職員、転入職員へのオリエンテーションで情報漏洩リスク及びその対策、個人情報の適正な管理等について説明した。 ・情報セキュリティ研修会を年1回開催し受講対象者240名中193名が受講した。
5	同上	こども	A	・4月に新規入職者へのオリエンテーションにおいて、個人情報保護及び医療情報の取り扱いについての研修を行った。 ・3月に、機構本部主催の情報セキュリティ研修会を実施した。
6	同上	本部	A	① 法人内のコンプライアンスの強化 ・法人内のコンプライアンスを強化するため、コンプライアンス、倫理及びハラスメントについてeラーニングによるコンプライアンス意識（パワハラ防止含む）推進強化運動を7～9月に実施（受講者881人） ② 内部統制等の評価・検証 ・内部統制を阻害するリスクに対応するため、内部統制委員会及びリスク管理委員会において159件についてリスクの特定と評価を実施し、41件の対応を決定 ③ 情報セキュリティ及び個人情報保護に関する研修

				・情報セキュリティ及び個人情報保護に関する研修会として、ナーシングスキルに研修資料等を掲載することにより、職員が受講しやすい環境を整え受講を促した。2年に1回は全職員の受講が必要なことから、受講確認のための確認テストも行った。
--	--	--	--	---

第4 その他業務運営に関する事項

2 施設整備及び医療機器に関する事項

〔自己評定〕 A

〔自己評定の理由〕

医療機器については、新型コロナウイルス感染症対応のための検査機器等必要な機器が増加したが、各病院の医療機器購入検討委員会等や高額機器については機構全体の医療技術部長らで構成する医療器械等審査部会で検討を行い、適正な購入に努めた。また、新型コロナウイルス感染症対応に係る機器については、出来る限り補助金を活用した。

また、施設改修についても引き続き医療需要や費用対効果を勘案し計画的に実施した。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績		
		病院	評定	取組結果及び取組の効果
第4 2 1	地域の医療需要や費用対効果等を総合的に勘案し、中長期的な視野に立って、施設及び医療機器の整備を計画的に実施する。 相当の年数が経過した施設については、長寿命化を図るために必要な大規模改修を、県と連携して進める。 【施設及び設備の整備に関する計画】	信州	A	・耐用年数を超過した施設及び医療機器について計画的に更新を図った。 ・新型コロナウイルス関連の補助金を利用し、CT撮影装置や感染症病棟の生体情報システム等を整備し指定感染症医療機関としての機能向上に努めた。 ※全自動化学発光酵素免疫測定装置、超音波画像診断装置、血液浄化装置、人工呼吸器、除細動器、医療用シェルター等の調達

	施設・設備の内容	予定額	財源			
	施設及び医療機器等整備	総額 2,424 百万円	長野県長期借入金等			
	施設等の整備に当たっては、県の気候非常事態宣言を踏まえ、二酸化炭素（CO ₂ ）排出量の削減に取り組む。					
2	同上			駒ヶ根	A	・医療機器の購入要望に対し、院内の幹部会により内容を精査し、保守点検可能な機器等の先送りを決定した。 ・新型コロナウイルス関連の緊急性の高い購入においても、価格競争を重視した契約となるよう努めた。 ・患者の利便性及び収益向上を図るため、m-ECTセンター化工事に着手した。（令和3年12月に竣工予定）
3	同上			阿南	A	・新型コロナウイルス感染者受入れのため、「医療用シェルター」「全自動遺伝子解析装置」等を購入し対応に努めた。 ・医療機器の更新については、各セクションからヒアリングを実施し、医療機器等購入調整委員会を、必要に応じて開催し、更新機器の購入を審査決定した。また、修理不能で急遽更新が必要となった機器については、計画の前倒しで調整し購入した。 ・2年度は、8年が経過していた電子カルテシステムの更新、「一般撮影CRシステム」「全自動血球分析装置」等医療機器について、複数業者による競争を意識した公告、入札により費用の削減を図り、効率的な購入を実施した。
4	同上			木曽	A	・第3期中期計画に基づき、優先度を考慮しながら「院内監視カメラ設置工事」「エントランスホール相談室整備」「歯科診療室整備」「地下水浄化設備の整備」「リハビリテーション技術科休憩室の整備」を行った。
5	同上			こ	A	・第3期中期計画に基づき、「南棟非常用発電設備整備」、「検査科空調配管改修工事」（令

		ども		和3年5月竣工)、「南棟ターボ式冷凍機更新」(令和3年5月竣工)といった、老朽化した設備の保全・更新を行った。 ・翌年度分の医療機器の購入について、95品目の購入希望に対して、院長ヒアリングを行うとともに、医療機器等購入委員会において必要性及び緊急性を精査し、43品目に絞り込みを行った。 ・高額医療機器については、計画的に購入するため、今後5年間の計画を作成した。 ・新型コロナウイルス感染症患者の受入体制強化のため、新型コロナウイルス関連補助金を活用し、エクモ等82台を購入した。
6	同上	本部	A	・機構全体の施設及び医療機器等整備については、予定総額2,424百万円のところ、翌年度に工期を延長した施設改修等があったが、新型コロナウイルス感染症に係る医療機器等の購入が増加したことにより、1,525百万円となった。 ・1件あたり300万円以上の医療機器等の購入については、各病院の医療技術部長と事務部担当者による医療器械等審査部会を開催し、機構全体で検討を行った。 開催回数：26回（臨時開催含む） 審査件数：39件（うち、新型コロナ関係24件）